

静岡県埋蔵文化財センター調査報告 第30集

淵ヶ沢遺跡

第二東名No.27-1地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

沼津市-11

(第1分冊)

2013

中日本高速道路株式会社東京支社
静岡県埋蔵文化財センター

序

澗ヶ沢遺跡は、静岡県沼津市根古屋字鎌ヶ沢、鎌沢、西野字霞外に所在する旧石器から縄文時代を中心とした遺跡です。

本遺跡が所在する愛鷹南麓は、旧石器時代から縄文時代の遺跡が密集する地域として知られています。第二東名高速道路は、この愛鷹南麓を東西に走る高規格幹線道路で、その建設工事に先立ち、数多くの遺跡が発掘調査されました。

澗ヶ沢遺跡は、中断期間を含めて、平成11年度から20年度の10年間にわたってのべ4万㎡を超える面積で発掘調査が実施されてきました。その結果、後期旧石器時代から縄文時代及び弥生時代以降の遺構・遺物が発見されました。

本遺跡からは愛鷹山麓最古級のナイフ形石器が出土するなど、本地域における当該期の歴史を理解する上で貴重な資料を提供しています。

本書が研究者のみならず、県民の皆様に広く活用され、地域の歴史を理解する一助となることを願います。最後になりましたが、現地調査及び資料整理、並びに本書の作成にあたり、中日本高速道路株式会社ほか、各関係機関の御援助、御理解をいただきました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。

2013年3月

静岡県埋蔵文化財センター

勝 田 順 也

例 言

- 1 本書は静岡県沼津市根古屋^{しずおかひのまづし}鎌ヶ沢^{かまがさわ}、鎌沢^{かまがさわ}、西野^{にし}字^{のあざ}霞外^{かすみ}に所在する^{しずおかひのまづし} 刈ヶ沢遺跡^{かりがさわいせき}（第二東名No.27-1地点）の調査報告書である。なお、本書は第1分冊と第2分冊によって構成されており、本冊はその第1分冊である。
- 2 調査は第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団静岡建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課（旧静岡県教育委員会文化課）の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施し、平成23年度以降は、静岡県埋蔵文化財センターが同研究所の業務を引き継いで実施した。
- 3 刈ヶ沢遺跡の確認調査・本調査および資料整理の期間は以下のとおりである。

確認調査その1	平成11年9月～11月	実掘面積511㎡
確認調査その2	平成12年8月～9月	実掘面積1,271㎡
確認調査その3	平成14年8月～10月	実掘面積342㎡
本調査Ⅰ期	平成11年11月～平成12年8月	実掘面積7,920㎡
本調査Ⅱ期	平成12年10月～平成13年3月	実掘面積7,167㎡
本調査Ⅲ期	平成13年4月～平成14年3月	実掘面積17,712㎡
本調査Ⅳ期	平成14年8月～平成15年3月	実掘面積5,598㎡
本調査Ⅴ期	平成15年4月～8月	実掘面積1,529㎡
本調査Ⅵ期	平成20年7月～10月	実掘面積601㎡
資料整理・報告書作成	平成22年5月～平成25年3月	

- 4 調査体制は以下の通りである。

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

平成11年度（確認調査その1・本調査Ⅰ期）

所長 齋藤 忠	副所長 山下 晃	総務部長兼常務理事 伊藤友雄
総務課長 杉木敏雄	経理専門員 稲葉保幸	総務係長 田中雅代
会計係長 大橋 薫	調査研究部長 佐藤達雄	調査研究部次長 佐野五十三
調査研究一課長 及川 司	調査研究二課長 遠藤喜和	資料課長 大石 泉
主任調査研究員 前嶋秀張	調査研究員 鈴木武幸 岩本 貴	

平成12年度（確認調査その2・本調査Ⅱ期）

所長 齋藤 忠	副所長 山下 晃	総務部長兼常務理事 伊藤友雄
総務課長 杉木敏雄	経理専門員 稲葉保幸	総務係長 田中雅代
会計係長 大橋 薫	調査研究部長 佐藤達雄	
調査研究部次長兼調査研究一課長 及川 司		調査研究二課長 篠原修二
資料課長 大石 泉	主任調査研究員 前嶋秀張	調査研究員 岩本 貴

平成13年度（本調査Ⅲ期）

所長兼副理事長 齋藤 忠	副所長兼理事 山下 晃	総務部長兼常務理事 桑田徳幸
総務課長 本杉昭一	経理専門員 稲葉保幸	総務係長 山本広子
会計係長 大橋 薫	調査研究部長 佐藤達雄	
調査研究部次長兼資料課長 栗野克己		保存処理室長 西尾太加二
調査研究部次長兼調査研究一課長 及川 司		調査研究二課長 篠原修二

調査研究三課長 飯塚晴夫 主任調査研究員 前嶋秀張 笹原芳郎

調査研究員 小川伸吾 中村雅昭

平成14年度（確認調査その3・本調査Ⅳ期）

所長兼副理事長 斎藤 忠 副所長兼理事 飯田英夫 総務部長兼常務理事 桑田徳幸

総務課長 本杉昭一 経理専門員 稲葉保幸 総務係長 山本広子

会計係長 大橋 薫 調査研究部長 山本昇平

調査研究部次長兼資料課長 栗野克己 保存処理室長 西尾太加二

調査研究部次長兼調査研究一課長 中嶋郁夫

調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十三 調査研究三課長 篠原修二

調査研究四課長 足立順司 主任調査研究員 前嶋秀張 笹原芳郎

調査研究員 小川伸吾

平成15年度（本調査Ⅴ期）

所長兼副理事長 斎藤 忠 副所長兼理事 飯田英夫 総務部長兼常務理事 桑田徳幸

総務部次長兼総務課長 鎌田英巳 経理専門員 稲葉保幸

総務係長 山本広子 会計係長 野島尚紀 調査研究部長 山本昇平

調査研究部次長兼資料課長 栗野克己 保存処理室長 西尾太加二

調査研究部次長兼調査研究一課長 中嶋郁夫

調査研究部次長兼調査研究二課長 佐野五十三 調査研究三課長 足立順司

主任調査研究員 前嶋秀張 調査研究員 笹原芳郎 木崎道昭 野田正人

平成20年度（本調査Ⅵ期）

所長兼常務理事 清水 哲 次長兼総務課長 大場正夫 総務係長 山内小百合

会計係長 杉山和枝 次長兼調査課長 及川 司 次長兼事業係長 稲葉保幸

保存処理室長 西尾太加二 東部総括係長 中鉢賢治 東部調査係長 笹原千賀子

中部調査係長 河合 修 西部調査係長 富樫孝志 調査研究員 木崎道昭 薬料泰裕

平成22年度（資料整理）

所長兼常務理事 石田 彰 次長兼総務課長 松村 享 専門監兼事業係長 稲葉保幸

総務係長 瀧みやこ 調査課長 中鉢賢治 調査第一係長 勝又直人

調査第二係長 岩本 貴 調査第三係長 溝口彰啓 調査第四係長 富樫孝志

常勤嘱託員 柴田亮平

静岡県埋蔵文化財センター

平成23年度（資料整理）

所長 勝田順也 次長兼総務課長 八木利真 主幹兼事業係長 村松弘文

総務係長 瀧みやこ 調査課長 中鉢賢治 主幹兼調査第一係長 富樫孝志

調査第二係長 溝口彰啓 常勤嘱託員 木村忠義

平成24年度（資料整理）

所長兼常務理事 勝田順也 次長兼総務課長 八木利真 主幹兼事業係長 前田雅人

総務係長 瀧みやこ 調査課長 中鉢賢治 主幹兼調査第一係長 富樫孝志

調査第二係長 溝口彰啓 主査 岩本 貴

5 本書の執筆分担は以下の通りである。

第1章、第2章 第1節・第2節 柴田亮平

第2章 第3節、第4章、 木村忠義

第3章 岩本 貴

- 6 本書の編集は静岡県埋蔵文化財センターが行った。
7 現地調査で実施した委託事項および委託先は下記のとおりである。

掘削業務

確認調査その2	株式会社川村組
確認調査その3	株式会社川村組
本調査Ⅰ期	拓和産業株式会社
本調査Ⅱ期	拓和産業株式会社
本調査Ⅲ期	株式会社川村組
本調査Ⅳ期	株式会社川村組
本調査Ⅴ期	株式会社植松建設
本調査Ⅵ期	株式会社植松建設

測量・遺構実測業務

確認調査その1	株式会社パスコ
確認調査その2	株式会社パスコ
確認調査その3	株式会社パスコ
本調査Ⅰ期	株式会社パスコ
本調査Ⅱ期	株式会社パスコ
本調査Ⅲ期	株式会社パスコ
本調査Ⅳ期	株式会社パスコ
本調査Ⅴ期	株式会社パスコ
本調査Ⅵ期	株式会社イビソク

石器実測業務の一部 株式会社ラング

整理作業・保存処理 株式会社パソナ

- 8 発掘調査及び整理作業では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げます。
安斎正人 安森政雄 池谷信之 稲田孝司 上杉 陽 上本進二 加藤賢二 小崎 晋
笹原芳郎 佐藤明生 佐藤宏之 下島健弘 鈴木敏中 瀬川裕市郎 高尾好之 千葉博俊
辻本崇夫 原田雄紀 廣瀬高文 藤嶽暢英 細野 衛 前嶋秀張 渡辺眞紀子
(五十音順・敬称略)
- 9 発掘調査の資料は、すべて静岡県埋蔵文化財センターが保管している。

凡 例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた遺構・遺物などの位置を示す座標は、すべて平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を基準とした。
- 2 調査区の方眼設定は、上記の国土座標をもとに以下を基準に設定した。
A-1 (X=-94, 380.00 Y=28, 180.00)
- 3 出土遺物は各層ごとに5桁の通し番号を付して取り上げ、土器P、石器S、礫R、炭化物Cの略号を付した。本文中の5桁の遺物番号は、現場での取り上げ番号をそのまま使用した。
- 4 出土遺物の縮尺は原則として土器は1/2、1/3、石器は小型石器を4/5、大型石器を1/2、1/3、1/5として、それぞれスケールを付した。挿図の縮尺は各図に示す通りである。
- 5 色彩に関する用語・記号は、新版「標準土色帳」（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。
- 6 土層名は第2章 第3節の基本土層図（第4図）に表示した名称を用いる。
- 7 第2章 第2節の周辺の主要遺跡（第3図）は国土地理院発行1：50,000地形図「沼津」を複写し加工・加筆した。
- 8 本文中の遺構に関する表記は以下の通りである。
SP：土坑/小穴 SBL：石器ブロック RG：礫群 FP：焼土 SB：竪穴住居跡/竪穴状遺構
SD：溝状遺構 SY：集石
- 9 石器の石材分類は、(尙考古石材研究所の柴田徹氏と山本薫氏による石材標準資料を用いて、静岡県県埋蔵文化財調査研究所常動嘱託員 柴田亮平、整理作業員 森嶋富士夫（いずれも当時所属）が実施した。
- 10 黒曜石の産地判別群は独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授望月明彦氏のカテゴリによるものである。判別群の略号は次のとおりである。

長 野	諏訪屋ヶ台群	SWHD	長 野	和田小深沢群	WDKB
	蓼科冷山群	TSTY		和田芙蓉ライト群	WDHY
	蓼科双子山群	TSHG		和田高松沢群	WOTM
	和田鷹山群	WDTY	神奈川	天城柏峠群	AGKT
	和田土屋橋北群	WDTK		箱根畑宿群	HNHJ
	和田土田橋南群	WDTM		箱根黒岩橋群	HNKI
	和田土屋橋西群	WDTN		東京	神津島恩馳島群

なお、風化や大きさ等の関係で判別ができなかった資料は「不可等」とする。

- 11 石器の観察にあたり、実測図中の記号及び表現は次のとおりである。

	新しい欠損		敲打痕の範囲	—	推定線
	節理面		磨りの範囲		

- 12 本文中・挿図中・挿表中の石材の略号は以下の表のとおりである。

石材一覧

和名	英名	標準資料 略号	和名	英名	標準資料 略号
玄武岩	basalt	Ba	花崗岩	granite	Gr
多孔質玄武岩	vesicular basalt	VBa	ホルンフェルス	hornfels	Hor
粗粒玄武岩	dolerite	Do	凝灰岩	tuff	Tu
スコリア質玄武岩	basalt(scoria)	Ba(Scr)	凝灰岩(細粒)	fine-grained tuff	FT
ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAn	硬質細粒凝灰岩	hard fine-grained tuff	HFT
細粒安山岩	fine-grained andesite	FAn	火山礫凝灰岩	lapilli tuff	LT
安山岩	andesite	An	頁岩	shale	Sh
輝石安山岩	pyroxene andesite	An(Py)	赤色頁岩	red shale	Sh(Re)
角閃石安山岩	hornblende andesite	An(Ho)	珪質頁岩	siliceous shale	SSh
多孔質安山岩	vesicular andesite	VAn	珪質頁岩(灰色)	gray siliceous shale	SSh(Gy)
デイサイト	dacite	Da	珪質頁岩(黒色)	black siliceous shale	SSh(BI)
流紋岩	rhyolite	Rhy	珪質頁岩(暗灰色)	drak gray siliceous shale	SSh(DG)
黒曜石	obsidian	Ob	硬質頁岩	hard shale	HS
アプライト	aplite	Ap	粘板岩	slate	SI
輝緑岩	diabase	Dia	珪質粘板岩	siliceous slate	SSI
ひん岩	porphyry	Po	砂岩	sandstone	SS
閃緑岩	diorite	Di	砂岩(細粒)	fine-grained sandstone	FSS
スコリア	scoria	Scr	砂岩(中粒)	medium-grained sandstone	MSS
レキ岩	conglomerate	Con	砂岩(粗粒)	course-grained sandstone	CSS
細レキ岩	granule conglomerate	GC	硬質砂岩	hard sandstone	HSS
斑レイ岩	gabbro	Ga	チャート	chert	Ch
細粒斑レイ岩	fine-grained gabbro	FG	チャート(赤色)	red chert	Ch(Re)
玉髓	chalcedony	Cha	チャート(灰白色)	gray white chert	Ch(GW)
水晶	rock crystal	RC	チャート(暗灰色)	dark gray chert	Ch(DG)
石英	quartz	Qt	チャート(黒色)	black chert	Ch(BI)
石英閃緑岩	quartz diorite	QD	チャート(灰色)	gray chert	Ch(Gy)
石英斑岩	quartz porphyry	QP	瑪瑙	agate	Ag
軽石	pumice	Pm	黄玉石	yellow jasper	Yja
石英岩	silexite	Si	赤玉石	red jasper	RJa
角閃石片岩	amphibole schist	AS	下呂石	gro stone	GRS

- 13 本文中の礫赤化を示す記号は次のとおりである。

記号	赤化の状態
A	非赤化完形礫
B	非赤化破損礫
C	赤化完形礫
D	全赤化破損礫
E	割れ面非赤化礫

目 次

序／例言／凡例

第1章 調査に至る経緯

- 第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯 1
第2節 調査の方法と経過 2

第2章 遺跡の概要

- 第1節 地理的環境 7
第2節 歴史的環境 7
第3節 基本層序 11

第3章 旧石器時代

- 第1節 遺構・遺物の概要 17
第2節 第Ⅰ文化層 17
第3節 第Ⅱ文化層 20
第4節 第Ⅲ文化層 65
第5節 第Ⅳ文化層 125

第4章 縄文時代

- 第1節 遺構 159
第2節 遺物 197

挿 図 目 次

第2章

- 第1図 周辺地形と調査範囲 3
第2図 テストピット配置図 5
第3図 周辺の主要遺跡 8
第4図 基本土層図 11
第5図 土層堆積状況図1 14
第6図 土層堆積状況図2 15

第3章

- 第7図 第Ⅰ文化層 遺物分布図 18
第8図 第Ⅰ文化層 遺物分布図と
出土遺物 19
第9図 第Ⅱ文化層 遺構全体図 21
第10図 第Ⅱ文化層 遺物分布図 22
第11図 第Ⅱ文化層 土坑1 23

- 第12図 第Ⅱ文化層 土坑2 24
第13図 第Ⅱ文化層 土坑3 25
第14図 第Ⅱ文化層 土坑4 26
第15図 第Ⅱ文化層 土坑5 27
第16図 第Ⅱ文化層 8号石器ブロック 29
第17図 第Ⅱ文化層 8号石器ブロック
スクレイパー・石刃・
二次加工のある剥片・
使用痕のある剥片・石核 30
第18図 第Ⅱ文化層 8号石器ブロック
接合資料 31
第19図 第Ⅱ文化層 9号石器ブロック 32
第20図 第Ⅱ文化層 9号石器ブロック
石刃・使用痕のある剥片 33

第21図	第Ⅱ文化層	9号石器ブロック	接合資料1	34	第40図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料2	53
第22図	第Ⅱ文化層	9号石器ブロック	接合資料2	35	第41図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料3	54
第23図	第Ⅱ文化層	11号石器ブロック		36	第42図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料4	55
第24図	第Ⅱ文化層	11号石器ブロック	ナイフ形石器・ 二次加工のある剥片・	37	第43図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料5	56
第25図	第Ⅱ文化層	11号石器ブロック	接合資料	38	第44図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料6	57
第26図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料・台石	38	第45図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料7	58
第27図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック		40	第46図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料8	59
第28図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石器石材別分布1	41	第47図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料9	60
第29図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石器石材別分布2	42	第48図	第Ⅱ文化層	ナイフ形石器・石刃・ 二次加工のある剥片・剥片	61	64
第30図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石器石材別分布3	43	第49図	第Ⅲ文化層	遺構全体図	66	
第31図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石器石材別分布4	44	第50図	第Ⅲ文化層	遺物分布図	67	
第32図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	スクレイパー・楔形石器・ 両極剥片	45	第51図	第Ⅲ文化層	土坑1	68	
第33図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石刃	46	第52図	第Ⅲ文化層	土坑2	69	
第34図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	二次加工のある剥片・ 使用痕のある剥片・ スポール状剥片・ 石核稜付剥片	47	第53図	第Ⅲ文化層	2号石器ブロック	70	
第35図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石核1	48	第54図	第Ⅲ文化層	2号石器ブロック ナイフ形石器・グレイバー・ スクレイパー・石刃・石核	71	
第36図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石核2	49	第55図	第Ⅲ文化層	18号石器ブロック	73	
第37図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	石核3	50	第56図	第Ⅲ文化層	18号石器ブロック1 ナイフ形石器・尖頭器・ グレイバー・スクレイパー・ 石刃	74	
第38図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	剥片	51	第57図	第Ⅲ文化層	18号石器ブロック2 二次加工のある剥片・ 使用痕のある剥片・剥片	75	
第39図	第Ⅱ文化層	14号石器ブロック	接合資料1	52	第58図	第Ⅲ文化層	19号石器ブロック	77	
					第59図	第Ⅲ文化層	19号石器ブロック1 ナイフ形石器・スクレイパー・ 楔形石器・石核	78	
					第60図	第Ⅲ文化層	19号石器ブロック2 台石	79	

第61図	第Ⅲ文化層	礫群 1	81	第99図	第Ⅳ文化層	4号石器ブロック	
第62図	第Ⅲ文化層	礫群 2	82			出土遺物	127
第63図	第Ⅲ文化層	礫群 3	83	第100図	第Ⅳ文化層	出土遺物 1	128
第64図	第Ⅲ文化層	礫群 出土遺物	85	第101図	第Ⅳ文化層	出土遺物 2	129
第65図	第Ⅲ文化層	石器器種別分布 (全体)	87	第4章			
第66図	第Ⅲ文化層	石器器種別分布 1	88	第102図	縄文	遺構全体図	160
第67図	第Ⅲ文化層	石器器種別分布 2	89	第103図	縄文	遺構分布図	161
第68図	第Ⅲ文化層	石器器種別分布 3	90	第104図	縄文	3号竪穴住居跡	162
第69図	第Ⅲ文化層	石器器種別分布 4	91	第105図	縄文	1号竪穴状遺構	163
第70図	第Ⅲ文化層	石器器種別分布 5	92	第106図	縄文	土坑 1	165
第71図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 1	95	第107図	縄文	土坑 2	166
第72図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 2	96	第108図	縄文	土坑 3	168
第73図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 3	97	第109図	縄文	土坑 4	169
第74図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 4	99	第110図	縄文	土坑 5	170
第75図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 5	100	第111図	縄文	土坑 6	172
第76図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 6	101	第112図	縄文	土坑 7	173
第77図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 7	102	第113図	縄文	土坑 8	175
第78図	第Ⅲ文化層	ナイフ形石器 8	103	第114図	縄文	土坑 9	176
第79図	第Ⅲ文化層	尖頭器 1	105	第115図	縄文	土坑10	178
第80図	第Ⅲ文化層	尖頭器 2	106	第116図	縄文	土坑11	179
第81図	第Ⅲ文化層	尖頭器 3	108	第117図	縄文	土坑12	181
第82図	第Ⅲ文化層	尖頭器 4	109	第118図	縄文	土坑13	182
第83図	第Ⅲ文化層	スクレイパー 1	111	第119図	縄文	土坑14	183
第84図	第Ⅲ文化層	スクレイパー 2	112	第120図	縄文	焼土 1	186
第85図	第Ⅲ文化層	角錐状石器・石錐・ 楔形石器	113	第121図	縄文	焼土 2	187
第86図	第Ⅲ文化層	石刃 1	114	第122図	縄文	集石 1	190
第87図	第Ⅲ文化層	石刃 2	115	第123図	縄文	集石 2	191
第88図	第Ⅲ文化層	二次加工のある 剥片	116	第124図	縄文	集石 3	192
第89図	第Ⅲ文化層	使用痕のある剥片	117	第125図	縄文	集石 4	193
第90図	第Ⅲ文化層	石核 1	118	第126図	縄文	集石 5	194
第91図	第Ⅲ文化層	石核 2	119	第127図	縄文	集石 6	195
第92図	第Ⅲ文化層	石核 3	120	第128図	縄文	土器分類別分布 I群A類	198
第93図	第Ⅲ文化層	石核 4	121	第129図	縄文	土器分類別分布 I群B類・C類・D類・E類	199
第94図	第Ⅲ文化層	石核 5	122	第130図	縄文	土器分類別分布 II群	200
第95図	第Ⅲ文化層	接合資料	123	第131図	縄文	土器分類別分布 III群・IV群	201
第96図	第Ⅲ文化層	台石	124	第132図	縄文	土器分類別分布 V群・VI群	202
第97図	第Ⅳ文化層	遺物分布図	126	第133図	縄文	I群A類土器 1	204
第98図	第Ⅳ文化層	4号石器ブロック	127				

第134図	縄文	I群A類土器2	206	第165図	縄文	スクレイパー1	259
第135図	縄文	I群A類土器3	208	第166図	縄文	スクレイパー2・ 二次加工のある剥片・ 使用痕のある剥片	260
第136図	縄文	I群A類土器4	210	第167図	縄文	石核1	262
第137図	縄文	I群B類土器	211	第168図	縄文	石核2	263
第138図	縄文	I群C類土器	213	第169図	縄文	石核3	265
第139図	縄文	I群D類土器1	215	第170図	縄文	石核4	266
第140図	縄文	I群D類土器2	217	第171図	縄文	石核5	267
第141図	縄文	I群D類3・E類土器	219	第172図	縄文	石核6	268
第142図	縄文	II群A・B類土器	221	第173図	縄文	刃部磨製石斧・ 打製石斧1	269
第143図	縄文	II群C類土器	222	第174図	縄文	打製石斧2	271
第144図	縄文	III群土器・IV群土器1	224	第175図	縄文	打製石斧3	272
第145図	縄文	IV群2・V群・ VI群土器	225	第176図	縄文	打製石斧4	273
第146図	縄文	石器器種別分布 (全体)	235	第177図	縄文	打製石斧5	274
第147図	縄文	石器器種別分布1	236	第178図	縄文	打製石斧6	275
第148図	縄文	石器器種別分布2	237	第179図	縄文	打製石斧7	277
第149図	縄文	石器器種別分布3	238	第180図	縄文	打製石斧8	278
第150図	縄文	石器器種別分布4	239	第181図	縄文	打製石斧9	279
第151図	縄文	石器器種別分布5	240	第182図	縄文	打製石斧10	280
第152図	縄文	石器器種別分布6	241	第183図	縄文	打製石斧11	281
第153図	縄文	石器器種別分布7	242	第184図	縄文	礫器1	283
第154図	縄文	石器石材別分布	243	第185図	縄文	礫器2・石錘	284
第155図	縄文	尖頭器・有茎尖頭器1	244	第186図	縄文	磨・敲石類1	287
第156図	縄文	有茎尖頭器2	246	第187図	縄文	磨・敲石類2	288
第157図	縄文	有茎尖頭器3	248	第188図	縄文	磨・敲石類3	289
第158図	縄文	石鏃1	250	第189図	縄文	磨・敲石類4	290
第159図	縄文	石鏃2	251	第190図	縄文	磨・敲石類5	291
第160図	縄文	石鏃3	252	第191図	縄文	凹石	292
第161図	縄文	石鏃4	254	第192図	縄文	石皿	293
第162図	縄文	石錐・石匙1	255	第193図	縄文	台石	294
第163図	縄文	石匙2	256	第194図	縄文	異形部分磨製石器	295
第164図	縄文	石匙3	257				

挿表目次

第3章					
第1表	第Ⅰ文化層	石器・礫組成表	……………	17	
第2表	第Ⅱ文化層	土坑一覽	……………	28	
第3表	第Ⅱ文化層	石器プロッター一覽	……………	61	
第4表	第Ⅱ文化層	石器ブロック組成表	……………	62	
第5表	第Ⅱ文化層	石器組成表	……………	63	
第6表	第Ⅱ文化層	礫組成表	……………	63	
第7表	第Ⅲ文化層	土坑一覽	……………	69	
第8表	第Ⅲ文化層	石器プロッター一覽	……………	79	
第9表	第Ⅲ文化層	石器ブロック組成表	……………	80	
第10表	第Ⅲ文化層	礫群一覽	……………	85	
第11表	第Ⅲ文化層	礫群組成表	……………	86	
第12表	第Ⅲ文化層	石器組成表	……………	93	
第13表	第Ⅳ文化層	石器ブロック組成表	……………	125	
第14表	第Ⅳ文化層	石器組成表	……………	130	
第15表	旧石器	石器観察表	……………	131	
第4章					
第16表	縄文	竪穴住居跡	……………	163	
第17表	縄文	竪穴状遺構	……………	163	
第18表	縄文	土坑一覽	……………	184	
第19表	縄文	焼土一覽	……………	185	
第20表	縄文	集石一覽	……………	196	
第21表	縄文	集石礫組成表	……………	196	
第22表	縄文	土器集計	……………	226	
第23表	縄文	土器観察表	……………	227	
第24表	縄文	石器組成表 (石材器種別)	……………	296	
第25表	縄文	石器組成表 (層位石材別)	……………	297	
第26表	縄文	石器観察表	……………	298	

第1章 調査に至る経緯

第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

東名高速道路は昭和44年に全線が開通し、以来今日まで、経済の中核である関東～中部の大都市圏を結ぶ大動脈として、日本経済の発展に大きく貢献してきた。

しかしながら、日本経済の急激な発展に伴い自動車交通も増大し交通量が全線開通当時の約3.6倍にも達し、慢性的な渋滞や著しい混雑が発生するようになっている。高速道路本来の高速度性、定時性が損なわれる状況も生じていることから、このままでは将来の交通需要への対応が困難と予想されている。

第二東名は、混雑が著しい現東名との適切な交通分担機能を持ち、日本の産業・文化・社会経済活動の振興に大きく寄与することが期待される高速道路である。

第二東名建設に先立ち、日本道路公団東京建設第一建設局静岡調査事務所長は、平成4年8月に静岡県教育委員会教育長に対し「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」照会を行った。

県教育委員会は、平成4年9月に関係市町村教育委員会を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った。

静岡県教育委員会教育長は、平成5年3月に日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長に対し、現地踏査結果に基づき、事業地内の埋蔵文化財の所在の有無について回答した。

平成6年度には、県教育委員会文化課（文化財保護課）職員が上記の調査対象箇所について、具体的な調査を進めるための状況調査を行うとともに、前年示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告・とりまとめがなされた。

日本道路公団静岡建設所（平成6年2月設置）と県教育委員会文化課は、平成7年12月に「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」を設置し、第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いを協議する場とした。

日本道路公団静岡建設局（平成8年7月、日本道路公団静岡建設所から改組）と県教育委員会は、平成8年9月に第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについての確認書を締結した。さらに、同月、調査実施機関である財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた三者は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成8年度内に一部埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。

なお、第二東名に係る埋蔵文化財の調査は、関係者協議の結果、基本的には本線及び、サービスエリア・パーキングエリア、排土処理場について財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路及び取付道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとしたが、調査の進展に伴う調査量の増大に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかず、本線部分の一部について、沼津市や静岡市、浜北市、富士宮市、裾野市、富士市の各教育委員会に対応を依頼するとともに、特に東部地域を中心に民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯を踏まえ、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が潤ヶ沢遺跡（第二東名№27地点）の現地調査を実施した。また、平成23年3月末の財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の解散に伴い、同年4月からは、同業務を静岡県埋蔵文化財センターが引き継いで実施した。

第2節 調査の方法と経過

1 発掘調査の方法

遺跡全体の把握と作業の効率化を行うため、国家標準座標第Ⅷ系 (X=-94,380.00 Y=28,180.00) を原点として、遺跡全体に10m×10mのグリッドを設定した。X軸に対して西から東へアラビア数字、Y軸に対して南から北に向かってアルファベットによって記号をつけた。

確認調査ではテストピットとトレンチを併用して掘削を行い、本調査においては面的な掘削を行った。

写真撮影は必要に応じて随時行った。平面図・土層断面図・遺構図などの図面は1/20を基本とし、手実測、機械実測を併用して作成した。また、遺物の取り上げは光波測距器とコンピューターを用いた。

写真撮影には小型カメラ及び中判カメラを使用した。また、全景写真を撮影するために高所作業車とローリングタワーを使用した。フィルムは35mmサイズ3種類（カラー、白黒、リバーサル）及び中判（6×7判）サイズ（白黒）を使用した。

2 確認調査

(1) 確認調査その1

平成11年9月～同年11月まで行った（一部、本調査1期と併行）。調査地点は遺跡の北東側の1区に6カ所のトレンチと22カ所のテストピットを設定した。調査は休場層まで行われた。その結果、中世以降に比定される円形土坑や縄文時代の土坑などが検出された。遺物は須恵器片、土師器片、縄文土器片、ホルンフェルスと黒曜石を中心とする剥片、礫などが出土した。これによって古代・中世から旧石器時代までの遺構面及び遺物包含層が存在することが確認された。

(2) 確認調査その2

平成12年8月～同年9月まで行った（一部、本調査1期と併行）。調査地点は遺跡の南西側の5～7区にかけて11カ所のトレンチと35カ所のテストピットを設定した。調査は休場層まで行われた。その結果、中世以降に比定される円形土坑やV字溝、縄文時代の土坑、集石遺構、旧石器時代の礫群などが検出された。遺物は須恵器片、縄文土器片、打製石斧や剥片などの石器、礫などが出土した。これによって古墳時代から旧石器時代までの遺構面及び遺物包含層が存在することが確認された。

(3) 確認調査その3

平成14年8月～同年10月まで行った（本調査IV期と併行）。調査地点は7区以南に23カ所のテストピットを設置した。調査の結果、配石などの遺構が検出された。遺物は縄文土器片、槍先形尖頭器やナイフ形石器などの石器、礫などが出土した。これによって縄文時代から旧石器時代までの遺構面及び遺物包含層が存在することが確認され、遺跡の広がり当初の設定よりも広範囲であることが判明した。

この結果を踏まえて日本道路公団、静岡県教育委員会、沼津市教育委員会、静岡県埋蔵文化財調査研究所の間で協議が行われた。その結果、No27地点は6区と7区を境として、No.27-1地点・No.27-2地点の南北に分割調査することが決定した。これ以降は前者を静岡県埋蔵文化財調査研究所が、後者を沼津市教育委員会が行うこととなり、それに伴って、No.27-2地点の範囲内で静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った確認調査の成果を沼津市教育委員会へ引き渡した。

3 本調査

(1) 本調査1期

平成11年11月～平成12年8月まで調査を実施した。確認調査その1の成果を踏まえて、1区を第Ⅲス

コリア帯の上面まで掘削を行った。その結果、土坑や礫群、石器ブロックなどの遺構が検出された。また、縄文時代～旧石器時代の石器群も出土して、当該期の良好な遺跡であることが確認された。

(2) 本調査II期

平成12年10月～平成13年3月まで調査を実施した。確認調査その2の成果を踏まえて、6区を第Ⅲスコリア帯の上面まで掘削を行った。その結果、土坑や礫群、石器ブロックなどの遺構が検出された。中でも第Ⅲ黒色帯から検出された土坑は、旧石器時代に属するものとしては愛鷹山麓南側において初めての発見となった。また、縄文土器や縄文時代～旧石器時代の石器群が出土した。中には異形部分磨製石器(通称：トロトロ石器)などの時期が特定される資料も含まれていた。

(3) 本調査III期

平成13年4月～平成14年3月まで調査を実施した。本調査II期を引き継ぐ形で行われ、6区を第Ⅲスコリア帯スコリア4の上面まで掘削を行った。その結果、本調査II期で確認された旧石器時代の土坑が列状に配置されていることが確認された。

2・3区は休場層上面まで掘削を行った。その結果、円形土坑や土坑、礫群や石器ブロックなどの遺構が検出された。また、縄文土器や縄文時代～旧石器時代の石器群も出土した。

4区は第Ⅲスコリア帯スコリア4まで掘削を行った。その結果、土坑や石器ブロックなどの遺構が検出された。また、縄文土器や縄文時代～旧石器時代の石器群が出土した。中でも第Ⅱ黒色帯から出土した石器ブロックは当該期の特徴を示す良好な資料であった。また、北側にテストピットを設定して調査を行った結果、第Ⅳ黒色帯から石器が1点出土した。

5区は第Ⅲスコリア帯スコリア4まで発掘を行った。その結果、土坑や配石、石器ブロックなどの遺構が検出された。また、縄文土器や縄文時代～旧石器時代の石器群が出土した。

(4) 本調査IV期

平成14年8月～平成15年3月まで調査を実施した。調査は本調査III期を引き継ぐ形で行われた。

2・3区は休場層直下黒色帯(BB0)以下の確認のため、21カ所のテストピットを設置した。調査は中部ルーム層上面まで行われた。TP228では第Ⅲスコリア帯黒色帯2から二側縁加工のナイフ形石器が出土している。

5区は本調査III期の続きである北側の一部を中部ルーム層上面まで掘削した。また、南側は谷部である西側と丘陵部である東側に分かれる。谷部では溝状遺構や円形土坑などの遺構を検出した。遺物は須恵器片、縄文土器などが出土した。丘陵部では休場層直下黒色帯まで発掘を行った。その後、テストピットを設定し、中部ルーム層上面まで掘削した。TP136では第Ⅲ黒色帯で炭化物集中を確認したため、テストピットを拡張し、その分布把握につとめた。

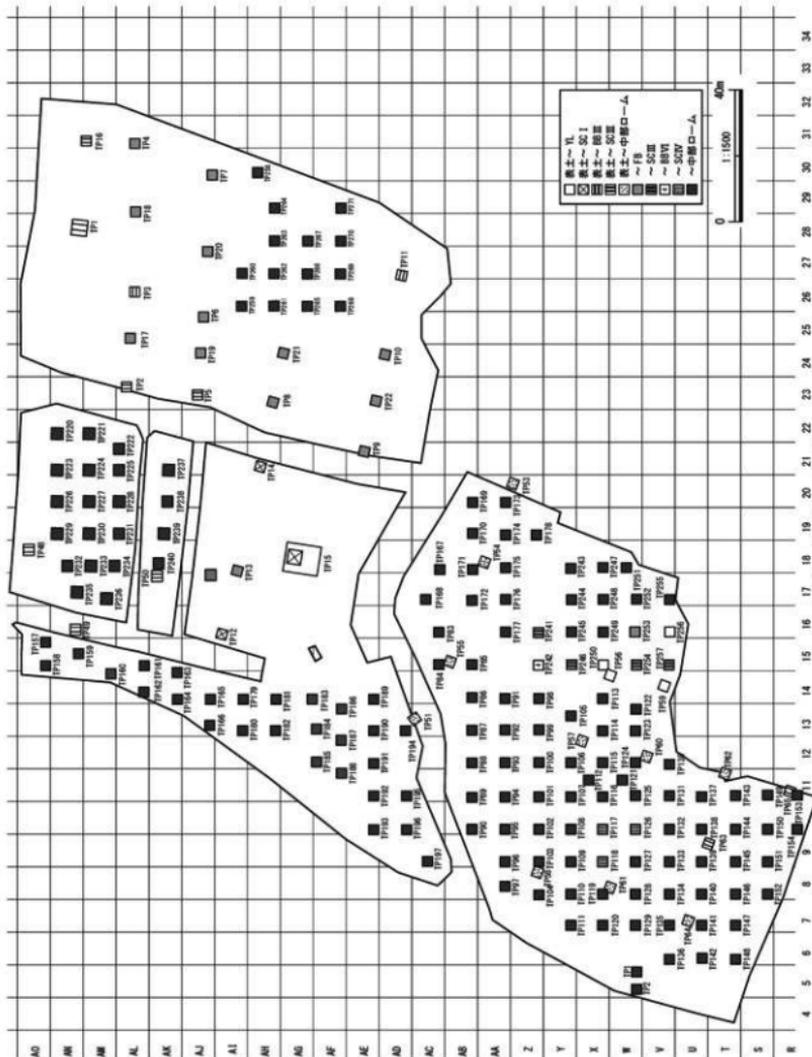
6区は本調査III期で調査対象地から除外されていた鉄塔下を発掘した。調査は中部ルーム層上面まで行われた。第Ⅲスコリア帯スコリア1では、本調査III期で確認された石器ブロックと隣接する形で石器ブロックが検出された。

(5) 本調査V期

平成15年4月～同年8月まで調査を実施した。本調査I期で未調査だった1区の東側中央を調査した。調査は休場層まで全面発掘を行い、それ以下は14カ所のテストピットを設けて中部ルーム層上面まで発掘を行った。その結果、縄文時代の住居、土坑などの遺構を検出した。遺物は縄文土器や石器などが出土した。

(6) 本調査VI期

平成20年7月～同年10月まで調査を実施した。なお、静岡県教育委員会と沼津市教育委員会の協議により、平成20年2月20日付けで第二東名No.27地点は、27-1地点、27-2地点ともに湧ヶ沢遺跡として埋蔵



文化財包蔵地として新規登録された。6区は本調査Ⅳ期で調査対象地から除外されていた鉄塔下を発掘した。調査はⅢスコリア帯上面まで掘削を行い、その後2カ所のテストピットを設定して中部ローム層上面まで掘削をおこなった。その結果、集石、焼土跡、石器ブロックなどの遺構が検出された。遺物は縄文土器や縄文時代～旧石器時代の石器が出土した。

また4区に隣接する市道下の調査を実施した。当該地点は本調査Ⅲ期で第Ⅱ黒色帯から大規模な石器ブロックが検出された場所の隣接地であり成果が期待されたが、調査範囲の大半は過去の道路造成により中部ローム層まで失われていた。残存部分から遺構は検出されず、縄文土器や石器などの遺物が少量出土した。

4 資料整理・報告書作成

資料整理・報告書作成作業は平成22年5月～平成25年3月の約3か年にわたって実施した。平成22年5月～平成23年3月までは静岡県埋蔵文化財調査研究所が作業を行っていたが、平成23年3月末日をもって同組織が解散したため、以後の業務は静岡県埋蔵文化財センターが引き継いだ。

調査対象面積36,975㎡、出土遺物総点数は22,608点であり、出土遺物の内訳は、旧石器時代の石器3,348点、礫590点、炭化物1,235点、縄文時代の土器3,350点、石器1,833点、礫11,727点、炭化物453点、弥生時代以降の土器18点、土師器47点、須恵器20点、瓦2点であった。

石器、土器、礫は洗浄の後、順次遺物番号の注記作業を行った。ホルンフェルス製の遺物については薬品処理（PARALOID B-72、ワッカーOH-100）によって劣化遅延措置を施した。

次に石器、礫の石材分類や層位ごとの分類を行い、あわせて接合作業も行った。石器は調整加工の施されているもの、接合状態に特徴があるものなどを中心に実測図を作成した。遺物の実測・トレース作業については一部を株式会社ラングへ委託した。

また黒曜石製、下呂石製石器については、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授望月明彦氏に依頼して、産地推定分析を行った。分析は旧石器時代から出土した全点（極小の資料は除く）と縄文時代から出土した製品類を対象にした。

土器は型式分類を行った後、文様構成が明確なものを中心に拓本及び断面実測を行った。また、残存状態が良好な個体に関しては復原を行った。

炭化物は遺構に伴う資料、土器に付着した資料を中心に株式会社加速器分析研究所に委託して、年代測定と樹種同定を行った。

その他に地質学の観点から、テフラ層序と土坑の年代についての考察を上本進二氏、上杉陽氏に委託した。また、土壌のテフラ組成分析・屈折率測定・植物珪酸体分析・花粉分析・寄生虫卵分析・種実同定分析を徳古環境研究所に委託して、遺跡形成時の環境復原を試みた。

報告書作成に伴い、全体図や遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく一覧表の作成、拓本、実測図の図版作成、遺物写真撮影と写真図版の作成を行い、整理成果を踏まえて本文を執筆した。

第2章 遺跡の概要

第1節 地理的環境

濁ヶ沢遺跡は静岡県沼津市根古屋字鎌ヶ沢、鎌沢、西野字霞外に位置する。遺跡が所在する沼津市は西側を富士市、北東側を長泉町、東側を三島市、清水町、函南町に、南側を伊豆市に接している。北方には愛鷹山、富士山を望むことができる。また、市域は北側と南側で、愛鷹山からのびる丘陵地と平地に区分される。それに平成17年4月に合併した戸田地域（旧戸田村）が加わる形となっている。

遺跡の位置する愛鷹山は、愛鷹ローム層と呼ばれる富士山を起源とする厚いテフラに覆われている。富士山は複数の噴火や崩落を繰り返して現在に至っているが、その始まりは約40万年前と考えられている。そこから長い年月をかけて、沼津方面になだらかな扇状の丘陵地が形成された。

また、約3万5千年前頃から、古富士火山の活発な活動によって厚いテフラが堆積した。このテフラは上部ローム層と呼ばれており、現在、人間の痕跡が確認されるのは、この上部ローム層中からとなっている。この上部ローム層は関東ローム層の立川ローム層と対比されている。上部ローム層は風化の進んだ腐植質土壌とされる黒色帯と、激しい噴火で短時間に堆積したスコリア層が交互に折り重なっている。また約2万5千年前以降には古富士火山の活動によって、古富士泥流と呼ばれる泥流が多発したと考えられている。これによって現在の富士宮市～小山町付近は泥流が覆い、この地域に旧石器時代の遺跡があまり確認されない理由のひとつと考えられている。

約1万7千年前以降には古富士火山の大規模な噴火が数回にわたって発生し、大規模な溶岩流が周辺へ及んだと考えられている。こうした溶岩流は御殿場・裾野を経由して三島に流れ込んだが、濁ヶ沢遺跡の位置する愛鷹山南麓は、愛鷹山の山体が壁となって溶岩流の流入は皆無であった。当該地に旧石器～縄文時代の遺跡が多く残存しているのはこのためと考えられる。

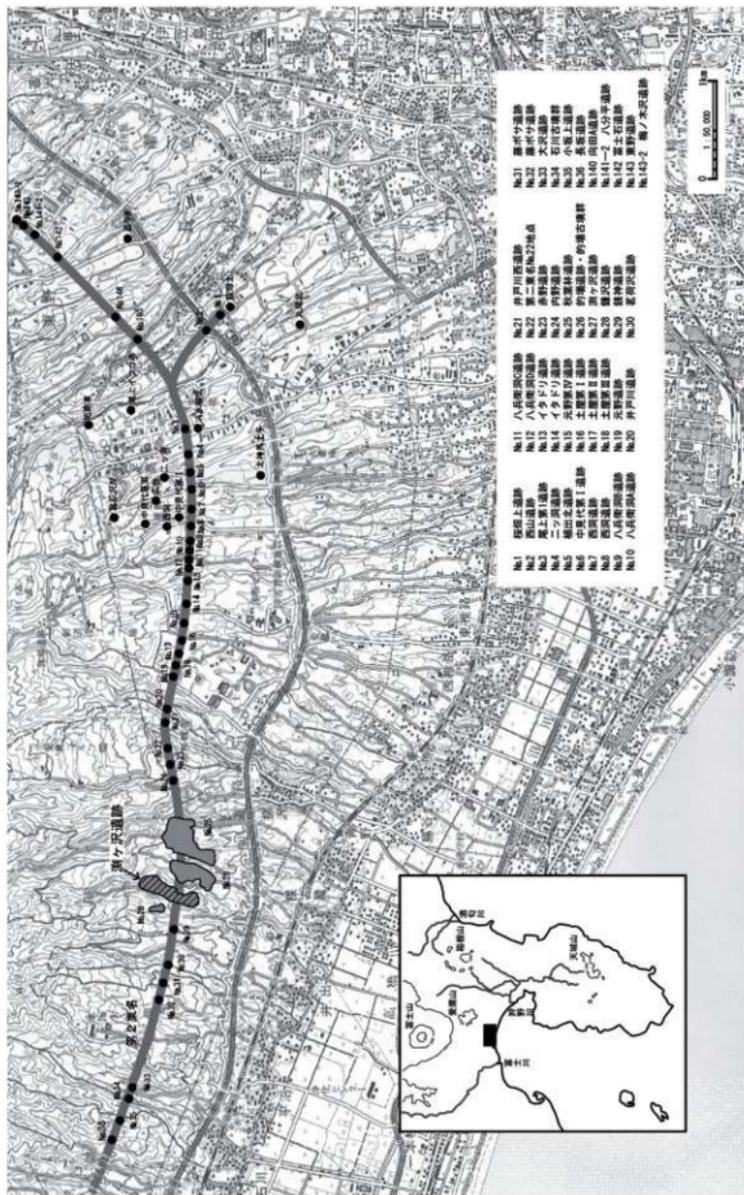
完新世に入り、しばらく経つと古富士火山の活動も中断期に入り、比較的温暖な気候に変化していった。その時期に形成されたのが、富士黒土層と呼ばれる腐食質の火山灰土である。その後、約2千9百年前に富士山の山体崩落によって発生した御殿場泥流が愛鷹山と箱根火山の間を南下して、沼津・三島へ流れ込んだ。現在の平野部は前述の溶岩流を覆い包む形で、この泥流が堆積している。

第2節 歴史的環境

1 旧石器時代

沼津市～長泉町にかけての愛鷹山南～東南麓は、前述の通り厚いテフラが堆積し、多くの旧石器～縄文時代の遺跡が確認されている。旧石器時代の遺跡は、静岡県内では愛鷹・箱根山麓と西部の磐田原台地を除いてほとんど確認されていない。

濁ヶ沢遺跡の周辺に目を向けると、第二東名建設事業に伴って発掘調査された遺跡だけでも、西側には鎌沢遺跡（第二東名No.28地点）、銭神遺跡（第二東名No.29地点）、休場層から石器ブロックと礫群を検出した茗荷沢遺跡（第二東名No.30地点）、AT下位から石器ブロックを検出した藤ボサ遺跡a区（第二東名No.31地点）などが確認されている。東側には的場遺跡（第二東名No.26地点）、秋葉林遺跡（第二東名No.25地点）、元野遺跡（第二東名No.19地点）など、愛鷹山麓で確認されている最も古い段階か



ら断続的に遺跡が残された重層遺跡も確認されている。また、沼津市教育委員会が本調査を行った洲ヶ沢遺跡の南半部分（第二東名No.27-2地点）でも最古段階の石器が確認されており、旧石器時代の全時期を通じて、この一帯が積極的に活用されていたと考えられる。

2 縄文時代

草創期の資料は葛原沢第IV遺跡から隆起線文土器、押圧縄文土器、尖頭器などを伴った住居跡が検出されている。また、拓南東遺跡、中見代第I遺跡、尾上イラウネ遺跡、西洞遺跡（第二東名No.8地点）からも隆起線文土器が出土している。桜畑上遺跡（第二東名No.1地点）から多縄文系の土器と有舌尖頭器が、西山遺跡（第二東名No.2地点）からは絡条体圧痕文の土器と有舌尖頭器が、それぞれ確認されている。丸尾北遺跡では表裏縄文土器が出土している。また同遺跡から出土した黒曜石製尖頭器の原産地推定分析の結果では、1点が青森県深浦産であることが判明した。当該期の行動パターンについて考察する好材料として注目される。

早期に入ると愛鷹山周辺では遺跡数が増加し、資料も飛躍的に増加する。本遺跡では燃糸文土器、押型文土器に代表される早期前半と条痕文土器、沈線文土器に代表される早期後半の二時期の資料が確認されている。当該期の遺跡の代表例として広合遺跡、西洞遺跡、尾上イラウネ遺跡、中見代第III遺跡、的場遺跡、清水柳北遺跡などが挙げられる。また、早期末～前期初頭の資料として、桜畑上遺跡から下吉井式土器に伴う住居跡が、清水柳北遺跡、吹上遺跡からは木鳥式土器に伴う住居跡が、それぞれ検出されている。

前期の資料は中葉から後葉にかけて多くの遺跡で確認されている。特に諸磯式土器は確認例が多いが、集落の具体例は乏しく、愛鷹山東南麓の梅ノ木沢遺跡から諸磯b式土器に伴う住居跡が検出されている程度にとどまる。

中期の資料は広合遺跡、二ツ洞遺跡、桜畑上遺跡（東駿河湾環状道路No.6地点）から井戸尻式期の住居跡が検出されている。西洞遺跡からは藤内式～井戸尻式の良好な土器群が出土している。また丸尾北遺跡からは中期末葉と考えられる柄鏡形の敷石住居が検出されている。

後・晩期は愛鷹山麓全体で遺跡数の極端な減少が見られる。追平B遺跡、桜畑上遺跡（東駿河湾環状道路No.6地点）からは清水天王山式土器が出土している。

3 弥生時代

愛鷹山麓では弥生時代の集落遺跡の検出例は縄文時代のそれと比較して限定されるものの、その分布に大きな特徴が認められる。

足高尾上遺跡群は、東名高速沼津インターチェンジから愛鷹パーキングエリア付近の約1km四方に広がる弥生～古墳時代の遺跡群である。

同遺跡群では数百軒単位で確認されている堅穴住居群及び掘立柱建物群を主体に構成される集落域、方形周溝墓を主体とした墓域が確認され、弥生後期後半から古墳時代前期に爆発的に盛行し、それ以降急速に衰退する。集落に対応する可耕地が不明確であるが、舌状丘陵を広く居住域とし、集落の北限には尾根を分断するような直線的な大溝が掘削されており、集落の展開に規則的な計画性さえうかがうことができる。

大集落の成因は、居住地と可耕地が近接して確保しにくい当地域の地形的制約も影響していると考えられる。なお、愛鷹山麓の古墳前期の集落は、後述する辻畑古墳の築造時期と近接する時期を含んでいることから、集落と古墳の関係についての検討が必要である。

ところで、足高尾上遺跡群を除外すると、愛鷹山麓の当該期の集落はごく少数、小規模に限られるよ

うである。これは愛鷹山麓における集落形成において、上記の地形的制約や社会情勢、あるいは自然環境の変化等が影響している可能性を考慮すべきと考えられる。

4 古墳時代

愛鷹山麓末端部に立地する辻畑古墳は全長約62mの前方後方墳である。主体部は木直直葬で、銅鏡1～2面、槍1点、鉄鏃10点以上等が出土している。また、周濠からは3世紀前半に比定される土器が出土しており、国内でも最古級の前方後方墳である可能性が指摘されている。

長塚古墳は全長約54mの前方後円墳である。昭和31年の発掘調査から、埋葬施設は盗掘により破壊されていたため不明確であるが、板石片がかなり検出されたため、組み合わせ式箱型石棺が埋納されていたものと推定される。また、後円部墳頂に埴輪列が発見されるとともに、周溝南中央部からは、古墳の構築とほぼ同時期のものと推定される祭祀跡が検出された。供献された土器の年代観から古墳造営は6世紀前半と推定されている。

子ノ神古墳は全長約48mの前方後円墳である。第二次大戦中に防空壕が掘られた際、副葬品と石室の一部が発見されたと伝えられる。

本遺跡の東側の的場古墳群では、横穴式石室を持つ4基の古墳が確認された。その内1基は、最低7回の追葬をおこなったことが確認されている。副葬品は太刀や耳管、鉄鏃、勾玉などが検出された。また、秋葉林遺跡でも5基の古墳が確認され、圭頭太刀や耳管、鉄鏃などが副葬品として検出された。

5 古代

日吉庵寺は白鳳期に創建された寺院で山田寺式瓦や川原寺式瓦が出土している。

清水柳北1号墳は全国的に見ても珍しい上円下方形の墳形を持つ墳墓である。上円部頭頂に凝灰岩製の石櫃が納められており、ほぼ同時期と考えられる日吉庵寺跡における白鳳期の寺院跡とともに、中央政權と当地域の有力者との関連を考える上で興味深いといえる。

6 中世

沼津市周辺は今川氏、後北条氏、武田氏の攻防戦が繰り返され、これに関連した城館が残されている。興国寺城は浮島沼をのぞむ愛鷹山麓末端部を利用した平山城である。北条早雲旗揚げの城として広く知られており、伊勢新九郎（北条早雲）が、駿河館の小鹿範満を急襲し龍王丸（今川氏親）を今川家当主の座につけた恩功として富士下方12郷を与えられた際、興国寺城主になったと伝えられる。平成7年に国史跡に指定されている。史跡指定地の公有地化が進められ、現在では木々に囲まれた古城のたたずまいを見せている。一方で、史跡整備に係る発掘調査も行われ、往時の姿が徐々に明らかにされている。

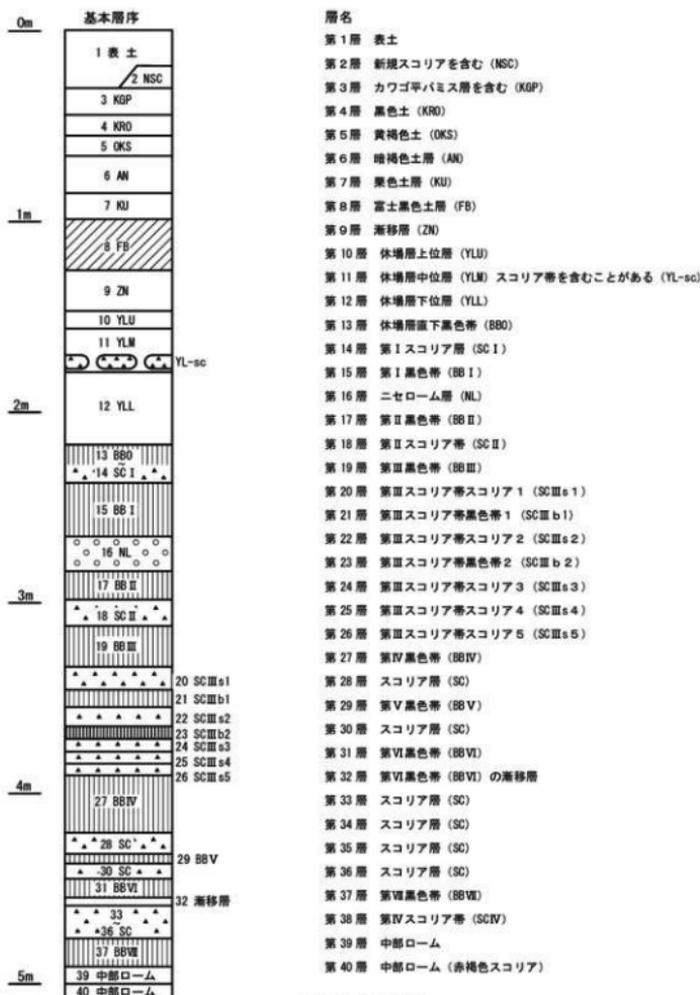
JR沼津駅南口の大通りをまっすぐ進むと左手に突如石垣が姿をあらわす。この市街地にある石垣は近世沼津城のもので、沼津城・三枚橋城の調査で発見されたものである。沼津城の前身である三枚橋城は、武田氏が駿河進出の足掛かりとした城のひとつで、「甲陽軍鑑」「北条五代記」などによると、天正5年（1577）、武田勝頼が後北条氏の戸倉城に対抗して築城し、高坂源五郎昌信に守備させたという。

一方、後北条氏は伊豆の水軍を組織しその脅威に備えた。その伊豆における北条水軍根拠地の一つが長浜城である。天正8年（1580）には武田・北条両氏水軍による駿河湾海戦が行われたことが北条五代記にみられる。長浜城は昭和63年に国の史跡に指定され、平成7年度から現地の保存整備事業に着手している。

第3節 基本層序

1 基本層序

愛鷹山の南麓に堆積する愛鷹ロームについては、愛鷹ローム団研グループによって、スコリア礫、軽石礫、ガラス質火山灰などの火山灰層序学的区分に準拠して設定された考古学的基本層序が定められて



第4図 基本土層図

いる。本遺跡の基本層序も基本的にこの愛鷹基本層序に準拠している。しかしながら本遺跡の調査については、開始から終了までの期間が10年近くに及んでいること、調査区が細かく分割され調査が実施されてきたことに起因し、調査時期によって土層の分層の基準に変更が生じており、層位の呼び方にも若干の齟齬が生じている。一部層位の読み替えを行ったが、基本的には調査時の所見を尊重することとした。各層位は以下の通りである。

第1層は、表土である。

第2層は、新期スコリアを含む層である（NSC）。

第3層は、カワゴ平バミスを含む層である（KGP）。

第4層は、黒色土である（KRO）。

第5層は、黄褐色土である（OKS）。

第6層は、愛鷹基本層序の暗褐色土層（AN）に相当する。

第7層は、にぶい黄褐色土層である。栗色土層（KU）に相当する。1mm程度の白色粒子を微量に含み、橙色スコリアを微量に含む。

第8層は、灰黄褐色土である。富士黒色土層（FB）に相当する。1mm程度の白色粒子をまばらに含む。2mm程度のスコリアを微量に含む。FB層は確認調査その1、その2、第1次、第2次調査で3層に細分される。縄文時代早期の遺物包含層である。

第9層は、灰褐色土、富士黒色土と休場層の漸移層（ZN）である。2mm程度のスコリアを微量に含む。

第10層は、明黄褐色土である。休場層上位（YLU）に相当する。1mm程度の白色粒子をまばらに含む。スコリアを少量含む。

第11層は、明黄褐色土である。休場層中位（YLM）に相当する。1mm程度の白色粒子を少量含む。スコリアをまばらに含む。場所によってはスコリア層を含むことがある（YLS）。

第12層は、にぶい黄色土である。休場層下位（YLL）に相当する。YLMよりスコリアを多く含む。スコリアの量によって2層に細分される箇所がある（YLL1、YLL2）。また、場所によってはスコリア層を含むことがある（YLS）。

第13層は、暗褐色土である。休場層直下黒色帯（BB0）に相当する。3～5mmの黒色スコリアと橙色スコリアを満遍なく含む。

第14層は、にぶい黄褐色土である。第Iスコリア層（SC I）に相当する。2～3mmの橙色スコリアをまばらに含む。

第15層は、黒褐色土である。第I黒色帯（BB I）に相当する。3mm程度の橙色スコリアと5mm程度の黒色スコリアをまばらに含む。

第16層は、明黄褐色土である。ニセローム層（NL）に相当する。2mm程度の橙色スコリアを微量に含む。中層付近に始良カルデラから噴出したATをパッチ状に含む。

第17層は、褐色土である。第II黒色帯（BB II）に相当する。3～5mmの赤褐色スコリアをまばらに含む。

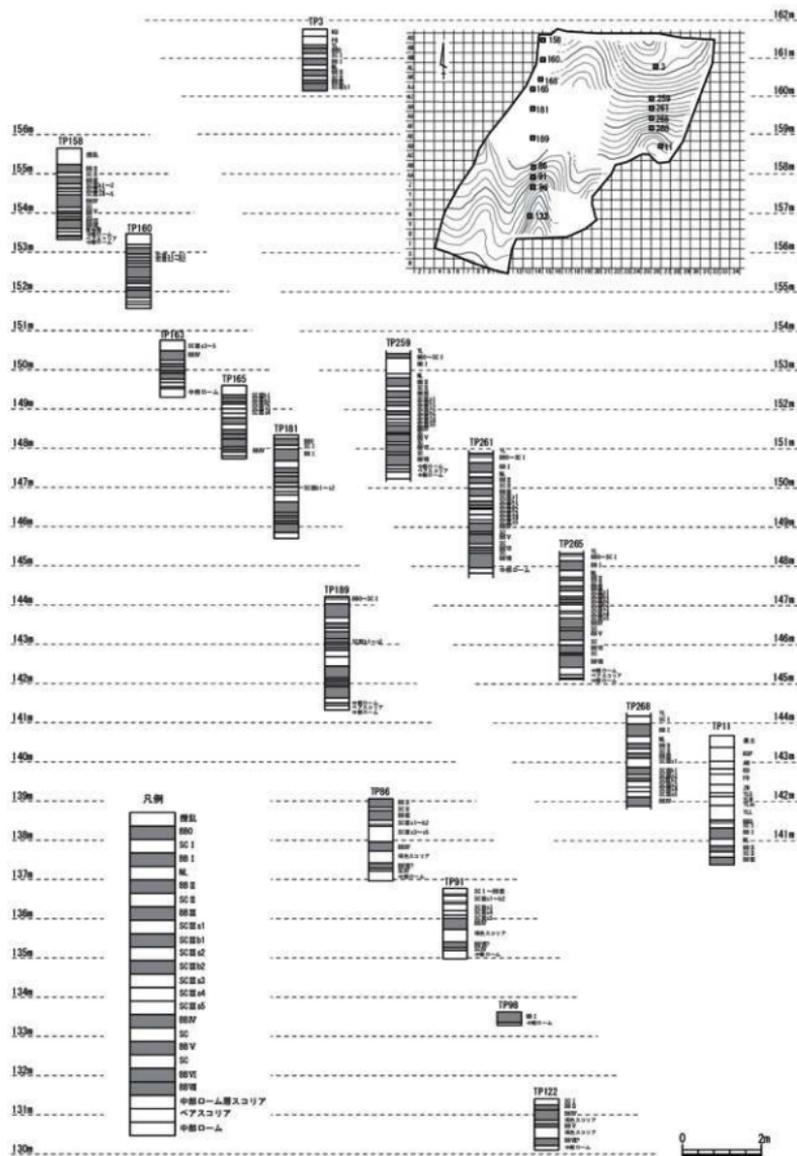
第18層は、暗褐色土である。第IIスコリア層（SC II）に相当する。5～8mmの赤褐色スコリアを満遍なく含む。所々密集している箇所がある。

第19層は、にぶい黄褐色土である。第III黒色帯（BB III）に相当する。1～5mmの赤褐色スコリアをまばらに含む。

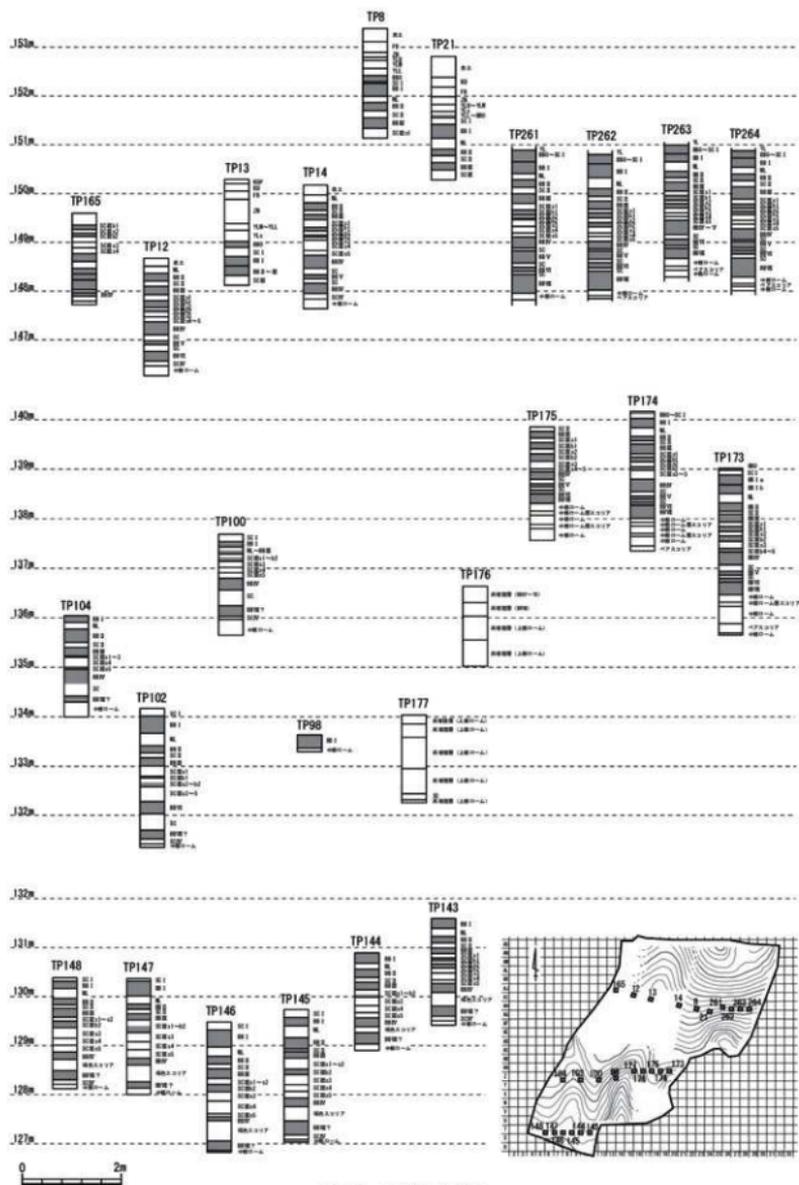
第20層は、黄褐色土である。第IIIスコリア帯スコリア1（SC III s 1）に相当する。3～5mmの赤褐色スコリアをまばらに含む。5～10mm程度の黒色スコリアを微量に含む。

第21層は、黒褐色土である。第IIIスコリア帯黒色帯1（SC III b 1）に相当する。3～5mmの赤褐色ス

- コリアを満遍なく含む。5～20mmの黒色スコリアを満遍なく含む。
- 第22層は、褐色土である。第Ⅲスコリア帯スコリア2 (SCⅢs2) に相当する。5～10mmの赤色スコリアを満遍なく含む。10～20mmの黒色スコリアを満遍なく含む。
- 第23層は、暗褐色土である。第Ⅲスコリア帯黒色帯2 (SCⅢb2) に相当する。3～10mmの赤色スコリアを満遍なく含む。5～20mmの黒色スコリアを満遍なく含む。
- 第24層は、黄褐色土である。第Ⅲスコリア帯スコリア3 (SCⅢs3) に相当する。1～5mmの赤色スコリアを満遍なく含む。5～20mmの黒色スコリアを満遍なく含む。
- 第25層は、褐色土である。第Ⅲスコリア帯スコリア4 (SCⅢs4) に相当する。3mm程度の赤色スコリアを満遍なく含む。5～10mmの黒色スコリアを満遍なく含む。
- 第26層は、暗褐色土である。第Ⅲスコリア帯スコリア5 (SCⅢs5) に相当する。4mm程度の赤色スコリアを満遍なく含む。5～10mmの黒色スコリアをまばらに含む。
- 第27層は、黒色土である。第Ⅳ黒色帯 (BBⅣ) に相当する10～20mmの黒色スコリアをまばらに含む。1mm程度の白色粒子をまばらに含む。
- 第28層は、スコリア層である (SC)。
- 第29層は、第Ⅴ黒色帯 (BBⅤ) に相当する。10～20mmの黒色スコリアをまばらに含む。1mm程度の白色粒子をまばらに含む。
- 第30層は、スコリア層である (SC)。
- 第31層は、第Ⅵ黒色帯 (BBⅥ) に相当する。10～20mmの黒色スコリアをまばらに含む。1mm程度の白色粒子をまばらに含む。
- 第32層は、褐色土である。第Ⅵ黒色帯 (BBⅥ) の漸移層である。2mm～3mmの青色スコリアをまばらに含む。5mm程度の火山性小礫を微量に含む。
- 第33層は、にぶい黄褐色土である。スコリア層で2mm～5mmの赤色スコリアを満遍なく含む。10mm程度の黒色スコリアをまばらに含む。1mm程度の白色粒子をまばらに含む。
- 第34層は、褐色土である。スコリア層で3～5mmの赤色スコリアをまばらに含む。
- 第35層は、褐色土である。スコリア層で5～10mmの赤色スコリアを満遍なく含む、所々密集している箇所がある。
- 第36層は、暗褐色土である。スコリア層で6～8mmの赤色スコリアを微量に含む。若干ではあるがBBⅦの黒色土が混じる。
- 第37層は、黒褐色土である。第Ⅶ黒色帯 (BBⅦ) に相当する。1～3mmの赤色スコリアをまばらに含む。3～5mmの黒色スコリアをまばらに含む。
- 第38層は、明褐色土である。第Ⅳスコリア層 (SCⅣ) に相当する。1～2mmの赤色スコリアを満遍なく含む。
- 第39層は、明黄褐色土である。中部ロームに相当する。スコリア層を挟む箇所がある。
- 第40層は、中部ロームに相当する。赤褐色スコリアを多量に含む。



第5図 土層堆積状況図1



第6圖 土層堆積狀況圖2

2 堆積状況

本遺跡は、愛鷹山南麓の緩斜面に位置している。遺跡の東西の端には急激に落ち込む深い谷が存在し、周辺の地形とは明確に区分することができる。標高は約130～160mである。調査区内の地形は、やや傾斜の強い尾根と谷部によって形成されている。

本遺跡の土層の堆積状況と、愛鷹基本層序のそれを比較すると、まず、縄文時代より上の土層の堆積が調査区の一部で良好ではない状況が確認された。たとえば、表土中に新期スコリア（NSC）が混在する地区が認められた。また、縄文時代の土層についても同様の状況が散見された。表土直下にカワゴ平を含む層（KGP）、栗色土層（KU）、富士黒色土（FB）が堆積しているなど、全般的に富士黒色土層より上層の残存状況は芳しくなかった。さらに、一部のテストピット（TP12、TP14）のように表土直下でニセローム層が検出される、暗褐色土層（AN）～栗色土層（KU）の直下に第Ⅰスコリア層（SCⅠ）が堆積している（TP16）、4区に隣接する市道の下部のように過去の道路造成の影響によって、中部ローム層まで削平を受けているなど、上部ローム層の堆積が良好ではない地区が認められた。

愛鷹上部ロームの基本土層が確認された地点においても、その堆積、発色が芳しくなく分層を困難にする地区があった。たとえば、休場層直下黒色帯が発色に乏しく、第Ⅰスコリア層との分層を困難にしていた地区が認められた（TP11など）。また、確認調査その1、その2、第Ⅰ次および第Ⅱ次調査においては、谷部を除き、第Ⅲスコリア層に至るまでの堆積が薄く、発色も薄かった。特に第Ⅲスコリア帯は明確に分層できない箇所があった。第Ⅳ黒色帯以下の堆積も悪い地点があり、黒色帯とスコリア層を分層できない地点が確認された。

第3章 旧石器時代

第1節 遺構・遺物の概要

今回の調査では中部ローム層及びそれ以上の上部ローム（休層層まで）の各層位から石器3,219点、礫583点が出土した。これらは遺構・遺物の分布、石器の特徴、接合関係等から大きく4つに大別して理解することが可能である。よって今回の調査報告では旧石器時代の遺構・遺物について4枚の文化層を認定し記述を行った。ただし、調査範囲が広範に及び、異なる丘陵部、谷部の遺構・遺物を一括して扱っているため、旧石器時代を通じての土地利用のあり様については、地形及び立地を加味した検討が必要であることは言うまでもない。なお、文化層認定は行わなかったが、中部ローム層で多孔質安山岩の礫1点、第IVスコリア層でアプライトの礫1点が出土している。いずれも単独出土であり、被熱痕も認められておらず、詳細な検討は困難である。

第2節 第I文化層

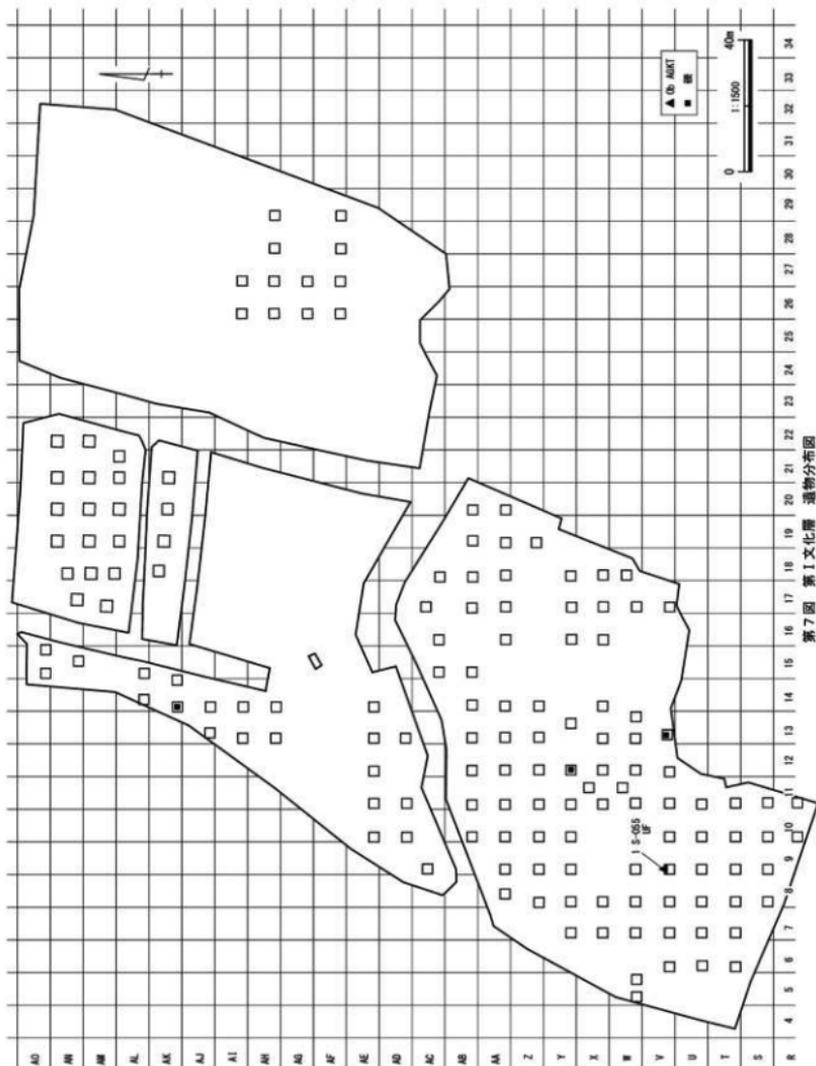
第IV黒色帯を中心とした文化層である。石器2点、礫1点で構成される（第7・8図・第1表）。遺構は未確認である。

遺物（第8図）

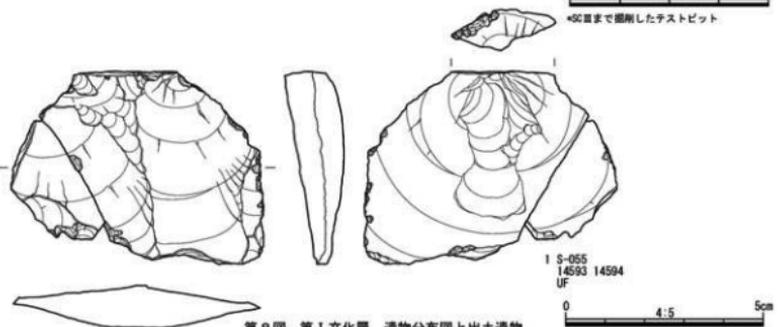
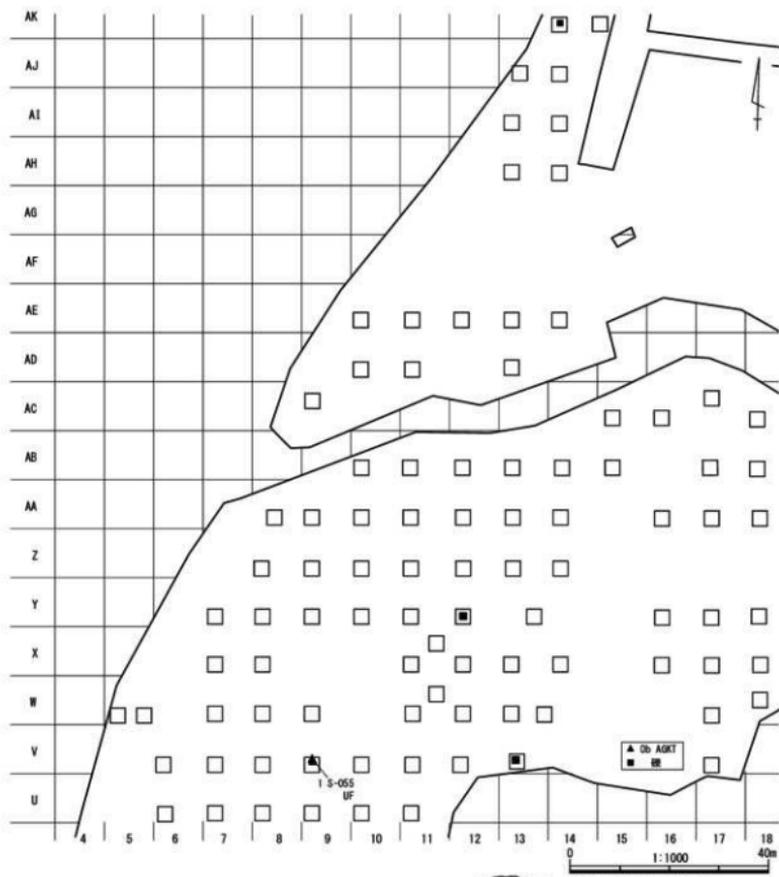
1は近接して出土した使用痕がある剥片と剥片が接合したものである。上面を打面として連続した剥片剥離で得られた幅広の剥片を素材として、右側縁、下側縁に使用痕とみられる微細な剥離が認められるものである。黒曜石（天城柏峠群）製である。なお、この石器出土位置から北東約160mの地点において輝石安山岩の礫1点が出土している。被熱痕は認められない。

第1表 第I文化層 石器・礫組成表
〔石器〕

石器/層位別		器種		石材/層位別		石材/層位・重量別			
				石材	石材				
				Ob					
				A G K T	A n (P y)				
				合計				合計	
層位	BBIV	1	1	2	2	1	1	1	3
				重量(g)		685.0	20.0	20.0	725.0



第7圖 第1文化層 遺物分布圖



第8図 第1文化層 遺物分布図と出土遺物

第3節 第II文化層

第III黒色帯を中心とした文化層である。土坑10基、石器ブロック4基、石器2,046点、礫32点で構成される（第9図・第2・3表）。土坑と遺物の検出分布域は明確に異なっており、土坑の使用と石器製作及び使用とは地点を異にしていたことが想定される。なお、層位間の接合が第IIIスコリア帯～第1スコリア層に及んでおり、通常の接合関係よりも広範であることは留意すべきである。一部、出土層位の認定に疑問点が残るが、現地調査担当者の層位認定に基づき報告した。

1 土坑（第11図～第15図 第2表）

土坑96（SP096）

TP129壁面で検出された平面円形を呈する土坑である。平坦な底面からほぼ直立した壁面を持ち、開口部はラッパ状に開く。第III黒色帯を掘削面として、底面は中部ローム上面にまで及ぶ。覆土は土坑壁面の崩落に起因すると推測される第IIIスコリア帯、第IV黒色帯、第IV黒色帯下のスコリアを中層に含み、上層には第III黒色帯及び第IIスコリア層を主体とした堆積を示す。

土坑99（SP099）

平面円形を呈する土坑である。平坦な底面から開き気味に直線的に立ち上がる壁面を持つ。検出面は第IIIスコリア帯スコリア4であるが、覆土最上層に第III黒色帯と第IIIスコリア帯の混土が厚く堆積する状況から、本来の掘削面は第III黒色帯付近であると推測される。底面は中部ロームに及ぶ。

土坑100（SP100）

平面円形を呈する土坑である。平坦な底面から開き気味に直線的に立ち上がる壁面を持つ。検出面は第IIIスコリア帯スコリア4であるが、上層に第IIIスコリア帯スコリア2・黒色帯2を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと推測される。

土坑103（SP103）

平面円形を呈する土坑である。やや丸みを帯びた底面から直立して立ち上がる壁面を持つ。検出面は第IIIスコリア帯スコリア4～5であるが、上層に第IIIスコリア帯スコリア1・黒色帯1を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと推測される。底面は中部ロームに及ぶ。

土坑104（SP104）

平面円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面は上半でわずかに外開きとなって開口する。検出面は第IIIスコリア帯スコリア4であるが、上層に第IIIスコリア帯スコリア1・黒色帯1を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと推測される。

土坑105（SP105）

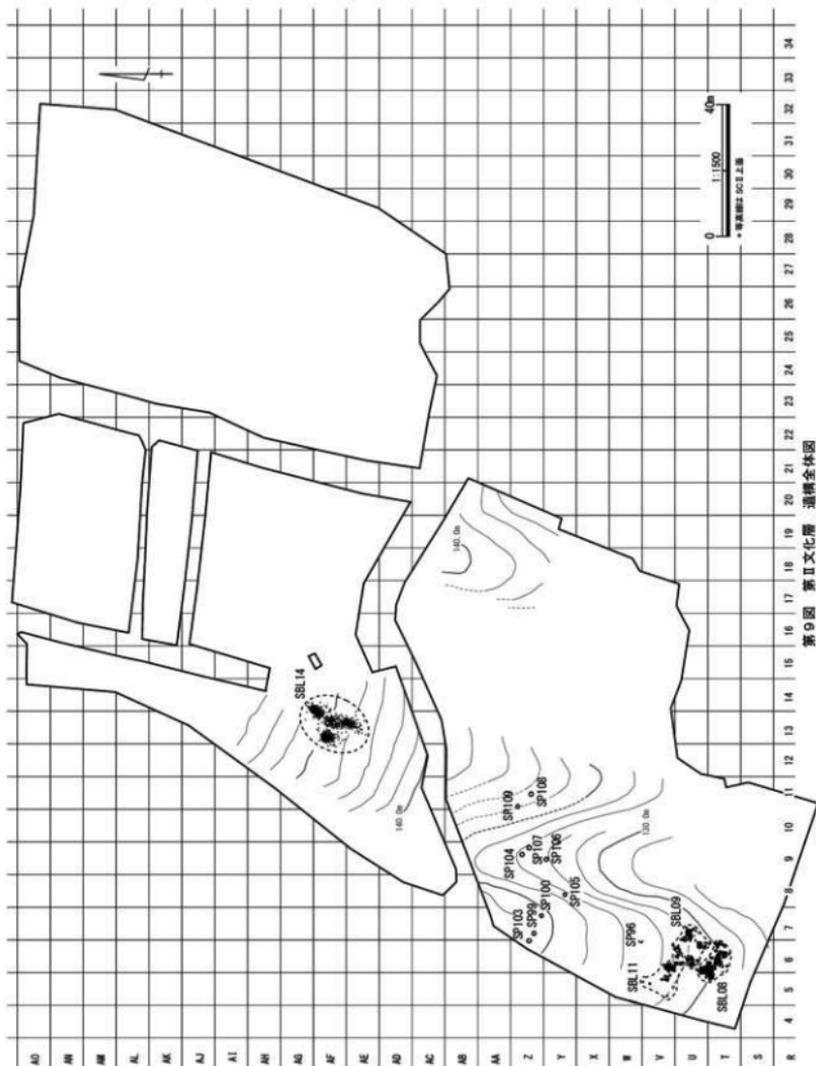
平面円形を呈する土坑である。平坦な底面からほぼ直線的に外開きとなって立ち上がる壁面を持つ。検出面は第IIIスコリア帯スコリア4であるが、上層に第IIIスコリア帯スコリア1・黒色帯1を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと推測される。

土坑106（SP106）

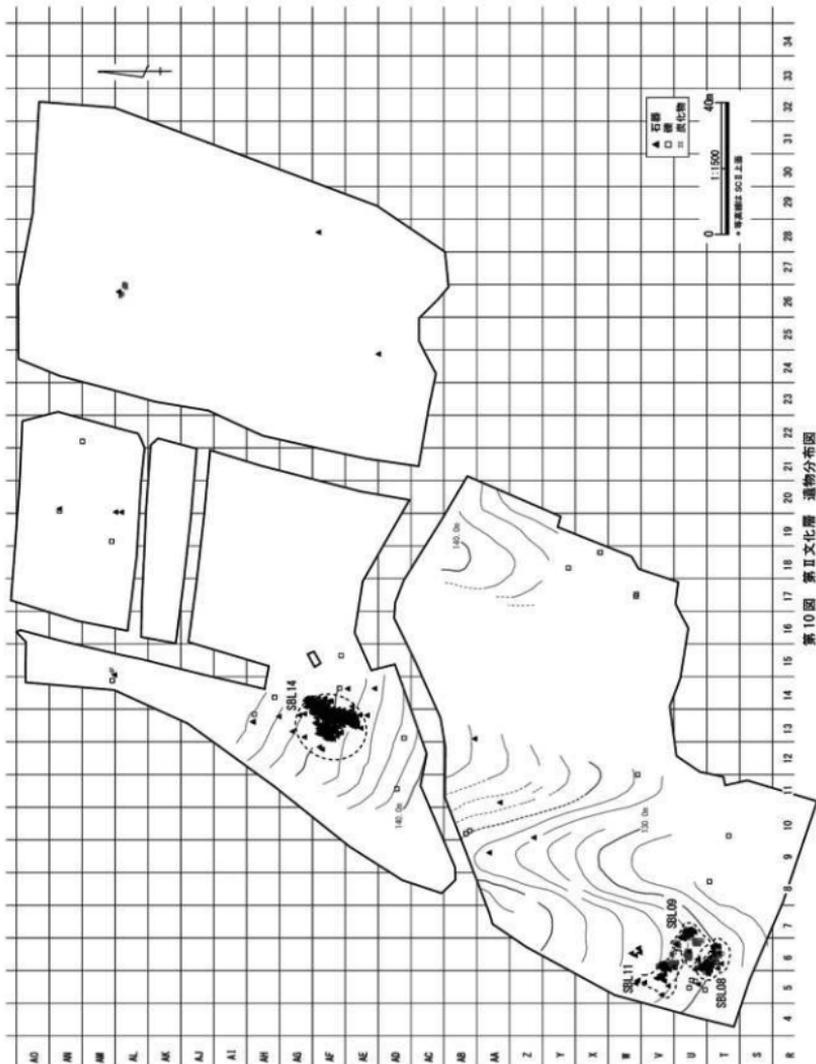
平面円形を呈する土坑である。平坦な底面からほぼ直立して立ち上がる壁面を持つ。検出面は第IIIスコリア帯スコリア4であるが、上層に第IIIスコリア帯スコリア1・黒色帯1を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと推測される。

土坑107（SP107）

平面円形を呈する土坑である。平坦な底面からほぼ直立して立ち上がる壁面を持つ。検出面は第IIIスコリア帯スコリア4であるが、上層に第IIIスコリア帯スコリア1・黒色帯1を含むことから、本来の掘

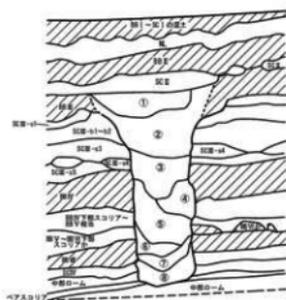
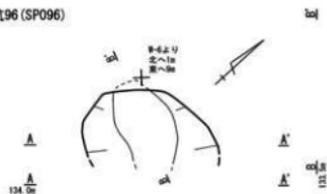


第9圖 第II文化層・遺構全体図



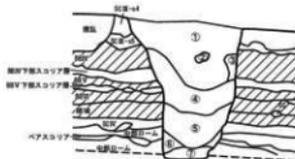
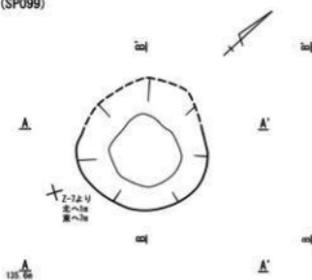
新II文化層 遺物分布図

土坑96 (SP096)



- ① 暗赤褐色硬質スコリア土 5YR 3/4
SCⅡと即置の混在・SCⅢのレンズ状堆積、1~3mmの赤褐色スコリアを多く含む、5mmの暗褐色スコリアを含む。
- ② 黒褐色硬質スコリア土 7.5YR 3/2
即置。径1~3mmの赤褐色スコリア、
2~3mmの暗褐色スコリア、1mm以下の白色バミスを含む。
- ③ 暗褐色硬質スコリア土 7.5YR 3/4
SCⅢ等の隙落土と即置の混在土、1~3mmの赤褐色スコリア・
暗褐色スコリア、1mm以下の白色バミスを含む。
- ④ 黒褐色硬質スコリア土 7.5YR 3/2
SCⅡ①~②の隙落土主体、1~2mmの赤褐色スコリア・
暗褐色スコリア、1mm以下の白色バミスを含む。
- ⑤ 褐色硬質スコリア土 7.5YR 4/4
SCⅢ等の隙落土を主体とし、85Yの隙落土を割削り多く含む、
1~3mmの赤褐色スコリアを多く含む、2~10mmの暗褐色
スコリア、1mm以下の白色バミスを含む。
- ⑥ 暗褐色硬質スコリア土 7.5YR 3/4
隙落下のスコリアに即置、1~2mmの赤褐色スコリア、
1~1.5mmの暗褐色スコリアをわずかに含む。
- ⑦ 黒色土 5YR2/2
2mm程度の赤褐色スコリアと2~3mmの黒色土スコリアを含む。
- ⑧ 黒褐色スコリア質土 10YR 2/3
2mmの赤褐色スコリア・黒色スコリアをわずかに含む。やや軟質。

土坑99 (SP099)

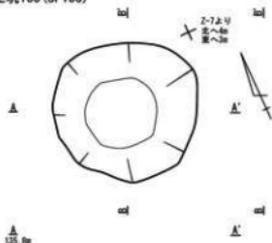


- ① 褐色スコリア質土 7.5YR 4/3
1~5mmの赤褐色スコリア、2~6mmの褐色スコリア、径2~10mmの
黒褐色スコリアから構成される。他のスコリアよりもやや軟質、
やや風味を帯びるのでSCⅢ等の隙落土と黒色帯(88Ⅲ)の混土か。
- ② 黒褐色スコリア質土 7.5YR 3/2
1~2mmの赤褐色スコリア、径2~4mmの暗黒色スコリアから
構成される。黒色帯の隙落ブロック。
- ③ SCⅢ④と即置の隙落
- ④ 黄褐色スコリア質土 10YR 5/5
1~4mmの赤褐色スコリア、3~12mmの暗黒色スコリアから
構成される。非常に硬質、SCⅢ④を主体とした登層隙落土か。
- ⑤ 暗褐色スコリア質土 7.5YR 3/2
1~3mmの赤褐色スコリア、2~3mmの暗黒色スコリア、1~2mmの
褐色スコリアから構成される。黒色帯と黒質スコリア等の混土か。
- ⑥ 灰質褐色粘性土 10YR 4/2
基本的にスコリア質だが、中部ロームの混在し、粘性有り。
- ⑦ 黒褐色粘性土 10YR 3/2
黒色帯的なスコリア質土、1~2mmの赤褐色スコリア、1~2mmの
暗黒色スコリアを多く含む。を主体に中部ロームを混在する。

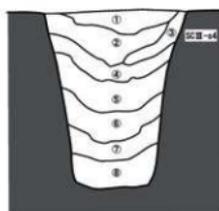


第11図 第Ⅱ文化層 土坑 1

土坑100 (SP100)

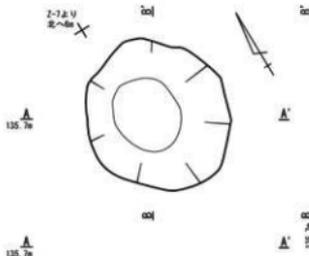


A
125.0m



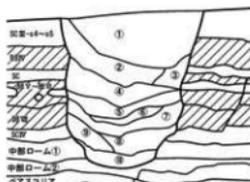
- ① 褐色土 10YR4/4
SCⅡa2相土。細い土、1cm程度の黒色スコリア、7~8mmの褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 10YR4/4
SCⅡa2~a3相土。(1)より10YR4/4褐色に近い色調。やや粗い土。褐色スコリアを非常に多く含む。SCⅡa4の細かい赤褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ③ 褐色土 10YR4/6
SCⅡa3~a4相土。やや粗い土。7~8mmの黒色スコリア・褐色スコリアを多く含む。SCⅡa4の細かい赤褐色スコリアを多く含む。
- ④ 褐色土 10YR4/4
SCⅡa3~a4相土。やや粗い土。7~8mmの黒色スコリア・褐色スコリアを非常に多く含む。SCⅡa4の細かい赤褐色スコリアを含むが、③より少ない。締まり有り。
- ⑤ 褐色土 7.5YR4/6
SCⅡa5相土。粗い土、1cm程度の黒色スコリアを非常に多く含む。7~8mmの褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑥ 褐色土 10YR4/4
SCⅡa5相土。やや粗い土。1cmの黒色スコリア、径7~8mmの褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑦ 暗褐色土 7.5YR2/4
SCⅡa5~a6IV相土。1cm程度の黒色スコリア、7~8mmの褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑧ 褐色土 7.5YR4/4
7~8mmの黒色スコリア・褐色スコリアを含む。全体にスコリアの量が①~⑦より少ない。締まり有り。

土坑103 (SP103)



A
135.7m

A
135.7m

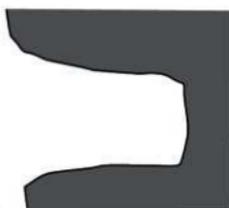
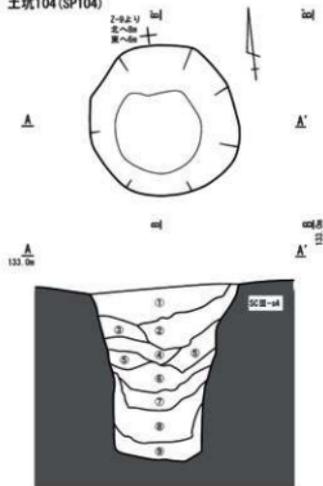


- ① 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa1~a2相土。細く、硬質の土。1cm程度の黒色スコリア5mm程度の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 7.5YR 4/6
SCⅡa2~a3相土。粗い土。1cm程度の黒色スコリア5mm程度の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ③ 褐色土 7.5YR 4/6
SCⅡa2~a3相土。粗い土。1cm程度の黒色スコリア5mmの褐色スコリアを多く含む。粘性わずかに有り。
- ④ 褐色土 10YR 4/6
SCⅡa3相土。粗い土。1cmの黒色スコリア、5mm程度の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑤ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa4~a5相土。粗い土。7~8mmの黒色スコリア、5mm程度の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑥ 褐色土 10YR 4/6
SCⅡa3相土。粗い土。1cm程度の黒色スコリア、5mm程度の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑦ 褐色土 10YR 4/4
SCⅡa5~a6IV相土。粗く、やや硬質。7~8mmの黒色スコリア、5mm程度の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑧ 褐色土 10YR 4/4
SCⅡa5~a6IV相土。やや粗い。5mm程度の黒色スコリア・褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑨ 褐色土 10YR 4/4
SCⅡa5~a6IV相土。やや粗く、硬質5mm程度の黒色スコリア・褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑩ 褐色土 10YR 4/6
SCⅡa5~a6IV相土。やや粗く、7~8mmの黒色スコリアを含み、径5mmの5mm程度の褐色スコリアを多く含む。粘性やや有り。締まり有り。



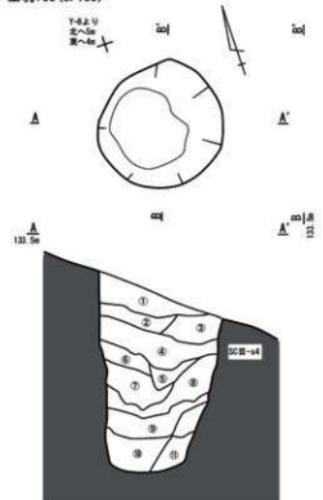
第12図 第Ⅱ文化層 土坑2

土坑104 (SP104)



- ① 褐色土 10R 4/0
SCⅡa1~b1相当。軽い土、1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa1~b1相当。やや軽い土、1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。SCⅡa2の赤褐色スコリアを含む。締まり有り。
- ③ 暗褐色土 7.5R 3/4
SCⅡa1~b1相当。やや軽い土、7~8mmの黒色スコリア、5mmの褐色スコリアを含み、SCⅡa2の赤褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ④ 褐色土 10R 4/0
SCⅡa2相当。やや軽い土、1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑤ 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa2~a2。やや軽い土、1cmの黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。SCⅡa2の赤褐色スコリアを含む。締まり有り。
- ⑥ 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa3相当。やや軽い土、1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑦ 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa3相当。やや軽い土、7~8mmの黒色スコリアを含み、5mmの褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑧ 暗褐色土 7.5R 4/3
SCⅡa4相当。軽い土、7~8mmの黒色スコリア、5mmの褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑨ 褐色土 7.5R 4/4
中部ロームにSCⅡa5相当のスコリアが混じる。7~8mmの黒色スコリア・褐色スコリアを含む。締まり有り。

土坑105 (SP105)



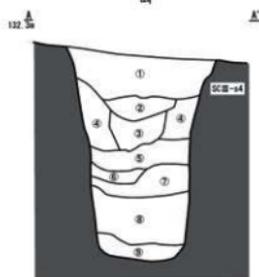
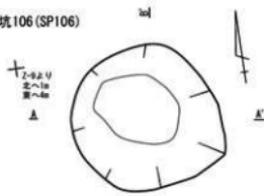
- ① 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa1~b1相当。軽い土、1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa1~b1相当。やや軽い土、①よりややわらかい、7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程の褐色スコリアを多く含む。

- ③ 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa2相当。やや軽く、かたく締まった土、1cm程の黒色スコリアを多く含む。5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ④ 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa2相当。やや軽い土、1cm程の黒色スコリアを多く含む。
- ⑤ 褐色土 7.5R 4/4
SCⅡa2相当。軽い土、5~10mmの黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑥ 褐色土 10R 4/4
SCⅡa3相当。やや軽い土、⑤よりややわらかい、7~8mmの黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを含む。締まり有り。
- ⑦ 暗褐色土 7.5R 3/4
SCⅡa4~b5IV相当。軽い土、7~8mmの黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑧ 褐色土 7.5R 4/4
坑下のスコリア一部埋相当。軽い土、7~8mmの黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑨ 褐色土 7.5R 4/4
坑下のスコリア一部埋相当。7~8mmの黒色スコリアを多く含む。5mm程の褐色スコリアを含む。締まり有り。
- ⑩ 暗褐色土 7.5R 3/4
坑下のスコリア一部埋相当。中部ローム層が少量混入。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを少量含む。粘性やや有り。締まり有り。
- ⑪ 褐色土 7.5R 4/4
一部埋相当土にベラスコリア混入。軽い土、5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを含む。締まり有り。

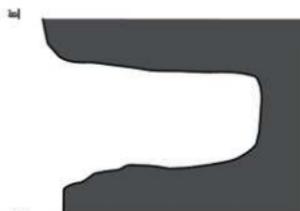
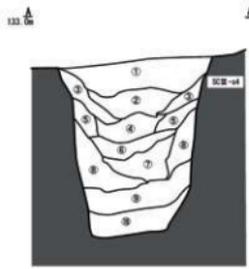
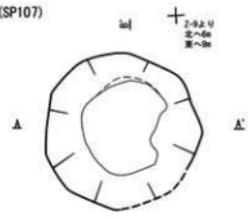


第13図 第Ⅱ文化層 土坑3

土坑106 (SP106)



土坑107 (SP107)



- ① 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa1~b1相当。粗い土、1cm程度の黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa1~b1相当。粗い土、1cm程度の黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ③ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa2~b2相当。やや粗い土、②よりややわらかい、5mmの黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ④ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa3~a5相当。粗い土、1cm程度の黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑤ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa5相当。粗い土、1cm程度の黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑥ 暗褐色土 7.5YR 3/4
SCⅡa5~a6相当。やや粗い土、7~8mmの黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを含む。締まり有り。
- ⑦ 褐色土 7.5YR 4/4
B2F~C2層相当。やや粗い土、7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑧ 黒褐色土 10YR 2/3
B2層相当。粗い土、5mm程度の橙色スコリアを多く含む。粘性やや有り。締まり有り。
- ⑨ 黒褐色土 10YR 1/1
B2層相当。粗い土、5mm程度の橙色スコリアを含む。締まり有り。

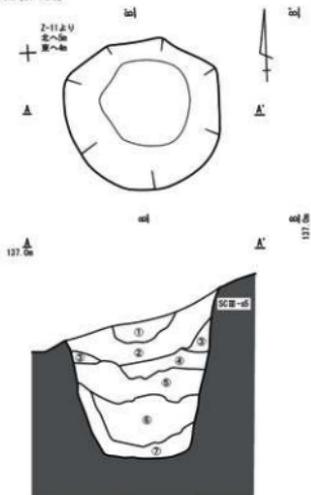


- ① 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa1~b1相当。粗い土、1cm程度の黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa1~b1相当。やや粗い土、①よりややわらかい、1cm程度の黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ③ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa2相当。やや粗い土、1cm程度の黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ④ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa2相当。やや粗い土、③よりややわらかい、7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑤ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa2相当。粗い土、7~8mmの黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑥ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa2~b2相当。粗い土、7~8mmの黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを含む。締まり有り。
- ⑦ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa2~b2相当。粗い土、7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑧ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa3~a5相当。非常に粗い土、1cm程度の黒色スコリア、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑨ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡa3~a5相当。やや粗い土、⑦よりややわらかい、7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程度の橙色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑩ 褐色土 10YR 4/4
B2F~B2層相当。やや粗い土、⑩よりややわらかい、5mm程度の黒色スコリア・橙色スコリアを含む。中部ローム状が少量混入する。締まり有り。



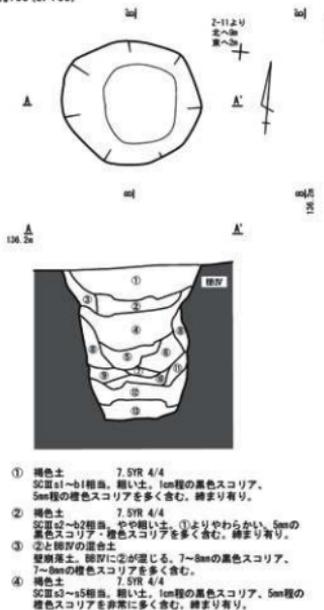
第14図 第Ⅱ文化層 土坑4

土坑108 (SP108)



- ① 暗褐色土 7.5YR 3/4
即位相当。粗い土。1cm程の黒色スコリアを含み、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ11~12相当。粗い土。1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ③ 暗褐色土 7.5YR 3/4
SCⅡ12相当。やや粗い土。7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ④ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ13相当。やや粗い土。1cm程の黒色スコリアを含み、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑤ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ14~15相当。やや粗い土。1cm程の黒色スコリアを含み、5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑥ 暗褐色土 10YR 3/3
即位相当か。やや粗い硬質の粘土層。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを含み、炭化灰が互層に入る。粘性やや有り。締まり有り。
- ⑦ 褐色土 10YR 4/4
即位相当。粗い土。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを多く含む。粘性やや有り。締まり有り。

土坑109 (SP109)



- ① 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ11~12相当。粗い土。1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ② 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ12~13相当。やや粗い土。(1)よりやや細かい。5mmの黒色スコリア・褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ③ ②と即位の混合土
暗褐色土。粗砂に2%が混じる。7~8mmの黒色スコリア、7~8mmの褐色スコリアを多く含む。
- ④ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ13~15相当。粗い土。1cm程の黒色スコリア、5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑤ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ15~16相当。やや粗い土。(4)よりやや細かい。7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑥ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ16~18相当。やや粗い土。7~8mmの黒色スコリアを含み、5mm程の褐色スコリアを非常に多く含む。締まり有り。
- ⑦ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ17~18相当。粗い土。(6)よりやや細かい。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを多く含む。粘性やや有り。下層部の影響を受け、やや粘性有り。締まり有り。
- ⑧ 褐色土 7.5YR 4/4
SCⅡ18~19相当。粗い土。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを含み、炭化灰が互層に入る。粘性やや有り。締まり有り。
- ⑨ 暗褐色土 7.5YR 3/4
即位相当か。やや粗い土。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを含み、炭化灰が少量互層に入る。粘性やや有り。締まり有り。
- ⑩ 暗褐色土 10YR 3/3
即位相当か。やや粗く、やや硬質の粘土層。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを含み、炭化灰が互層に入る。粘性やや有り。締まり有り。
- ⑪ 暗褐色土 10YR 3/3
即位相当。粗い土。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを多く含む。締まり有り。
- ⑫ 暗褐色土 10YR 4/4
即位~中細ローム相当か。やや粗く、やや硬質の粘土層。5mm程の黒色スコリア・褐色スコリアを含む。締まり有り。
- ⑬ オリーブ黄色土 2.5Y 4/3
即位~中細ローム相当。粗い土。5mmの黒色スコリアを少量、5mm程の褐色スコリアを含む。粘性やや有り。締まり有り。

第15圖 第II文化層 土坑5



剖面はより上位であったと推測される。

土坑108 (SP108)

平面円形を呈する土坑である。やや丸みを帯びた底面からやや外開きに立ち上がる壁面を持つ。検出面は第Ⅲスコリア帯スコリア5であるが、上層に第Ⅲ黒色帯、第Ⅲスコリア帯スコリア1・2を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと推測される。

土坑109 (SP109)

平面円形を呈する土坑である。平坦な底面からほぼ直立して立ち上がる壁面を持つ。検出面は第Ⅳ黒色帯であるが、上層に第Ⅲスコリア帯スコリア1・2を含むことから、本来の掘削面はより上位であったと推測される。

第2表 第Ⅱ文化層 土坑一覧

遺構名	検出面	グリッド	規模 (m)			平面形状	
			長さ	幅	深さ		
土坑96	SP096	BBIII	V-W-6-7	1.16	0.62	1.53	(円形)
土坑99	SP099	SCIII	Z-7	1.07	1.02	1.22	円形
土坑100	SP100	SCIII	Z-7	1.18	1.14	1.48	円形
土坑103	SP103	SCIII	Z-6-7	1.29	1.20	1.29	円形
土坑104	SP104	SCIII	Z-9	1.23	1.21	1.45	円形
土坑105	SP105	SCIII	Y-8	1.06	1.02	1.64	円形
土坑106	SP106	SCIII	Z・Y-9	1.30	1.21	1.76	円形
土坑107	SP107	SCIII	Z-9	1.27	1.26	1.51	円形
土坑108	SP108	SCIII	Z-11	1.33	1.23	1.40	円形
土坑109	SP109	BBIV	Z-11	1.14	1.02	1.28	円形

2 石器ブロック (第16・19・23・26図 第3・4表)

8号石器ブロック (SBL08)

長軸9.20m、短軸5.84mの範囲に石器57点が集中して出土しており石器ブロックと認定した。検出層位は第Ⅲ黒色帯を主体とするものの、接合関係・平面分布等から第Ⅱ黒色帯、第Ⅱスコリア層、第Ⅲスコリア帯で出土した剥片・砕片、第Ⅲスコリア帯で出土した二次加工剥片も本ブロックに含めて報告した。

石器組成は、スクレイパー1点、石刃2点、二次加工のある剥片1点、使用痕のある剥片1点、石核3点、剥片・砕片49点の合計57点で構成される。石材組成は黒曜石製28点(天城柏峠群15点、諏訪屋ヶ台群9点、和田鷹山群1点、推定不可3点)ホルンフェルス製28点、流紋岩製1点である。

黒曜石、流紋岩では打面転移は最小限でやや大きな縦長及び横長の剥片剥離を主体とするのに対し、ホルンフェルスでは打面転移を繰り返し小型幅広の剥片剥離を行っている点、石材により剥片剥離技術が異なっている可能性がある。石核と剥片の接合が確認できたのはホルンフェルスの2点である。なお、石器ブロックに重複して炭化物が集中して検出された。

出土遺物 (第17・18図)

2はスクレイパーである。やや幅広の剥片の左側縁に小剥離を連続させ刃部とする。また右側縁には使用痕とみられる微細な剥離が認められ、二箇所がノッチ状に凹んでいる。黒曜石(諏訪屋ヶ台群)製である。

3・4は自然面に近い部分の剥片剥離で得られた石刃である。3は自然面を打面として剥片剥離を行い、表面に右半から下部にも自然面を残す。3は黒曜石(天城柏峠群)製、4は流紋岩製である。

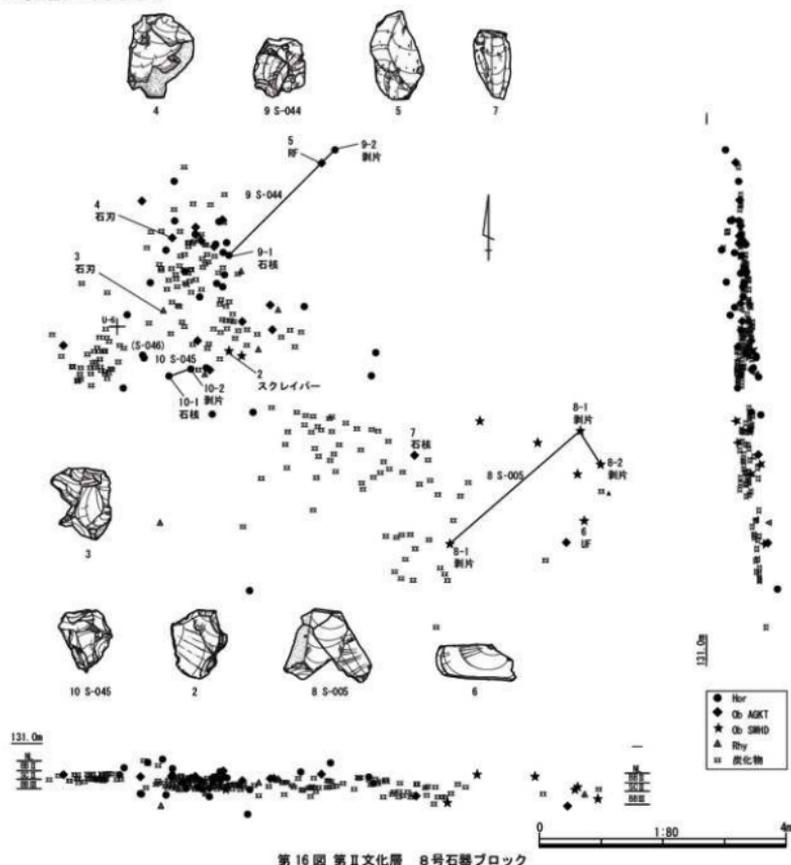
5はやや厚みがある縦長の剥片の下部部に小剥離が認められることから二次加工のある剥片と判断した。黒曜石(天城柏峠群)製である。6は薄手の横長の剥片の右側縁及び右下部部に使用痕とみられる微細な剥離が認められることから、使用痕のある剥片と判断した。黒曜石(諏訪屋ヶ台群)製である。

7は小型の縦長剥片を主体に剥離した石核である。上面に丁寧な打面調整を行いこれを打面とし、側面の全周で縦長剥片を剥離している。黒曜石(天城柏峠群)製である。

8は折損した剥片3点が接合している。自然面付近で縦長剥片を剥離していることが確認できる。同剥片剥離の打面及び剥片下部部、右側縁は折損により失われている。裏面はネガ面となっている。黒曜石(諏訪屋ヶ台群)製である。

9は打面転移を繰り返し小型化した石核にやや幅広の剥片が接合している。接合した剥片は中型程度

8号石器ブロック (SBL08)



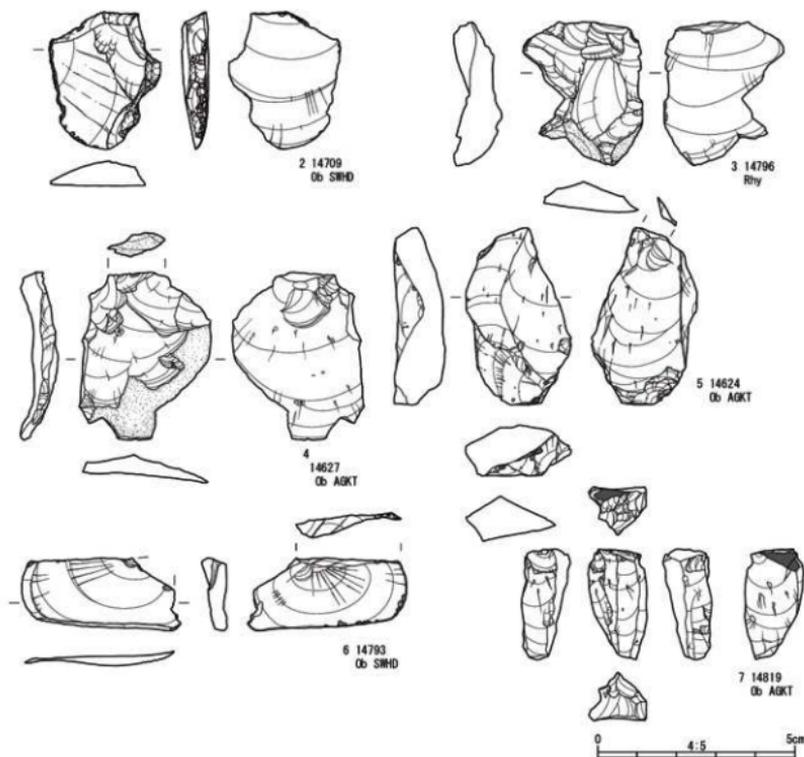
第16図 第II文化層 8号石器ブロック

の大きさであるが、石核に残された剥離面は小型幅広の剥片を剥離していたと考えられる。ホルンフェルス製である。10は小型幅広の剥片を主体に剥離した石核に小型の剥片が接合している。打面転移を繰り返して剥片剥離を行った結果、石核自体が小型化している。ホルンフェルス製である。

9号石器ブロック (SBL09)

長軸8.96m、短軸8.72mの範囲に石器28点が集中して出土しており石器ブロックと認定した。検出層位は第III黒色帯である。

石器組成は、石刃4点、二次加工のある剥片2点、使用痕のある剥片1点、剥片・碎片21点の合計28点で構成される。石材組成は黒曜石製26点(天城柏峠群19点、諏訪星ヶ台群5点、未分析2点)ホルンフェルス製2点である。黒曜石、ホルンフェルスともに大型の石刃を主体としている。なお、石器ブロックに重複して炭化物が集中して検出された。



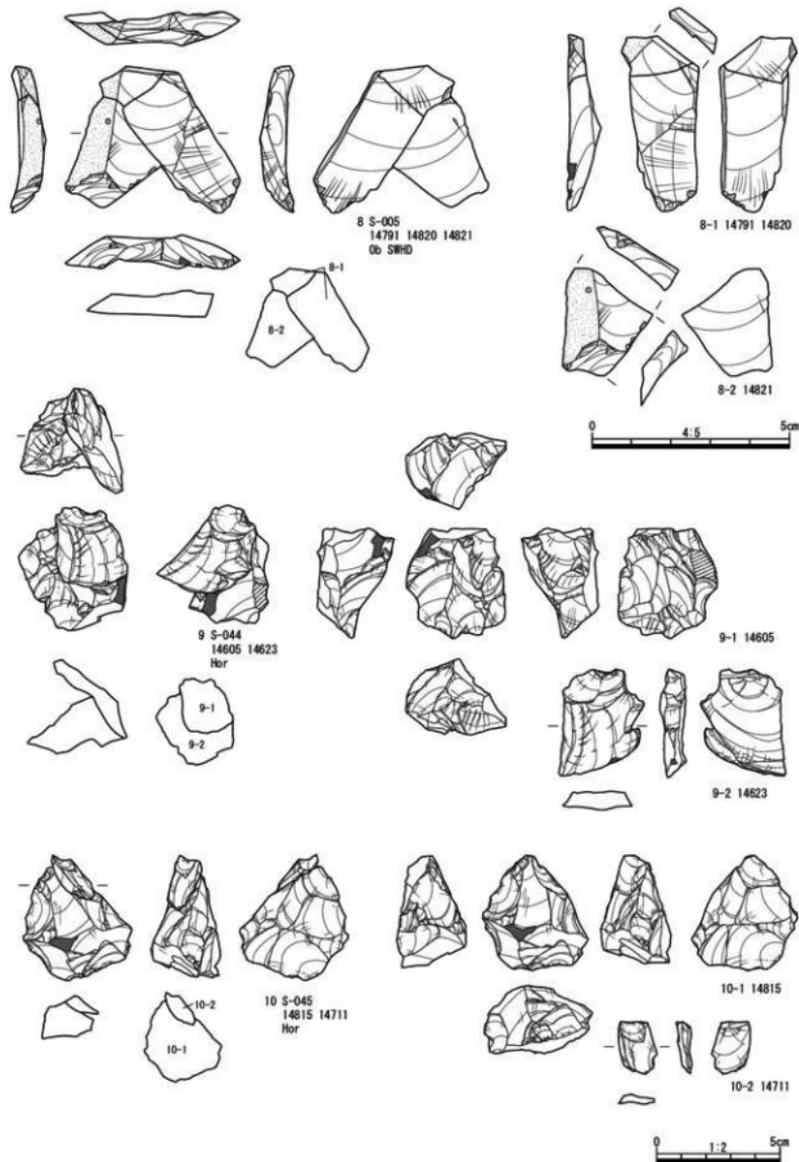
第17図 第Ⅱ文化層 8号石器ブロック
スクレイパー・石刃・二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・石核

出土遺物（第20～22図）

11は大型の石刃である。礫面に近い部分で同一方向から連続した剥片剥離で得られたやや厚みがある石刃で、表面下端には自然面を残す。ホルンフェルス製である。12は礫面に近い部分で得られた石刃である。同一方向から連続した剥片剥離で得られた石刃で、表面右半には自然面を残す。黒曜石（天城柏峠群）製である。13は大型の石刃である。礫面（風化が進んだ節理面）に近い部分で、礫面を打面として、同一方向から連続した剥片剥離で得られた石刃で、表面左半には自然面（節理面）を残す。側面形も直線的で断面ともに整った石刃である。黒曜石（天城柏峠群）製である。14は大型の石刃である。断面三角形を呈し厚みがある。黒曜石（天城柏峠群）製である。

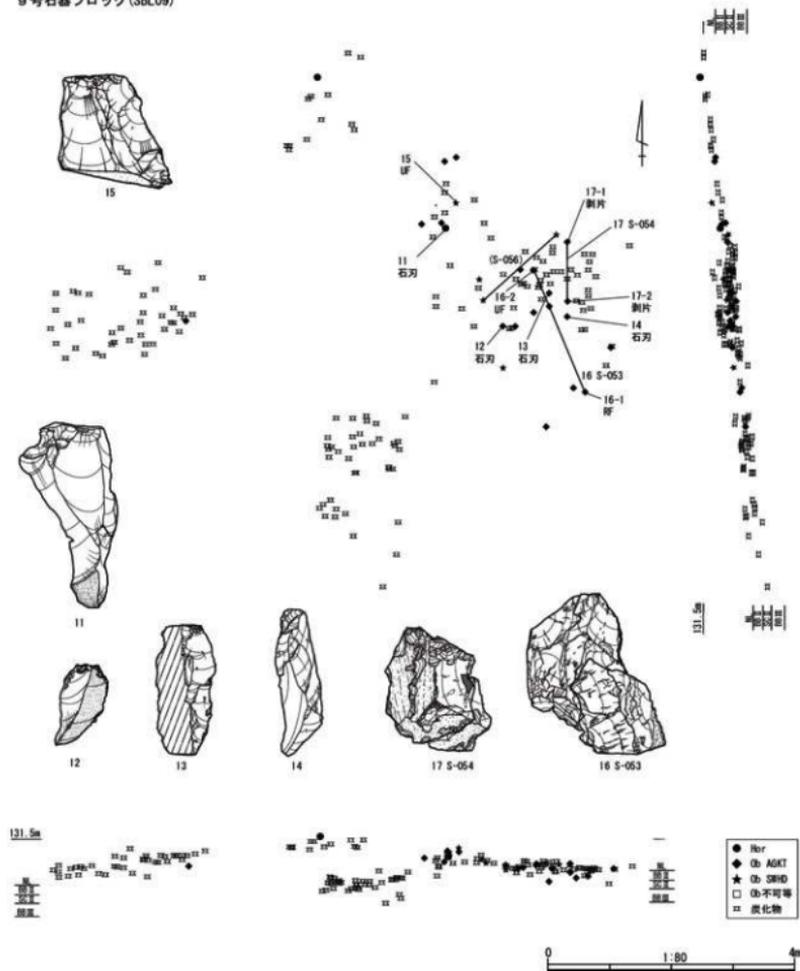
15はやや幅広の大型の剥片で、両側縁に使用痕とみられる微細な剥離が認められることから使用痕のある剥片と判断した。下端面は自然面を残している。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

16は大型剥片の接合資料である。左側縁に残る自然面付近を打面として剥片剥離を行った後、90度の打面転移を行い、上面を打面として16-1の剥片剥離を行う。さらに90度の打面転移を行い、左側縁を打面として剥片剥離を行い、幅広の大型剥片（16-2）を得ている。なお、16-1は剥片上半を折損している。



第18図 第II文化層 8号石器ブロック
接合資料

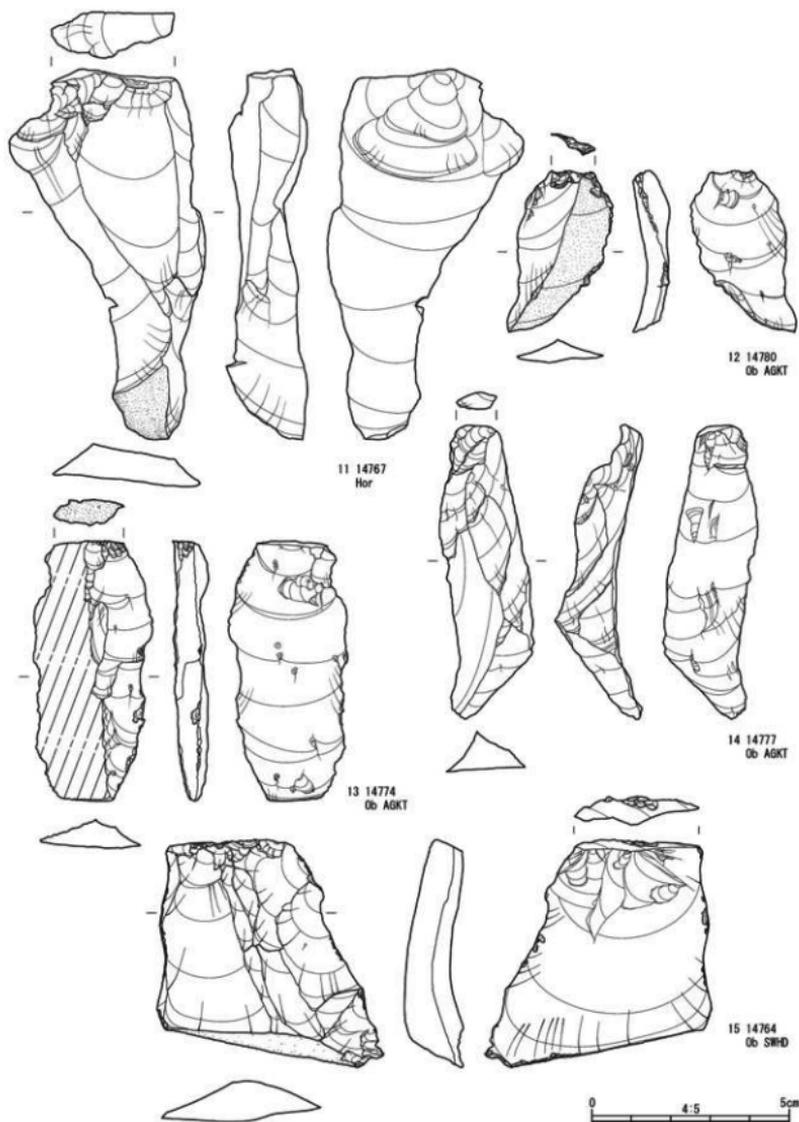
9号石器ブロック (SBL09)



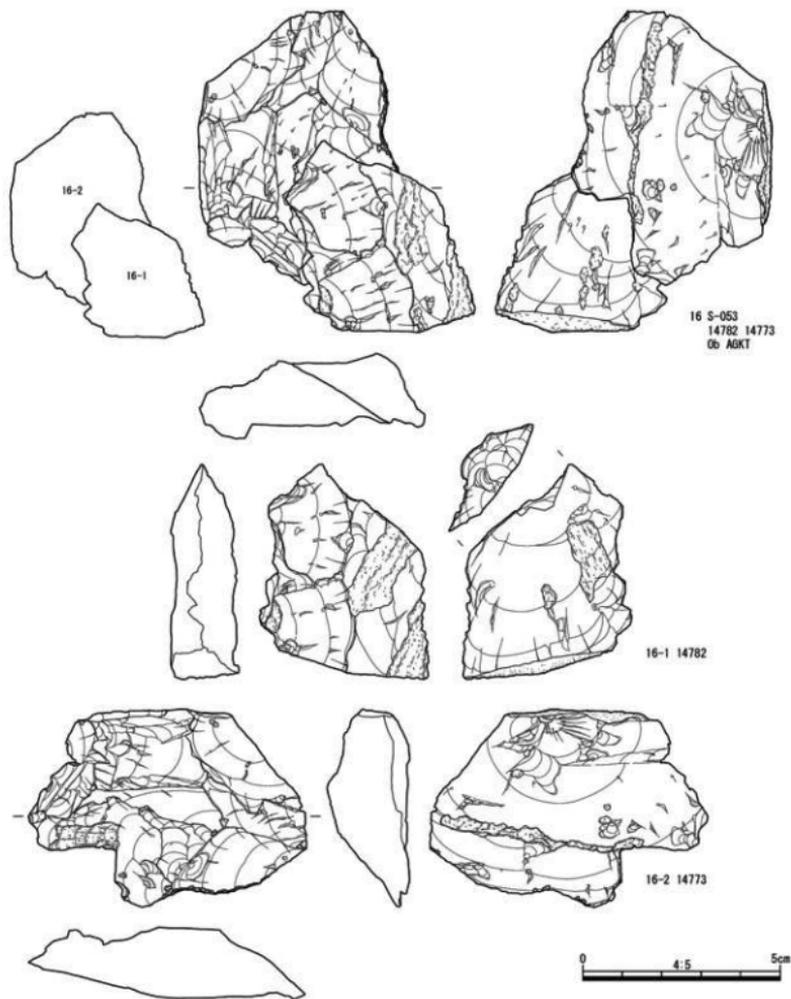
第19図 第Ⅱ文化層 9号石器ブロック

黒曜石（天城柏峠群）製である。

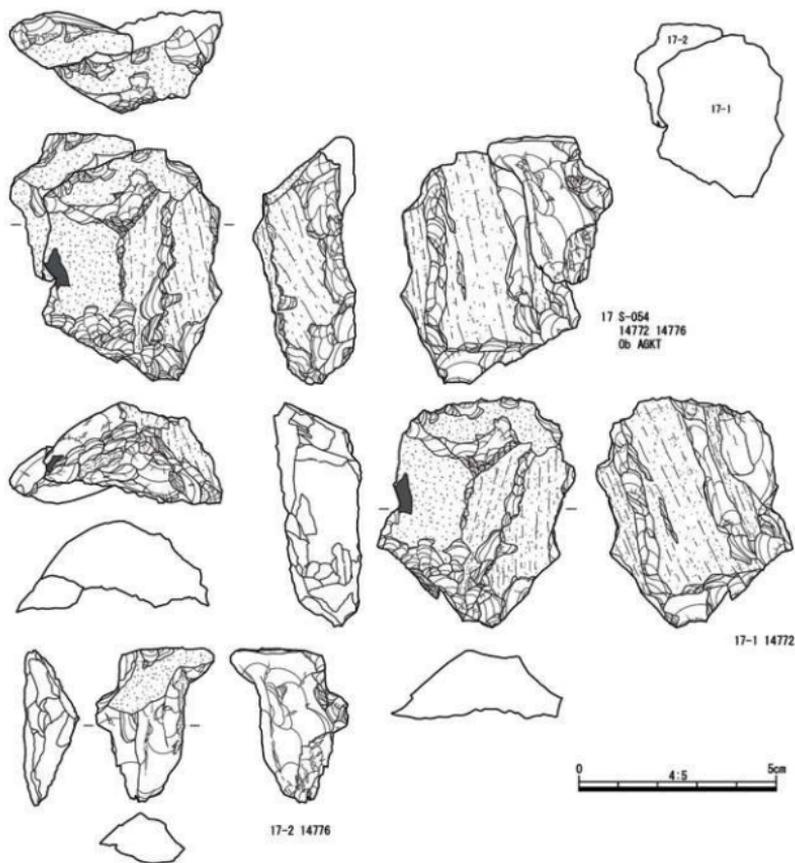
17は剥片2点が接合している。右側面を打面として剥片剥離を行い17-1が得られたが、節理面で剥離したために分厚い剥片が生じた。その後、この剥片を母岩として90度の打面転移を行い上面の自然面を打面として17-2の剥片剥離を行っている。ただし、節理及び打面が斜位を呈することに起因してか厚く短い剥片が作出される結果となったと推測される。黒曜石（天城柏峠群）製である。



第20図 第II文化層 9号石器ブロック
石刃・使用痕のある剥片



第21図 第Ⅱ文化層 9号石器ブロック
接合資料 1



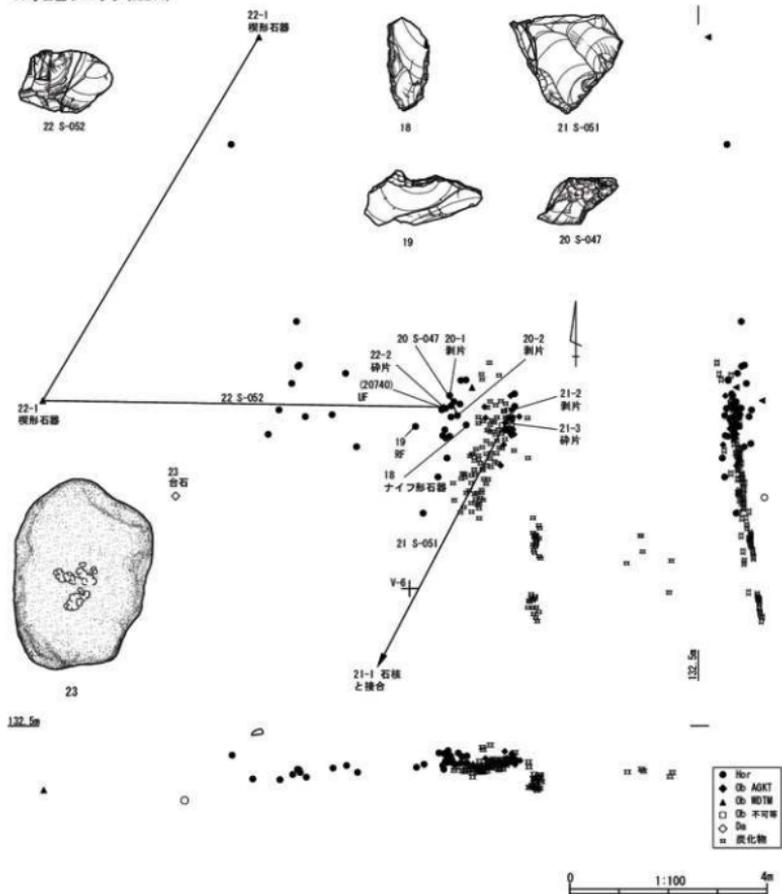
第22図 第II文化層 9号石器ブロック
接合資料 2

11号石器ブロック (SBL11)

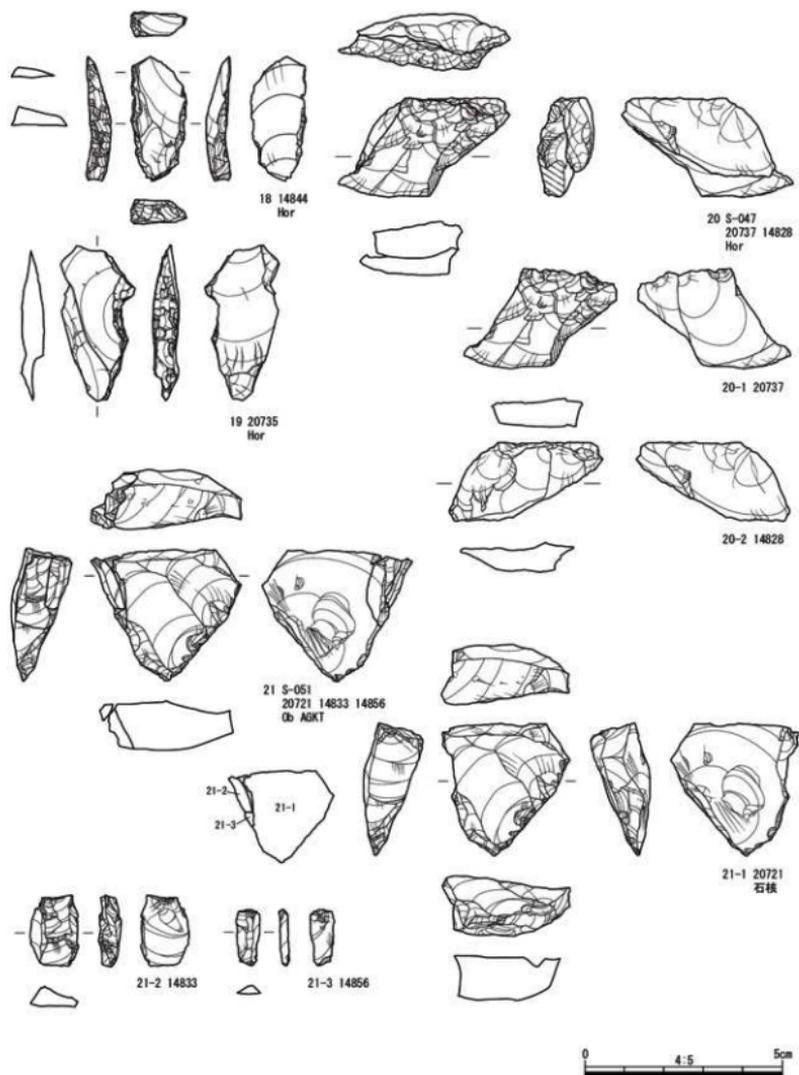
長軸13.20m、短軸8.60mの範囲に石器59点が集中して出土しており石器ブロックと認定した。検出層位は第Ⅲ黒色帯、第Ⅲスコリア帯を主体とし、一部が第Ⅱスコリア層、第Ⅱ黒色帯に及ぶ。

石器組成は、ナイフ形石器1点、楔形石器2点、二次加工のある剥片1点、使用痕のある剥片1点、剥片・碎片53点、台石1点の合計59点で構成される。石材組成は黒曜石製23点(天城柏峠群17点、和田高松沢群4点、推定不可1点、未分析1点)ホルンフェルス製35点、デイサイト製1点である。なお、石器ブロックに重複して炭化物が集中して検出された。

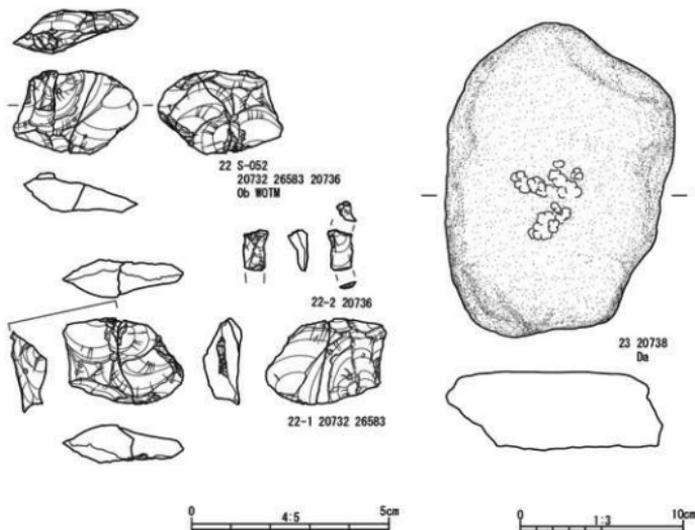
11号石器ブロック (SBL11)



第23図 第Ⅱ文化層 11号石器ブロック



第24図 第II文化層 11号石器ブロック
ナイフ形石器・二次加工のある剥片・接合資料



第25図 第Ⅱ文化層 11号石器ブロック
接合資料・台石

出土遺物（第24・25図）

18は小型の縦長の剥片を素材とし打点側を基部に用い、左側縁及び右側縁下半に調整を加えた二側縁加工のナイフ形石器である。刃部は右側縁上半に形成される。左側縁の加工は表裏面双方からの対向剥離が認められる。ホルンフェルス製である。

19は90度の打面転移を行い得られた小型の縦長の剥片の右側縁に二次加工を行うことから二次加工のある剥片と判断した。なお、形状がナイフ形石器に類似するが、二次加工部分が一部折り状を呈すること、刃部に該当する部分の表面が階段状剥離を起こしており、必ずしも良好な刃部とは言い難いことから、二次加工のある剥片とした。右側縁の二次加工は表裏面両方からの対向剥離により行われる。ホルンフェルス製である。

20は小型幅広の剥片の接合資料である。上面を打面とし、小型幅広が2点得られている。ホルンフェルス製である。

21は下端部が切除された大型の剥片を母岩（石核）とし、この切断面を打面として母岩側面を作業面として小型の剥片剥離（21-2・21-3）を行っている。黒曜石（天城柏峠群）製である。

22は上下端に対向剥離の際に生じた微細な剥離が認められることから楔形石器と判断した。表面右端部では幅狭の縦長の小剥片22-2が剥離しており、接合関係でその状況を確認できる。黒曜石（和田高松沢群）製である。

23は扁平な円礫の平坦面の中央に敲打痕が認められることから台石と判断した。石器ブロック西端で検出されている。デイサイト製である。

14号石器ブロック（SBL14）

長軸29.20m、短軸22.50mの範囲に石器1,869点が集中して出土しており石器ブロックと認定した。

石器の集中域は大きく4つ認められる。(A～D)

- A 黒曜石(蓼科冷山群)を主体として、ホルンフェルス、珪質頁岩が一定量認められる。
- B ホルンフェルスを主体としてガラス質黒色安山岩が一定量認められる。
- C ホルンフェルス、黒曜石(蓼科冷山群)が一定量認められるが他に比べやや散漫な分布を示す。
- D ホルンフェルスを主体として黒曜石(蓼科冷山群)が一定量認められる。

A～Dには石材別の分布も一定の傾向が認められるが、互いに接合関係が認められ明確な分離は困難であることから、これら集中域を一括して扱った。接合関係や平面分布からブロックの認定を行ったが、検出層位は第II黒色帯、第IIスコリア帯を主体とし、第Iスコリア層、第I黒色帯、ニセローム層、第III黒色帯に及んでおり、通常の出土石器の接合関係よりも広範であることは留意すべきである。前述のとおり、一部出土層位の認定に疑問点が残るが、現地調査担当者の層位認定に基づき報告する。

石器組成は、スクレイパー1点、楔形石器9点、石刃7点、石核23点、石核穂付剥片1点、スポール状剥片1点、両極剥片1点、二次加工のある剥片11点、使用痕のある剥片8点、剥片・砕片1,798点、敲石6点、台石3点の合計1,869点で構成される。石材組成は黒曜石製784点(天城柏峠群9点、蓼科冷山群406点、和田鷹山群1点、推定不可368点)ホルンフェルス製850点、ガラス質黒色安山岩製57点、頁岩製2点、珪質頁岩(暗灰色)製167点、砂岩(中粒)製5点、閃緑岩製1点、角閃石安山岩製1点、ひん岩製2点である。

以上の石材組成から、ホルンフェルス、黒曜石、珪質頁岩、ガラス質黒色安山岩の4種の石材を主体とした石器ブロックと判断できる。また、黒曜石は、産地推定を行った資料では天城柏峠群9点、和田鷹山群1点を除き大半が蓼科冷山群に比定されることから、同石材を中心としていると判断される。

ホルンフェルスは、原礫に近い状態から剥片剥離を行っていることが接合資料からうかがえる一方、黒曜石、珪質頁岩では剥片類に対して石核の点数は必ずしも多くなく、ガラス質黒色安山岩では石核と認定しうるものは未確認であり、ホルンフェルス以外の石材による剥片剥離については、剥片またはブランクの状態からの石器製作か、剥片剥離後に石核自体をブロック外に持ち出した可能性が高いと判断される。ブロック内の接合関係は、ホルンフェルスで比較的広範に認められ、黒曜石、珪質頁岩、ガラス質黒色安山岩では近接地点間での接合が多いという傾向が認められる。

出土遺物(第31図～第47図)

スクレイパー

24は下部部を欠損する厚手大型の剥片を素材として、左側縁及び上端に調整を加え刃部を形成しているため、スクレイパーと判断した。ガラス質黒色安山岩製である。

楔形石器

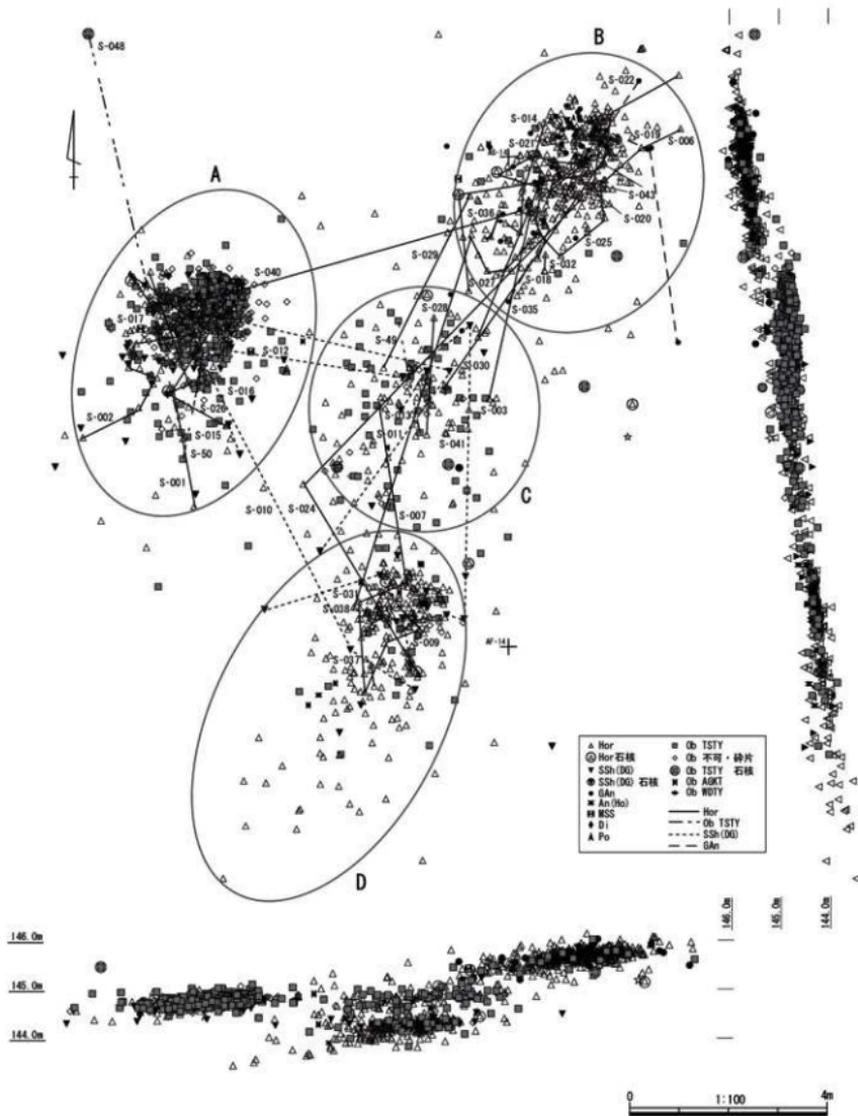
25・26・27・28・29・30は表裏面に上下方向からの対向した剥離あるいは潰れが認められることから楔形石器と判断した。24はやや厚みがある小型の剥片を用いており、左側縁には小剥離と使用痕とみられる微細な剥離も認められる。26・27・28・29・30は小型の剥片を用い、表裏面の上下端に両極剥離により生じた剥離が認められる。いずれも黒曜石(蓼科冷山群)製である。

31は上下端に両極剥離により生じたと考えられる剥離あるいは潰れが認められることから楔形石器と判断した。黒曜石(和田鷹山群)製である。

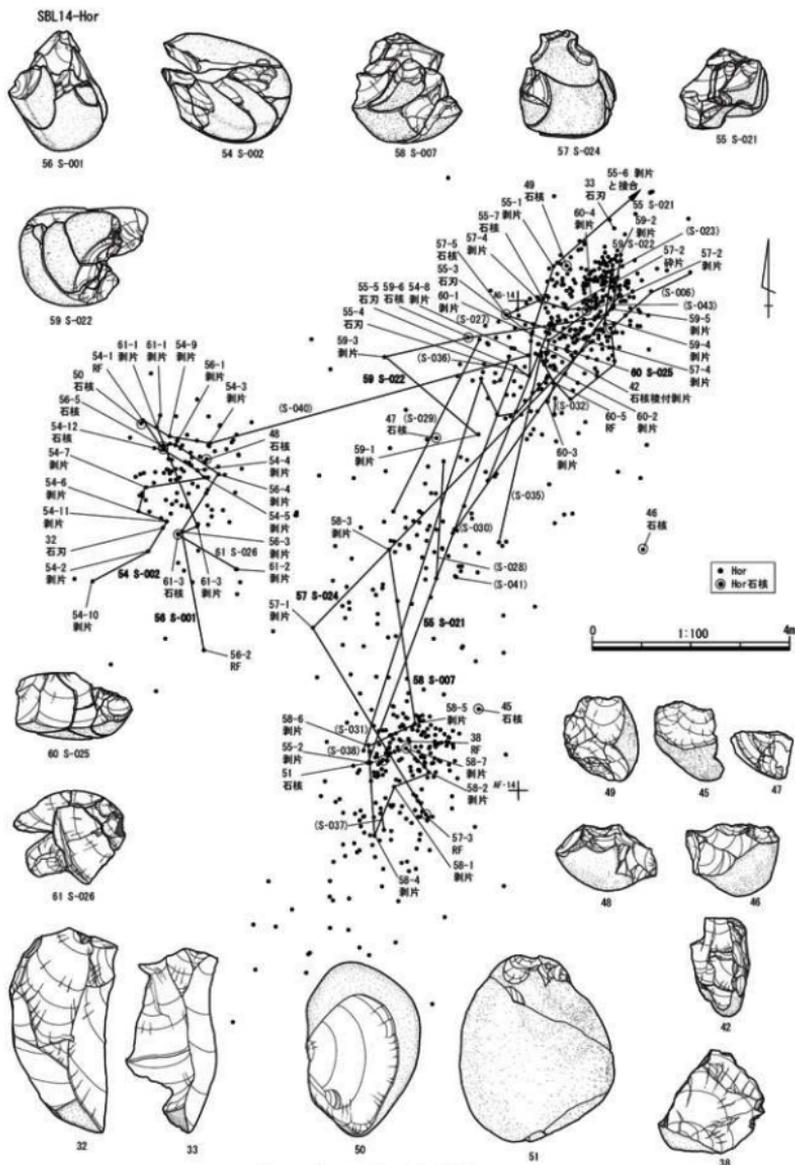
石刃

32・33は上面を打面として連続剥離して得られた大型の石刃である。表面下端には自然面を残している。いずれもホルンフェルス製である。

14号石器ブロック (SBL14)

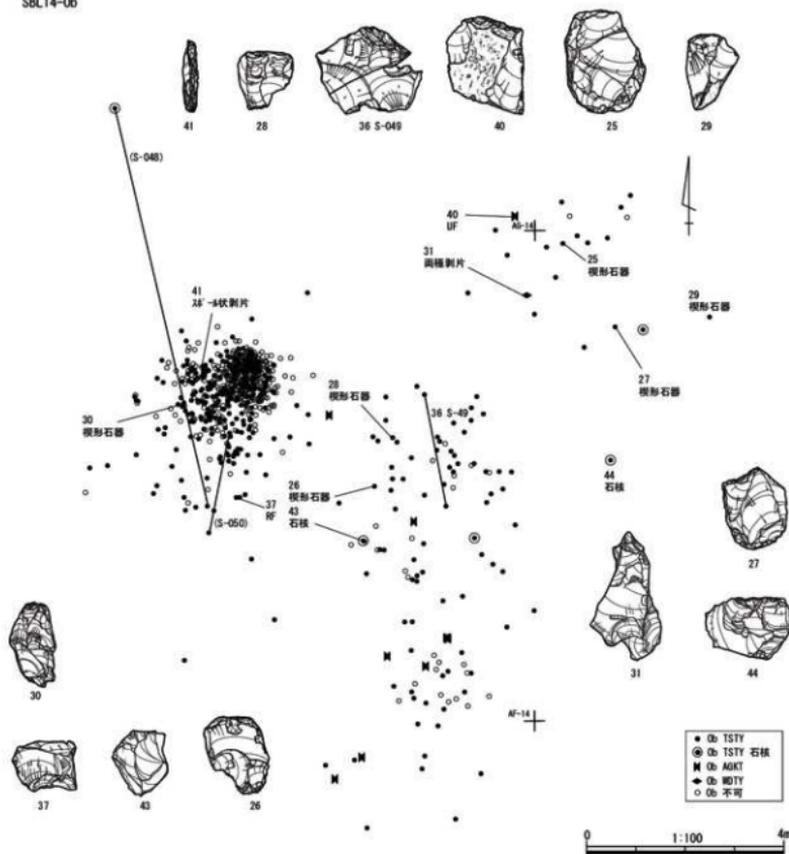


第26図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック



第27図 第II文化層 14号石器ブロック
石器石材別分布 1

SBL14-0b



第28図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
石器石材別分布2

34は自然面を打面として得られた石刃である。ガラス質黒色安山岩製である。

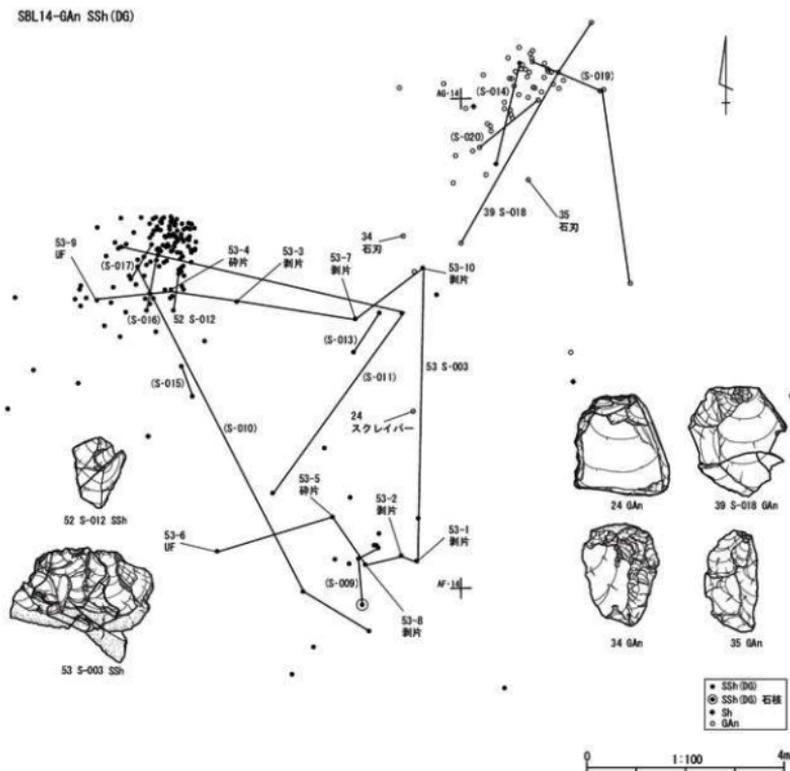
35は上面を打面として連続剥離して得られた石刃である。ガラス質黒色安山岩製である。

二次加工のある剥片

36・37は剥片縁辺部に二次加工を施すことから二次加工のある剥片と判断した。36は幅広の剥片の打点付近に二次加工が確認できる。37は剥片の一端に二次加工が確認できる。いずれも黒曜石（蓼科冷山群）製である。

38は180度の打面転移を行い得られたやや厚みがある幅広の剥片を素材として、左側縁を主体に上端及び右側縁に二次加工を施している。表面下端部には自然面を残している。ホルンフェルス製である。

使用痕のある剥片



第29図 第II文化層 14号石器ブロック
 石器石材別分布3

39は大型幅広の剥片の下端部に使用痕とみられる微細な剥離が認められることから使用痕のある剥片と判断した。ガラス質黒色安山岩製である。

40は自然面付近で得られた薄手の縦長の剥片の両側縁に使用痕とみられる微細な剥離が認められることから使用痕のある剥片と判断した。表面には自然面を多く残している。黒曜石（天城峠群）製である。

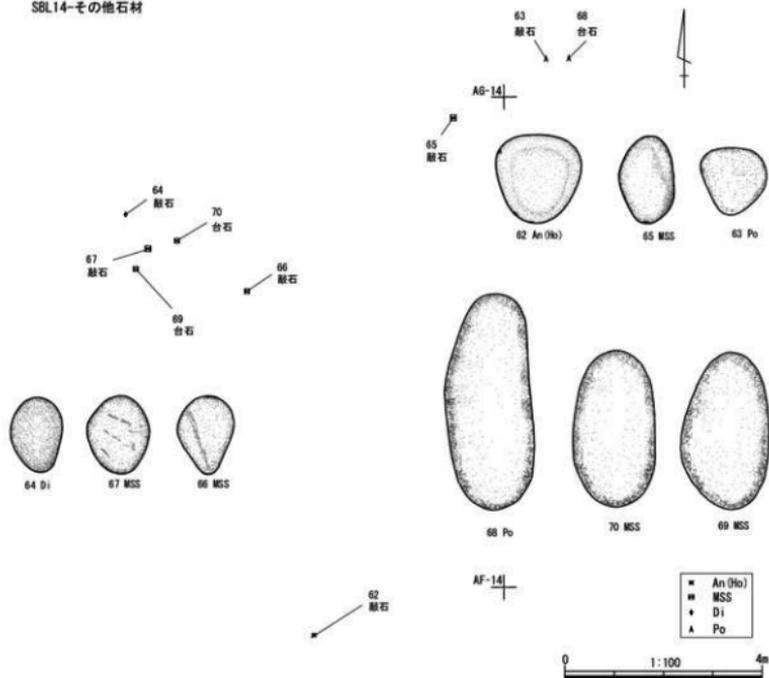
スボール状剥片

41は側縁に微細な二次加工が認められ、これと対向する面には上端を加撃点とする剥離が認められることからスボールと判断した。黒曜石（蓼科冷山群）製である。

石核後付剥片

42は円礫を素材として90度の打面転移を行い剥片剥離を行った後、上面を打面として剥離を行っている石核後付剥片と判断した。隣接する作業面間に稜が形成されている。下端部に自然面を残す。ホルンフェルス製である。

SBL14-その他石材



第30図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
石器石材別分布4

石核

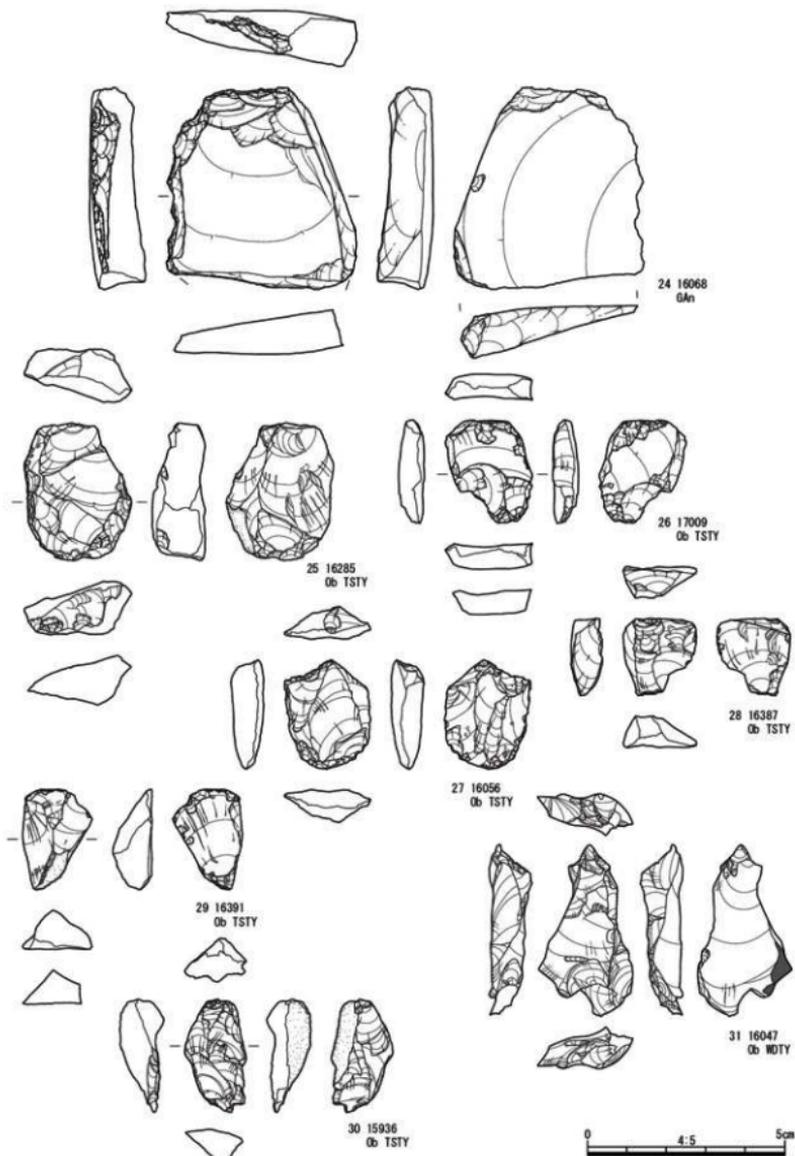
43・44は打面転移を繰り返し小型化したと考えられる石核である。上面を打面として、小型の剥片を剥離したことが確認でき、打面調整も加えられている。いずれも黒曜石（礫科冷山群）製である。

45・46は小型の円礫を素材として、45は右側面を作業面として剥片剥離を行った後、90度の打面転移を行い、上面を打面として幅広のやや大型の剥片剥離を、46は左側面を打面として剥片剥離を行った後、90度の打面転移を行い、上面を打面として幅広の剥片剥離を行っている。剥離面以外の面には自然面を残している。いずれもホルンフェルス製である。

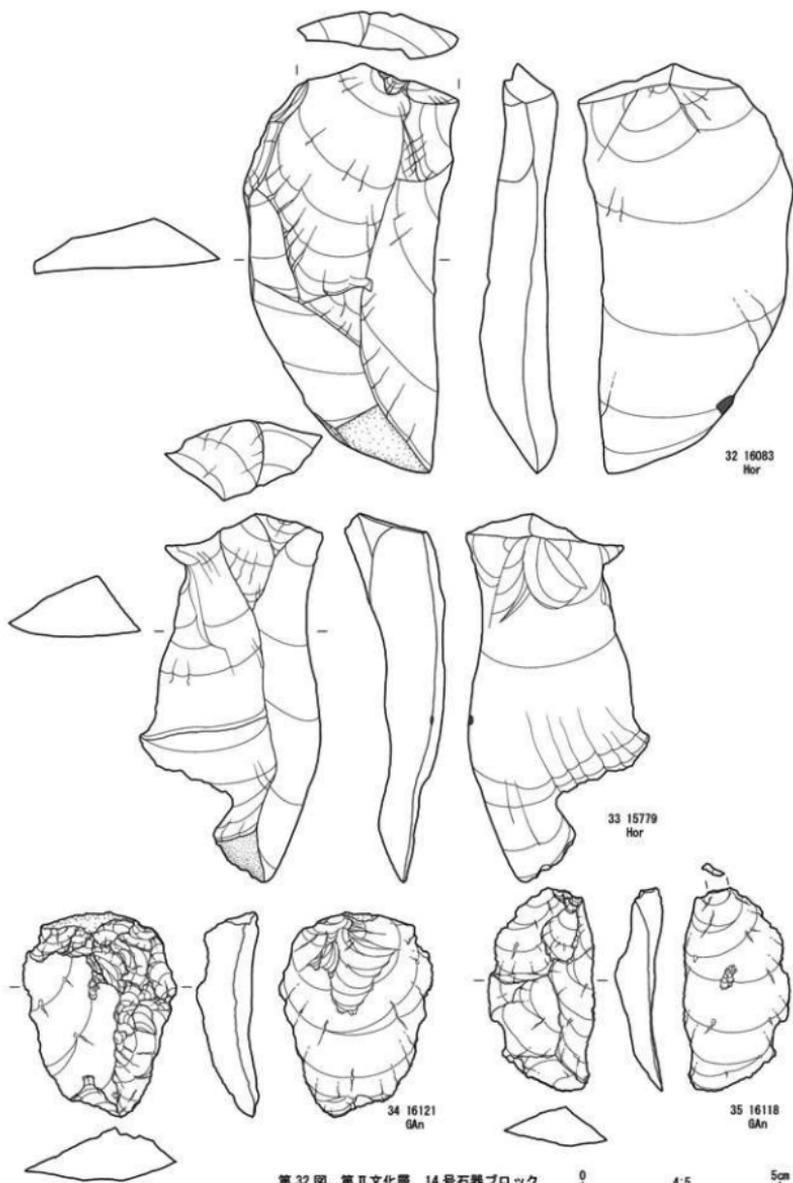
47はやや扁平な円礫を半載したものを用い、その剥離面を打面として小口面で剥片剥離を行った後、90度の打面転移を繰り返し側面及び裏面で剥片剥離を行っている。剥離面以外の面には自然面を残している。ホルンフェルス製である。

48は小型の円礫を素材として側面から小口面を打面として幅広の剥片を剥離している。剥離面以外の面には自然面を残している。ホルンフェルス製である。

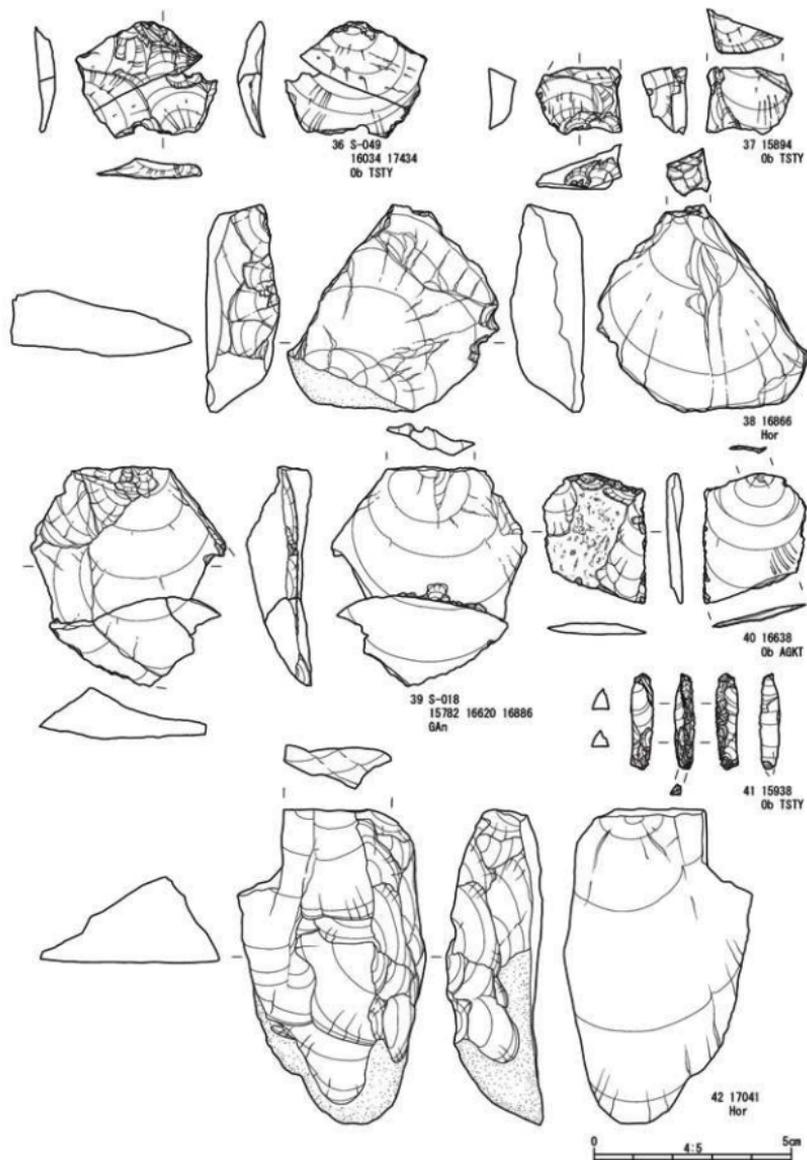
49は小型の円礫を素材として、打面転移を複数繰り返している。小口両面と側面の3面を作業面としていることが確認できる。最新の剥片剥離では小口面を打面として幅広の剥片を剥離している。剥離面以外の面には自然面を残している。ホルンフェルス製である。



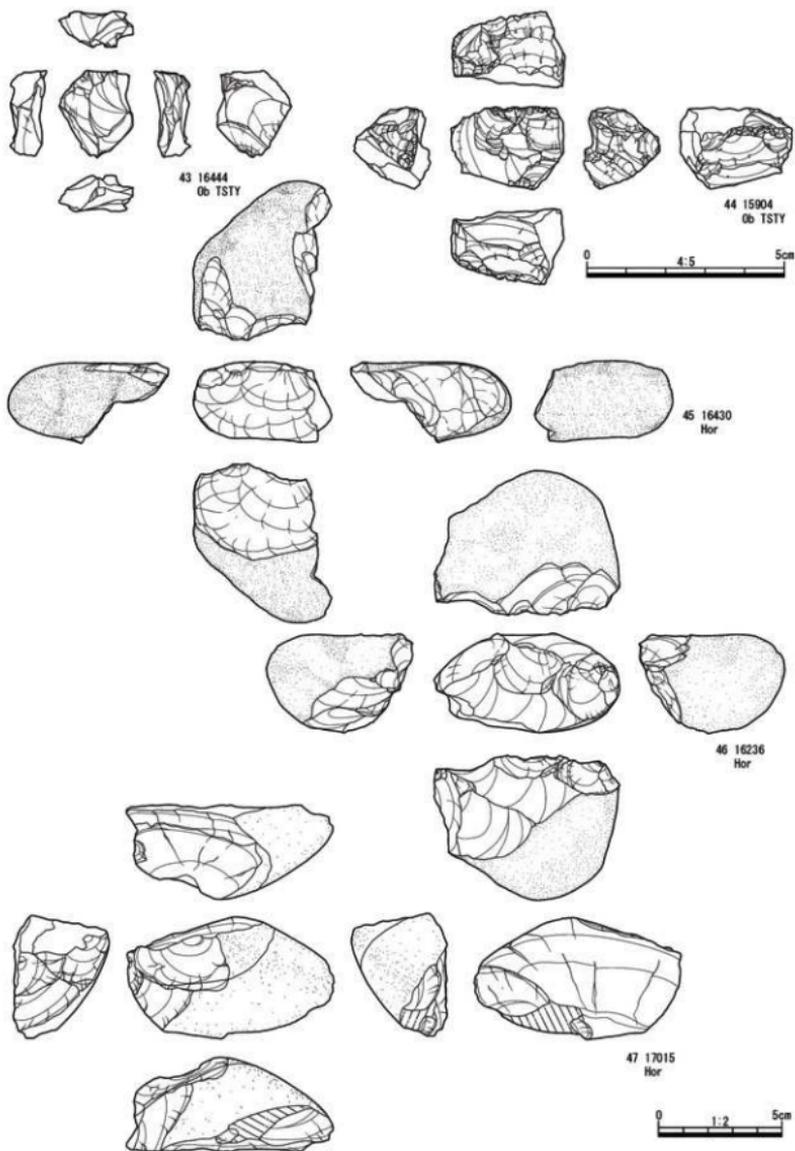
第31図 第II文化層 14号石器ブロック
スクレイパー・楔形石器・高橋剥片



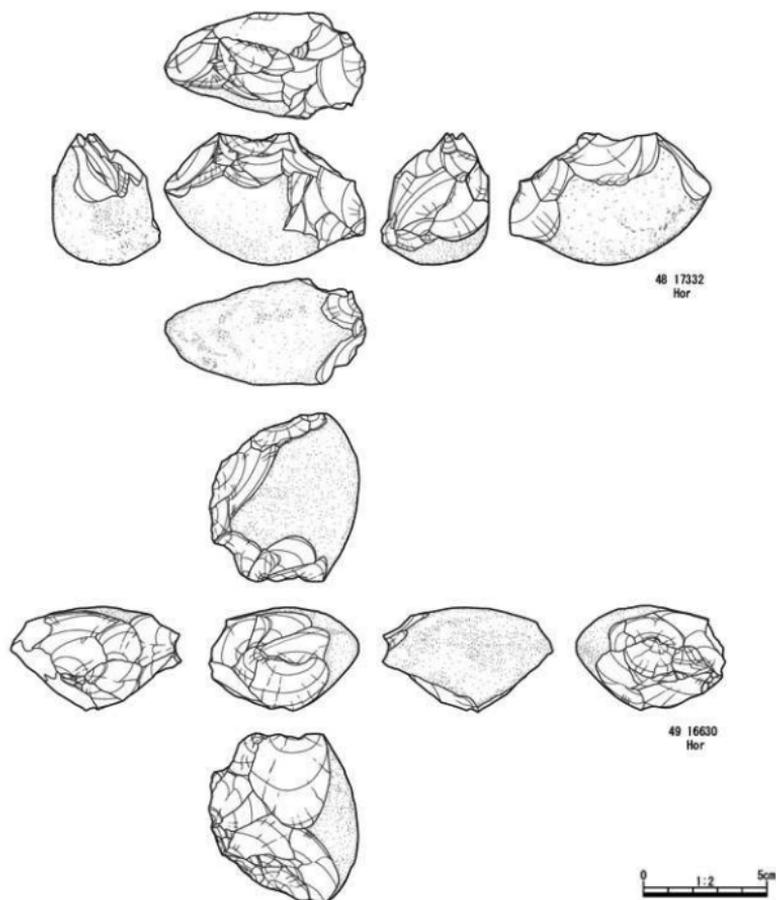
第32図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
石刃



第33図 第II文化層 14号石器ブロック
二次加工のある剥片・使用痕のある剥片・スポール状剥片・石核残付剥片



第34図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
石核1



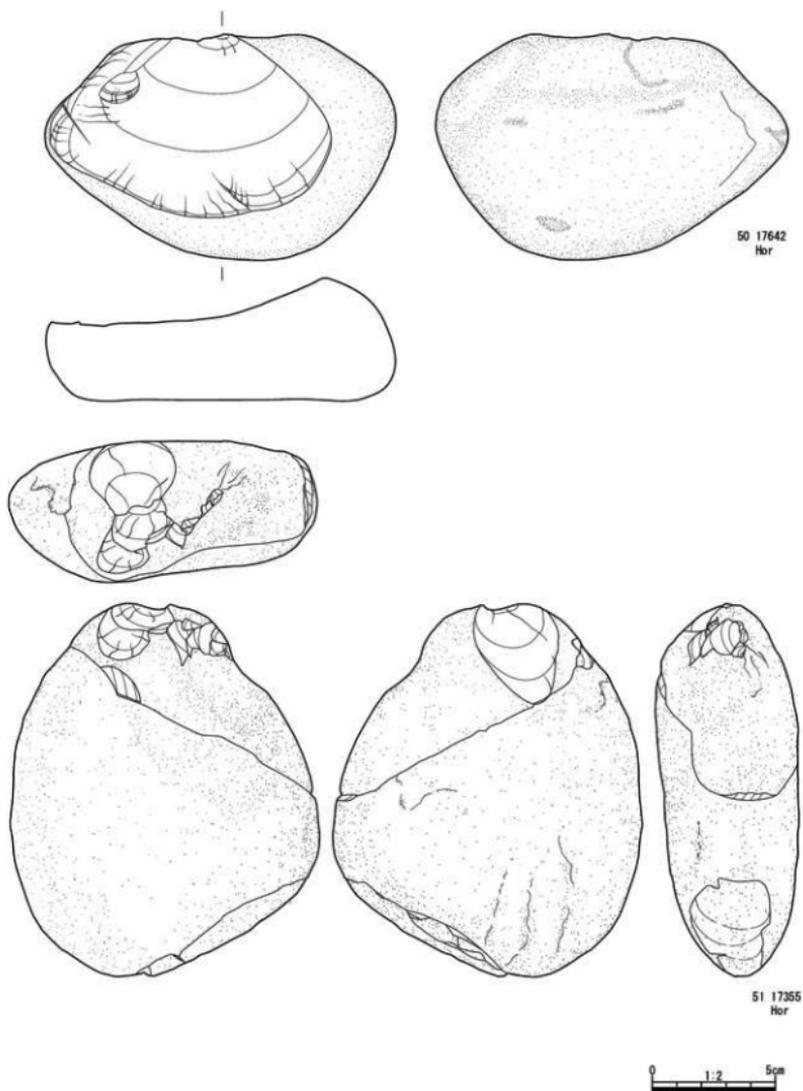
第35図 第II文化層 14号石器ブロック
石核2

50は扁平な円礫を素材として、側面の自然面を打面として大型幅広の剥片剥離を行っている。剥片剥離作業は1回のみで剥離面以外の面には自然面を残している。ホルンフェルス製である。

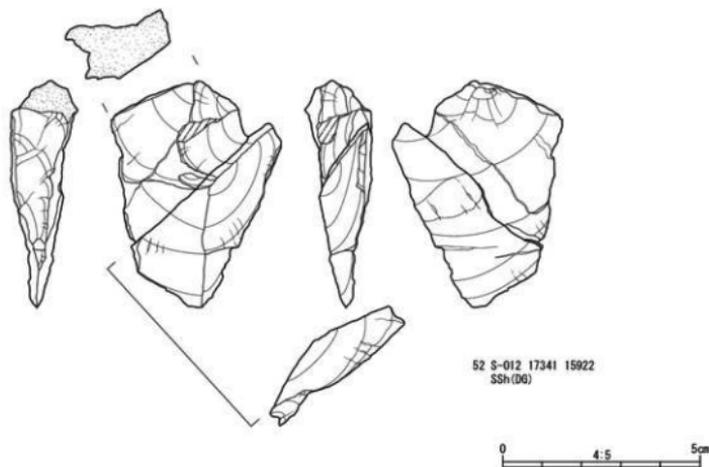
51は大型扁平な円礫を素材として、小口面の自然面を打面として小型幅広の剥片剥離を行っている。剥片剥離作業は数回にとどまり、剥離面以外の面には自然面を残している。ホルンフェルス製である。

接合資料

52は自然面を打面として得られたやや大型の剥片である。埋没環境が異なるためか接合箇所では石質が大きく変質している。珪質頁岩（暗灰色）製である。



第36図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
石核3



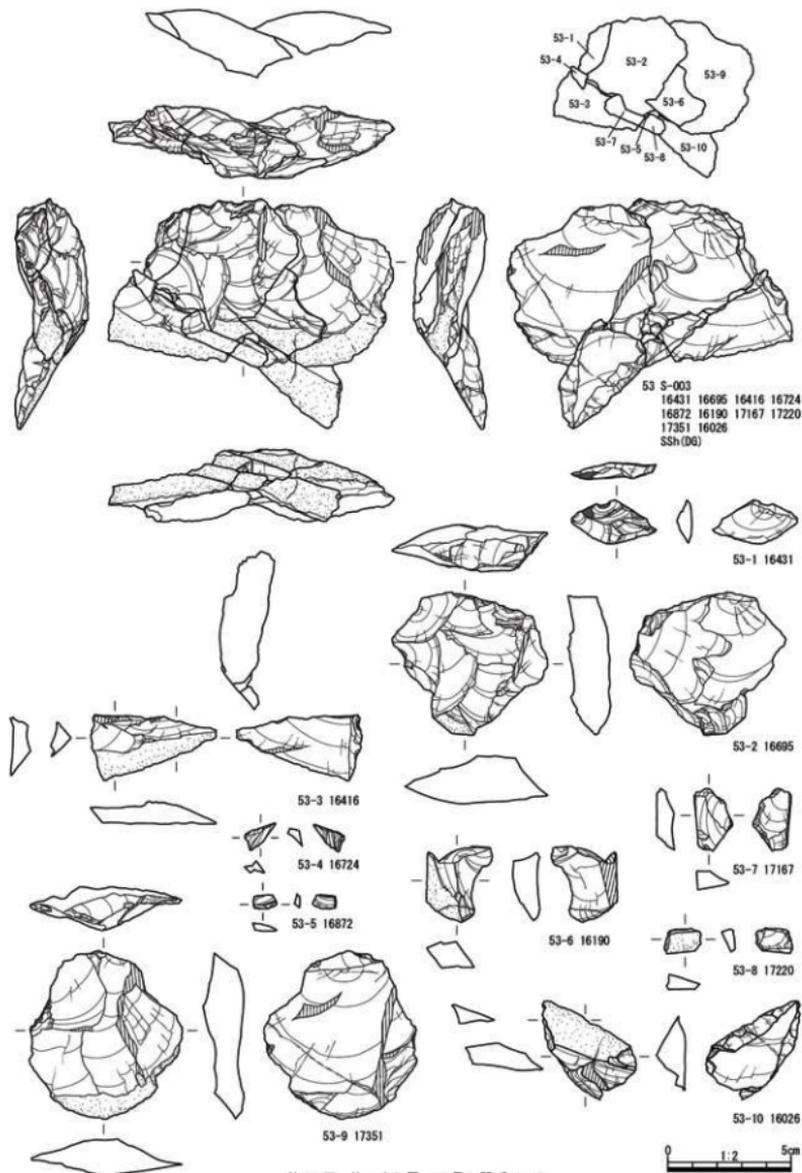
第37図 第II文化層 14号石器ブロック
剥片

53は剥片10点が接合している。図上で上端を打面として左から右に打点を移動させた剥片剥離が観察できる。上端やや左側を打面として53-4を含む剥片剥離を行い（主要な剥片は未接合で、節理で分離した53-4だけが接合）、次に53-1の小型幅広の剥片剥離の後、上面を打面として53-2の厚手大型の幅広剥片を剥離、さらに打点を右に移動させ53-9の大型の幅広剥片を剥離している状況がうかがえる。なお、石核との接点となる剥片53-10は裏面（主要剥離面）の剥離方向が上記剥片剥離とは180度異なっていることから、上記剥片剥離の後、180度の打面転移を行った可能性が考えられる。53-3・53-5・53-6・53-7・53-8は53-2の剥片剥離の際に同時に剥離したものであるが、いずれも節理面で分離したり、剥片剥離後折損したものと判断される。また、53-6・53-9は側縁に使用痕とみられる微細な剥離が認められることから、剥片剥離後、剥片を使用したことがうかがえる。珪質頁岩（暗灰色）製である。

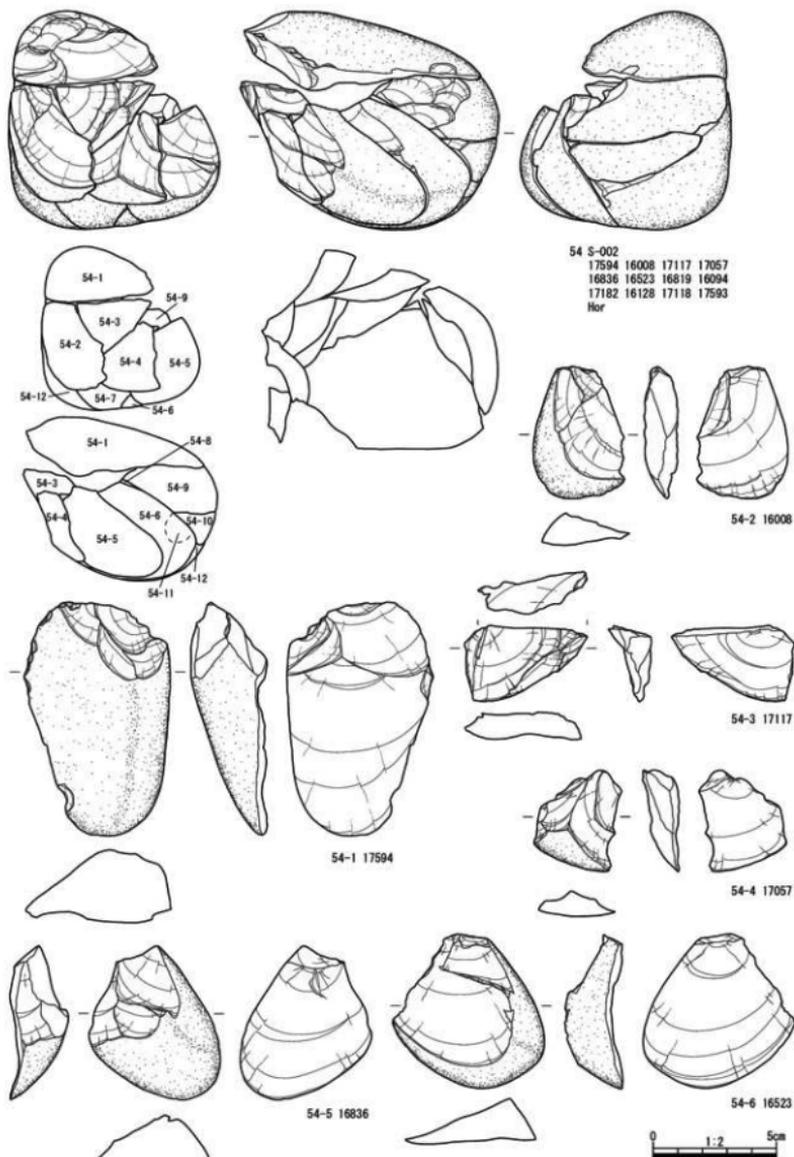
54は石核に剥片11点が接合している。拳大の円礫を素材として剥片剥離を行った経過が原礫に近い状態から把握できる資料である。円礫の小口面を打面として大きな剥片剥離54-1を行い、その剥離面に若干の剥離を加え（剥片無）、これを打面として自然面側から順次縦長の剥片を主体に剥離している（54-2・54-3・54-4・54-5・54-6・54-7・54-8の順）。その後90度の打面転移を行い、54-9・54-10・54-11の順で剥片剥離を行っている。54-12は残置された石核である。ホルンフェルス製である。

55は小型不定形の円礫を素材として剥片剥離を行ったもので、石核と剥片6点が接合している。まず接合図上面を打面として大きな剥片剥離を行い打面とし、接合図上面を作業面として剥片剥離（55-1）を行う。その後90度の打面転移を行い、55-1の剥離面を打面とし、主に小型縦長の剥片剥離を行っている。なお、55-6は55-2の剥片剥離の際、節理面で剥落したものと判断される。55-7は残置された石核である。ホルンフェルス製である。

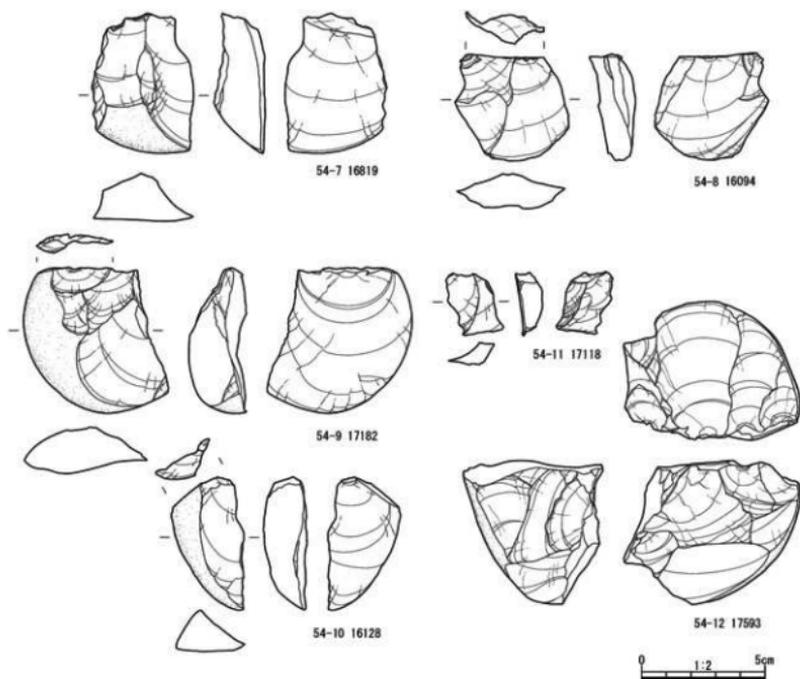
56は小型の円礫を素材として90度の打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行ったもので、石核と剥片4点が接合している。円礫を接合図左上で半載し打面とした上で、小型幅広の剥片剥離（56-1）を行う。その後、90度の打面転移を行い、56-2の大型の剥片剥離を行い打面とし、56-3の剥片剥離を行う。またこの剥離面を打面として小型幅広の剥片56-4の剥離を行っている。56-5は石核である。ホルンフェルス



第38図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料1



第39図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料2

第40図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料3

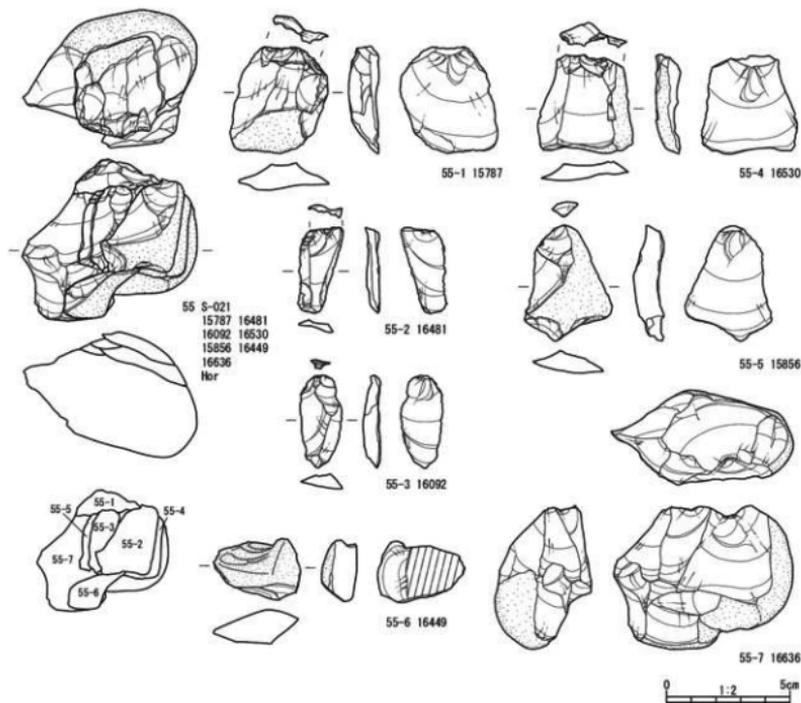
製である。

57は小型の円礫を素材として、剥片剥離を行っており、石核と剥片4点が接合している。接合図上面の剥離面を打面とし、幅広の剥片剥離(57-1)を行った後、90度の打面転移を行い、接合図右側面の節理面を打面として幅広の剥片剥離(57-2)を行う。さらに90度の打面転移を行い、剥片剥離(57-3・57-4)を行っている。この他、接合関係はなかったが、接合図裏面にも縦長の剥片剥離が認められており、打面転移を繰り返して剥片を得ていたことがわかる。57-5は石核である。ホルンフェルス製である。

58は小型の円礫を素材として、剥片剥離を行っており、石核と剥片6点が接合している。接合図左側縁に剥片剥離により打面を形成し小型幅広の剥片剥離(58-1・58-2・58-3・58-4)を主体として行う。その後この作業面を打面として90度の打面転移を行い、剥片剥離(58-6)を行っている。なお、58-5はこれら剥片剥離と前後して行われたと推測されるが、接合面が甘く明確な剥片剥離の順序を特定するには至らなかった。ホルンフェルス製である。

59は円礫を素材として、剥片剥離を行っており、石核と剥片5点が接合している。接合図上面を打面として、やや幅広の剥片剥離(59-1・59-2・59-3・59-4・59-5)を行っている。小口面側を打面としているため、果物の皮を剥くように礫の表面から剥片剥離が行われ、その度に打面が下位に後退して行く様子がうかがえる。59-6は石核である。ホルンフェルス製である。

60は下端に自然面を残す剥片5点が接合している。上面を打面として、幅広の剥片剥離を行っている。



第41図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料4

接合図上、左側から剥片剥離を行い、打点が左から右に移動し（60-1・60-2・60-3）、再度左側に移動している（60-4・60-5）。ただし、60-2・60-3については前後関係が不明である。ホルンフェルス製である。

61は円礫を素材として剥片剥離を行っており、剥片3点が接合している。接合図右側面を打面として形成された剥離面（接合図表面）を打面として、幅広の剥片剥離（61-1・61-2・61-3）を行っている。ホルンフェルス製である。

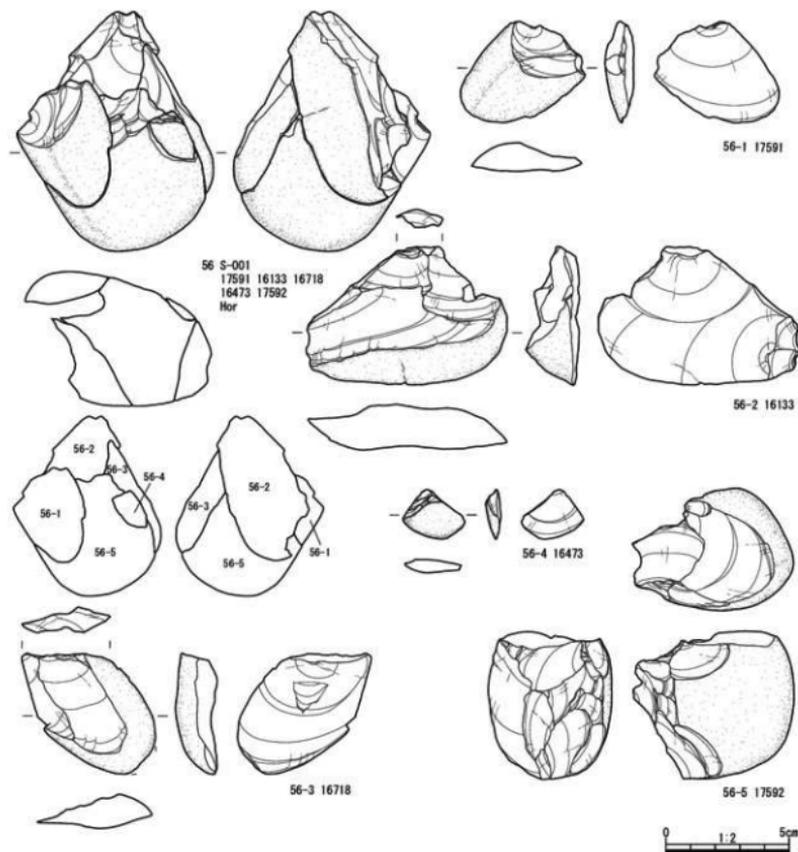
敲石

62は平面隅丸三角形に近い扁平な円礫を用い、側面の三角形の各頂点付近に敲打痕が認められる。角閃石安山岩製である。

63は平面隅丸台形に近い円礫を用い、上端両隅及び下端部に敲打痕が認められる。ひん岩製である。

64・65は平面長楕円形を呈する円礫を用い、64は下端部に、65は上下端に敲打痕が認められる。64は敲打痕が数回程度と推測され、使用頻度は非常に少ないものと判断される。64は閃緑岩製、65は砂岩（中粒）製である。

66は平面水滴形を呈する円礫を用い、上下端に敲打痕が認められる。砂岩（中粒）製である。67は平面楕円形を呈する円礫を用い、下端に敲打痕が認められる。砂岩（中粒）製である。



第42図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料5

台石

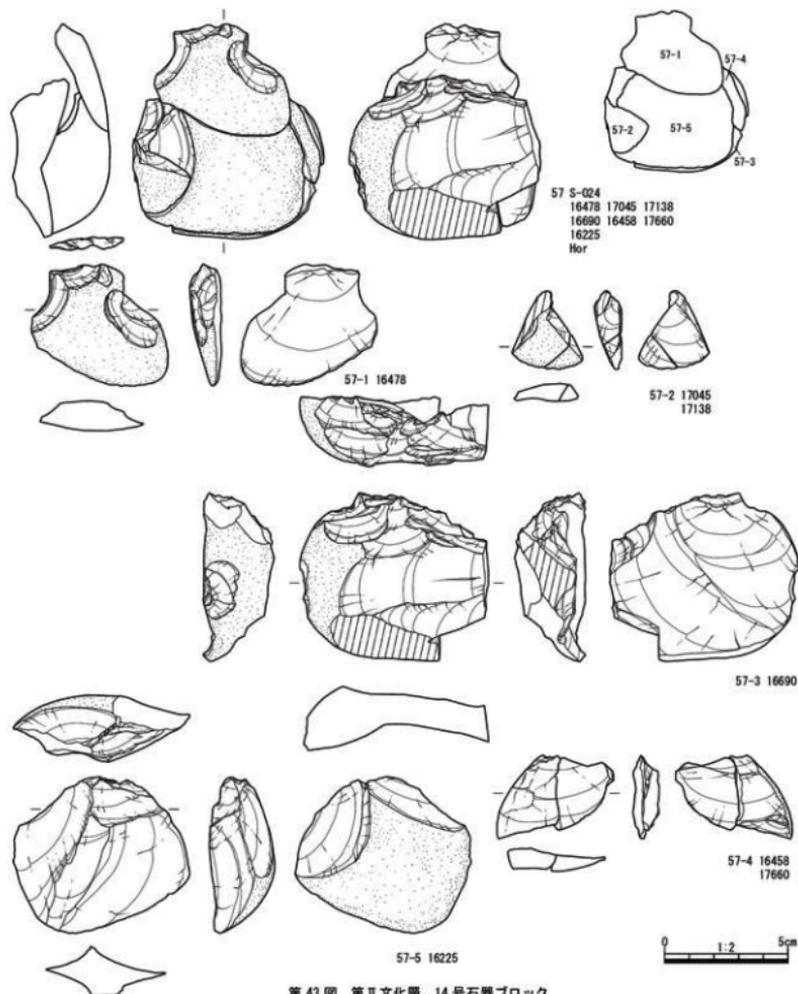
68・69・70は平面長楕円形を呈する扁平な大型円礫であり、明確な使用痕は認められないものの、石器製作時の台石と判断した。68はひん岩製、69・70は砂岩（中粒）製である。

3 遺構外出土の遺物

遺構外の遺物は32点出土した。内訳はナイフ形石器3点、二次加工のある剥片2点、石刃3点、剥片類24点である。

71は縦長剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器である。打点側を基部に用い、右側縁下部及び左側縁上端及び下半部に剥離調整を施す。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

72は小型の剥片を斜位に用い、左側縁及び右側縁下半に剥離調整を施す二側縁加工のナイフ形石器で

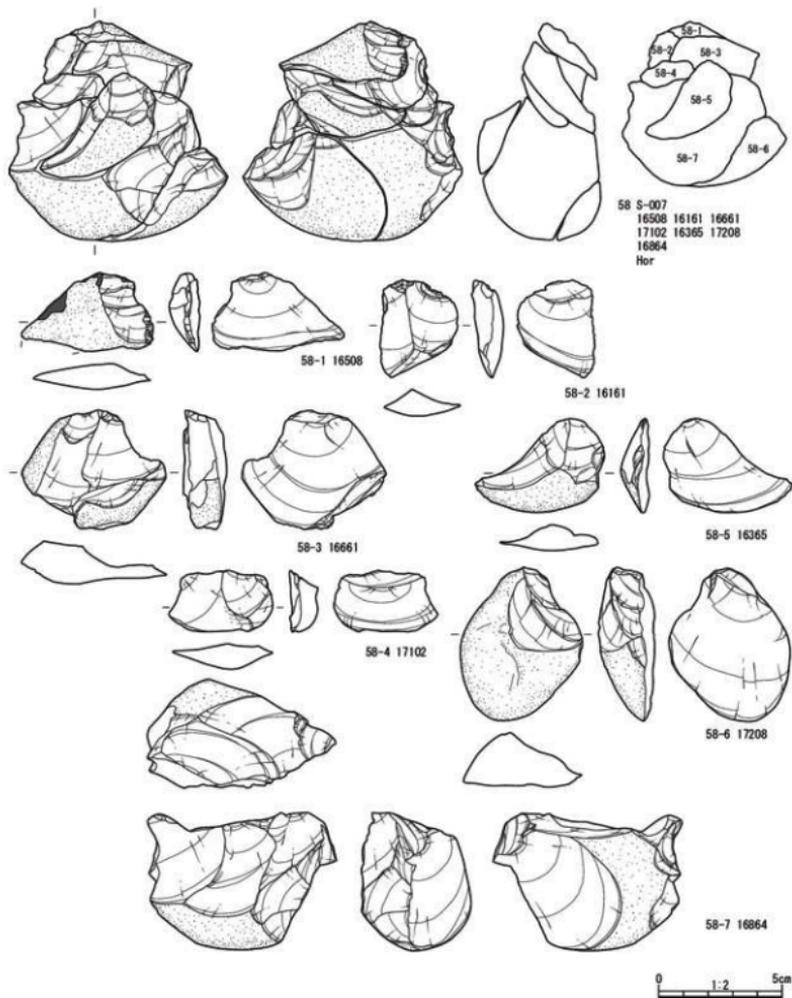


第43図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料6

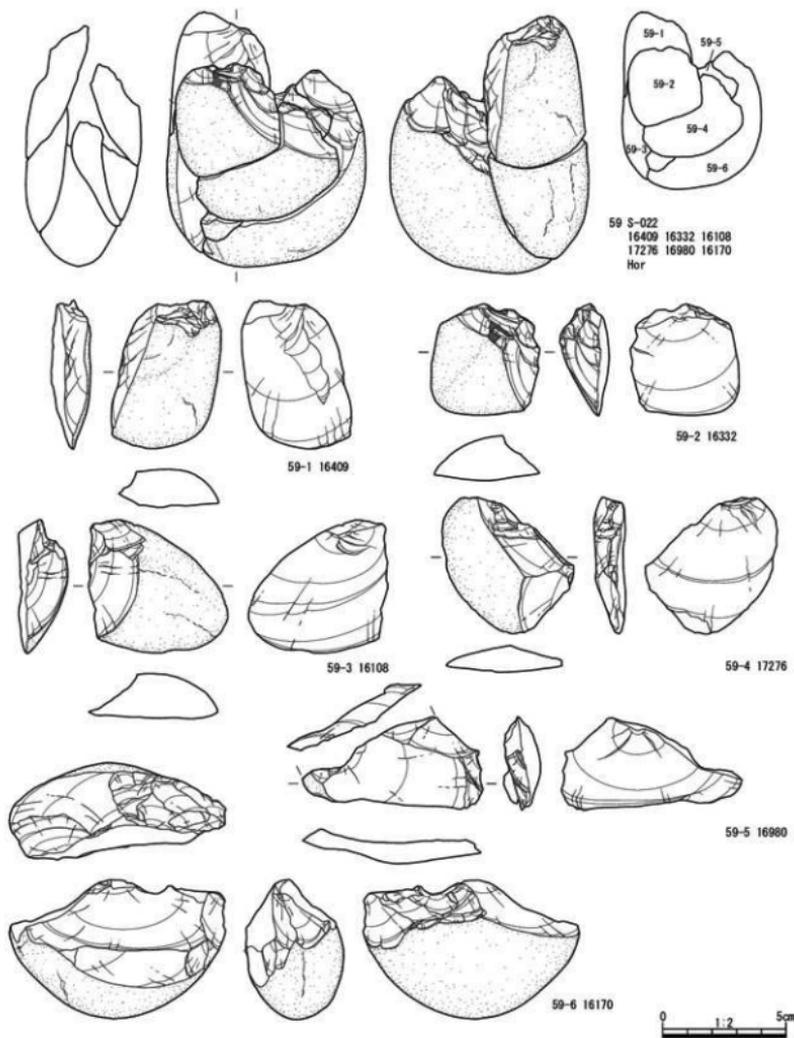
ある。右側縁上半の刃部には使用痕とみられる微細な剥離が認められる。黒曜石（天城柏峠群）製である。

73は厚みがある縦長の剥片を素材として、周縁部に剥離調整を加えている。上半部が欠損するが周縁部の加工からナイフ形石器の基部と判断した。素材剥片の打点部を残し基部側に用いている。黒曜石（蓼科冷山群）製である。

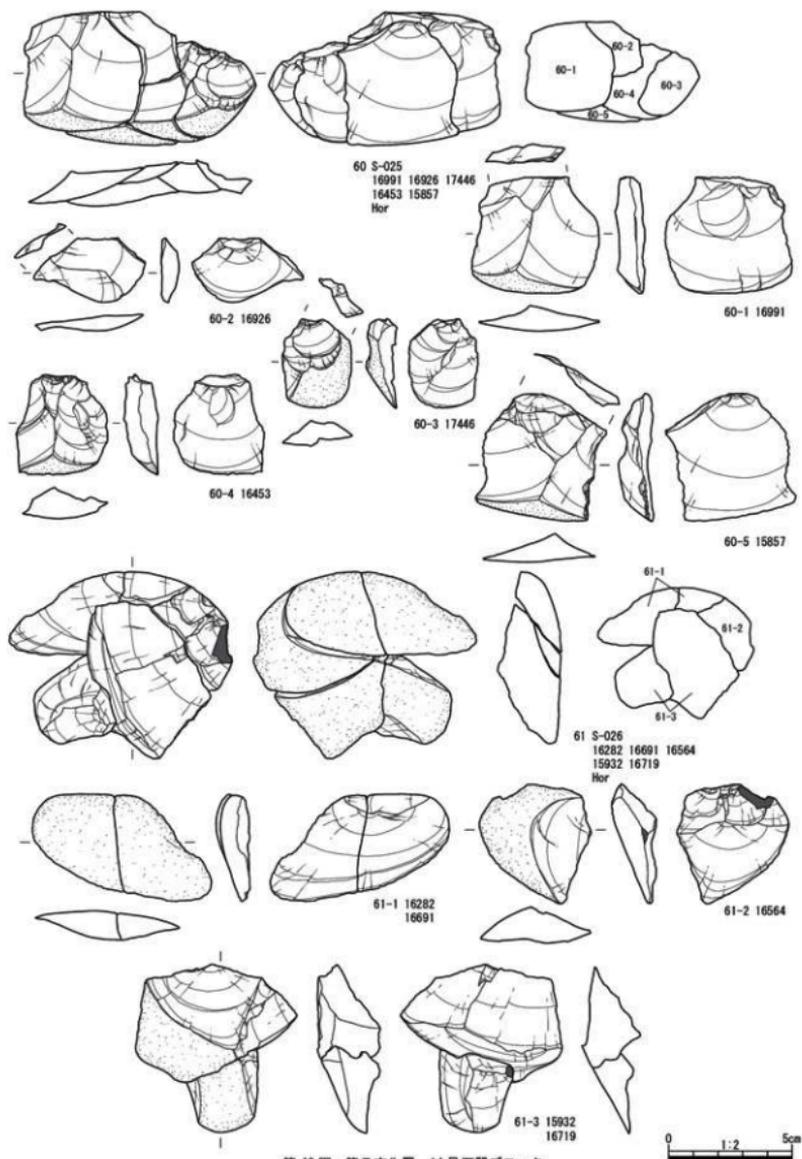
74は180度の打面転移により剥片剥離を行って得られた大型の石刃である。ホルンフェルス製である。



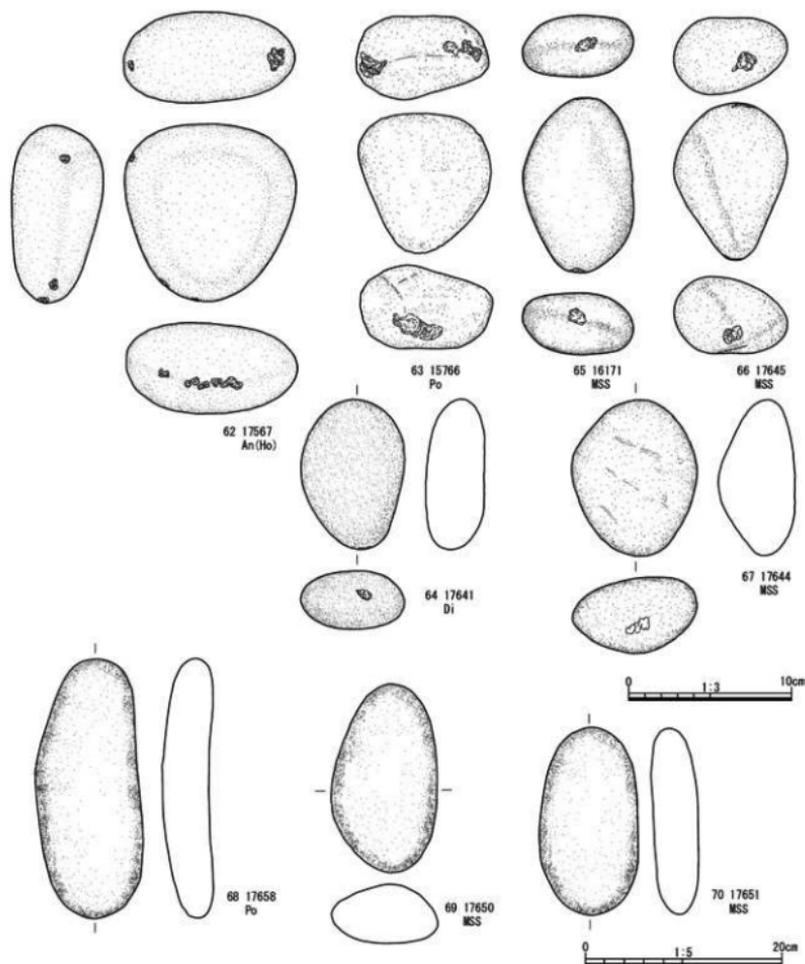
第44図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料7



第45図 第II文化層 14号石器ブロック
接合資料8



第46図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
接合資料9

第47図 第Ⅱ文化層 14号石器ブロック
礫石・台石

第3表 第Ⅱ文化層 石器ブロック一覧

遺構名	検出面	グリッド	規模 (m)	
			長軸	短軸
8号石器ブロック	SBL08	BBⅡSCⅡ BBⅢSCⅢ	T-5-6 U-5-6	9.20 5.84
9号石器ブロック	SBL09	BBⅢ	U-6-7 T-6	8.96 8.72
11号石器ブロック	SBL11	BBⅡSCⅡ BBⅢSCⅢ	V-5-6 U-6	13.20 8.60
14号石器ブロック	SBL14	SCⅠBBⅠNL BBⅡSCⅡBBⅢ	AG-12-13-14 AE-13 AF-12-13-14	29.20 22.50

第4表 第II文化層 石器ブロック組成表

8号石器ブロック

器種/石材別

		器種					合計
		スクレイパー	石刀	R F	U F	剥片・砕片	
石材	Ob	AGKT	1	1		12	15
		SWHD	1		1	7	9
		WDTY				1	1
		推定不可				3	3
		Hor				26	28
		Rby	1				1
合計		1	2	1	1	49	57

炭化物:184点

器種/層位別

		器種					合計
		スクレイパー	石刀	R F	U F	剥片・砕片	
層位	BB II					7	7
	SC II					1	1
	BB III	1	2		1	40	3 47
	SC III		1			1	2
合計		1	2	1	1	49	57

石材/層位別

		石材					合計
		Ob	AGKT	SWHD	WDTY	推定不可	
層位	BB II	1	2				4
	SC II						1
	BB III	13	7	1	2	23	1 47
	SC III	1			1		2
合計		15	9	1	3	28	1 57

9号石器ブロック

器種/石材別

		器種				合計
		石刀	R F	U F	剥片・砕片	
石材	Ob	AGKT	3	2		14
		SWHD			1	4
		未分析				2
		Hor	1	1		1
		Da				2
合計		4	2	1	21	28

炭化物:146点

石材/層位別

		石材				合計
		Ob	AGKT	SWHD	未分析	
層位	BB III	19	5	2	2	28
	合計	19	5	2	2	28

器種/層位別

		器種				合計
		石刀	R F	U F	剥片・砕片	
層位	BB III	4	2	1	21	28
	合計	4	2	1	21	28

11号石器ブロック11

器種/石材別

		器種					合計
		ナイフ形石器 <th>網形石器 <th>R F</th> <th>U F</th> <th>剥片・砕片</th> </th>	網形石器 <th>R F</th> <th>U F</th> <th>剥片・砕片</th>	R F	U F	剥片・砕片	
石材	Ob	AGKT				17	17
		WOTM	2			2	4
		推定不可				1	1
		未分析				1	1
		Hor	1	1	1	32	35
		Da					1
合計		1	2	1	1	58	59

炭化物:128点

石材/層位別

		石材					合計
		Ob	AGKT	WOTM	未分析	Hor	
層位	BB II	1					5
	SC II		1				1
	BB III	8	1			13	22
	SC III	8	2	1	1	16	1 29
合計		17	4	1	1	35	1 59

器種/層位別

		器種					合計
		ナイフ形石器 <th>網形石器 <th>R F</th> <th>U F</th> <th>剥片・砕片</th> </th>	網形石器 <th>R F</th> <th>U F</th> <th>剥片・砕片</th>	R F	U F	剥片・砕片	
層位	BB II					6	6
	SC II		1			1	1
	BB III	1				21	22
	SC III	1	1	1	1	25	1 29
合計		1	2	1	1	53	1 59

14号石器ブロック

器種/石材別

		器種							合計	
		スクレイパー	網形石器	石刀	石棒状剥片	両面剥片	R F	U F		
石材	Ob	AGKT						1	8	9
		TSTY	9					3	1	387
		WDTY						1		1
		推定不可							368	368
		Hor		5	1			6	1	820
		GAn	1	2					3	51
		Sh							2	2
		SSH(DG)					2	2	162	1
		MSS							3	2
		Di							1	1
		Ant(Ho)							1	1
		Po							1	1
	合計		1	9	7	1	1	11	8	1798

器種/層位別

		器種										合計
		スクレイパー	網形石器	石刀	石棒状剥片	両面剥片	R F	U F	剥片・砕片	石棒	網石	
層位	SC I										1	1
	BB I	2	1		1	1	1	152	2			160
	NL	1	2	4		1	3	1	229	3		244
	BB II	4	2			4	4	595	8	2		619
	SC II	1		1		3	2	813	10	4	3	837
	BB III							8				8
合計		1	9	7	1	1	11	8	1798	23	6	3 1868

石材/層位別

		石材										合計			
		Ob	AGKT	TSTY	WDTY	推定不可	Hor	GAn	Sh	SSH(DG)	MSS		Di	An(Ho)	Po
層位	SC I														1
	BB I	3	52		32	78	1		14						160
	NL	1	61	1	19	133	9	2	18						244
	BB II	5	112		96	323	30	51	1						1 619
	SC II	1	178		240	313	16	83	4	1	1	1			837
	BB III	3			1	2	1								8
合計		9	406	1	368	850	57	2	167	5	1	1	2	1868	

75は同一方向から連続剥離して得られた大型の石刃である。右側縁下半には自然面を残している。ホルンフェルス製である。

76は180度の打面転移により剥片剥離を行って得られたやや小型の石刃である。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

77は平面台形状を呈するやや厚みがある剥片の下端部に二次加工が認められることから二次加工のある剥片と判断した。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

78は自然面を打面として得られた縦長の剥片の左側縁裏面に二次加工が認められることから二次加工のある剥片と判断した。右側縁は折損により失われているようである。黒曜石（天城柏峠群）製である。

79は断面台形状を呈する厚みがある剥片である。左側縁上半には自然面を残している。黒曜石（調訪星ヶ台群）製である。

第5表 第Ⅱ文化層 石器組成表

器種/石材別		器種										合計	
		ナイフ形石器	スタレイバー	楕形石器	石刃	R.P.	U.P.	石核持付剥片	両側面剥片	剥片・砕片	石核	黒石	白石
		石材	AGKT	1		4	3	2				54	2
HSHJ				1	1								2
SWHD	1		1		2					12			16
TSTY	1		9	3	1	1				390	5		410
WDTY								1	1				2
WOTM			2							2			4
産定不可										373			373
未分析										3			3
Hoz	1			8	7	2		1		894	19		932
GAn			1	2	3					51			57
Sh										2			2
SSH(DG)				2	2					162	1		167
SSI										1			1
MSS											3	2	5
Rhy				1									1
Ds											1	1	
Ds											1	1	
An(Ho)											1	1	
Po											1	1	
合計		4	2	11	16	16	12	1	1	1945	27	6	4

器種/層位別		器種										合計	
層位		ナイフ形石器	スタレイバー	楕形石器	石刃	R.P.	U.P.	石核持付剥片	両側面剥片	剥片・砕片	石核	黒石	白石
		SC I									4		
BB I	1	2	1	2	1	1			158	2			168
NL	1	2	4	3	1		1		232	3			247
BB II	1	4	5	4	4				613	9	2		641
SC II	2	2	4	2	1				816	10	4	3	842
BB III	1	1	6	1	3				92	3			107
SC III	1	1	1	1					12				15
SC III S1	1		1						16				17
SC III b1	2												1
SC III S2									2				2
SC III S3												1	1
合計		2	11	16	16	12	1	1	1945	27	6	4	2046

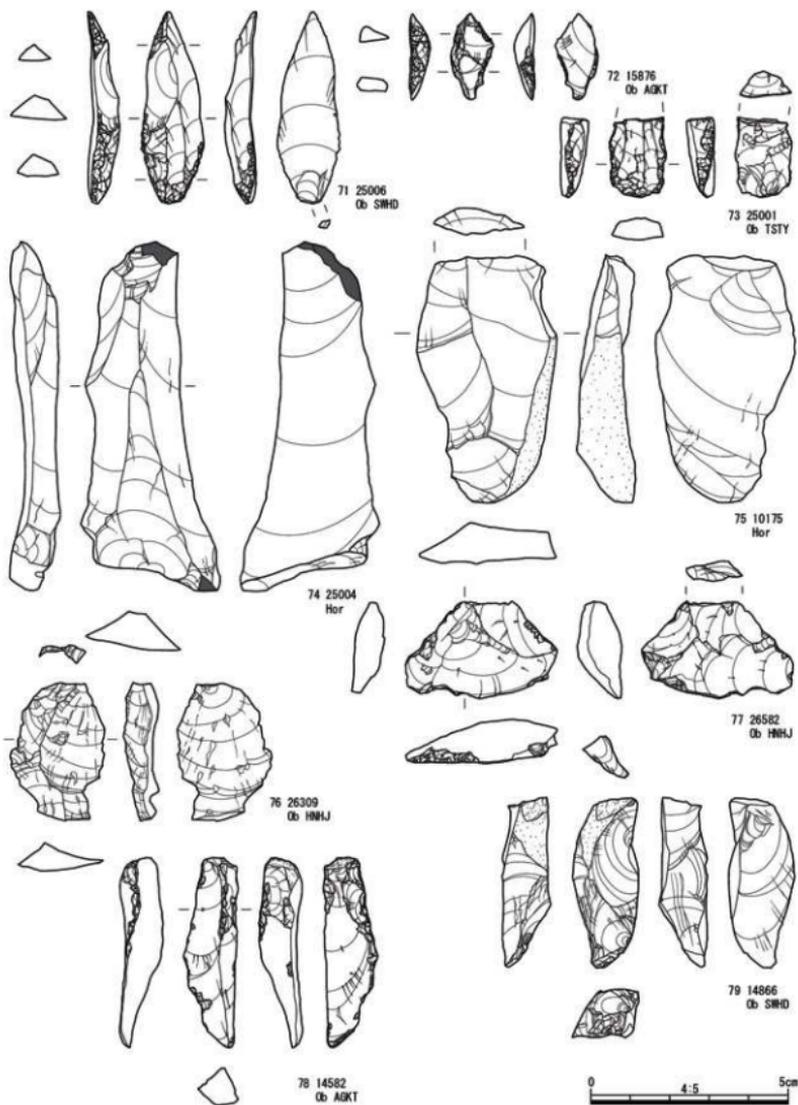
石材/層位別

石材/層位別		石材													合計						
		Ob																			
		A G K T	H S H J	S W H D	T S T Y	W D T M	産定不可	未分析	H o z	G A n	S S h	S S h (D G)	M S S	R h y	D s	A n (H o)	P o				
層位	SC I	1							3									4			
	BB I	5	1	52		12		83	1	14								168			
	NL	2	1	63	1	19		133	9	2	18						1	247			
	BB II	8	1	2	113	96		337	30	51	1	1					1	641			
	SC II	1	1	178		1240		319	16	83	4				1	1	1	842			
	BB III	40	12	3	1	1	3	2	42	1	1							107			
	SC III							14										15			
	SC III S1	9				1	1	1	5									17			
	SC III b1		1	1														2			
	SC III S2					2												2			
SC III S3														1			1				
合計		66	2	16	410	2	4	373	3	832	57	2	167	1	5	1	1	1	1	2	2046

第6表 第Ⅱ文化層 礫組成表

石材/層位別		石材					合計
層位		B a	A V A N (Y)	F S S	C S S	C o n	
		SC I	1	1			
BB I	3	1				4	
BB II	1	7			1	9	
SC II	5	1				6	
BB III	2	1				3	
SC III	5	2	1	1	1	9	
合計	9	18	2	1	1	32	

*BBIII AN(PY) 2点はBL08-BL115から出土



第48図 第Ⅱ文化層
ナイフ形石器・石刃・二次加工のある剥片・剥片

第4節 第III文化層

土坑6基、石器ブロック3基、礫群9基、石器1,125点で構成される文化層である。検出層位は休場層を主体として、休場層直下黒色帯から黒色土層に及ぶ。一部は第IV文化層及び縄文時代以降の遺構・遺物と重複して検出されているため、細石刃に由来する石器及び休場層出土の神津島恩馳島群の黒曜石は除外して文化層として認定を行った。よって、遺構及び礫、並びに石器の一部については第IV文化層または縄文時代以降と混在している可能性がある。

1 土坑 (第51・52図 第7表)

27号土坑 (SP027)

テストピットTP1掘削中に検出された大型の土坑である。推定長径2.52m、推定短径2.28mのほぼ円形を呈し、検出深度は1.84mである。断面逆台形を呈し、平坦な底面から外開き気味に直線的に開く壁面を有する。土坑の埋没状況は壁面周囲に壁面崩落土と考えられる土層が堆積した後、レンズ状を呈する自然堆積であると判断される。検出層位は休場層上位で、土坑底面は第II黒色帯にまで及ぶ。なお、覆土最上層の第1層は富士黒土層～漸移層相当層と考えられている上、検出面との間に不整合も認められないことから、検出層位は当時の掘削面から遠くないものと判断される。また、覆土各所のサンプリングを行い、自然科学分析（テフラ組成分析、植物珪酸体分析、花粉分析、寄生虫卵分析、種実同定分析）を行った（附編参照）。

86号土坑 (SP086)

長径1.03m、短径0.82m、深さ0.96mの平面円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。土坑中央やや南寄りから径8cm程度の小穴が1基検出されており、逆茂木痕である可能性がある。検出層位は休場層下位である。土坑覆土はレンズ状の自然堆積を示しており、覆土最上層は休場層上位相当層と判断される。

81号土坑 (SP081)

長径1.14m、短径1.00m、深さ1.48mの平面やや不定形な楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。検出層位は休場層中位である。土坑覆土はレンズ状の自然堆積を示しており、覆土最上層は休場層中位相当層と判断される。

36号土坑 (SP036)

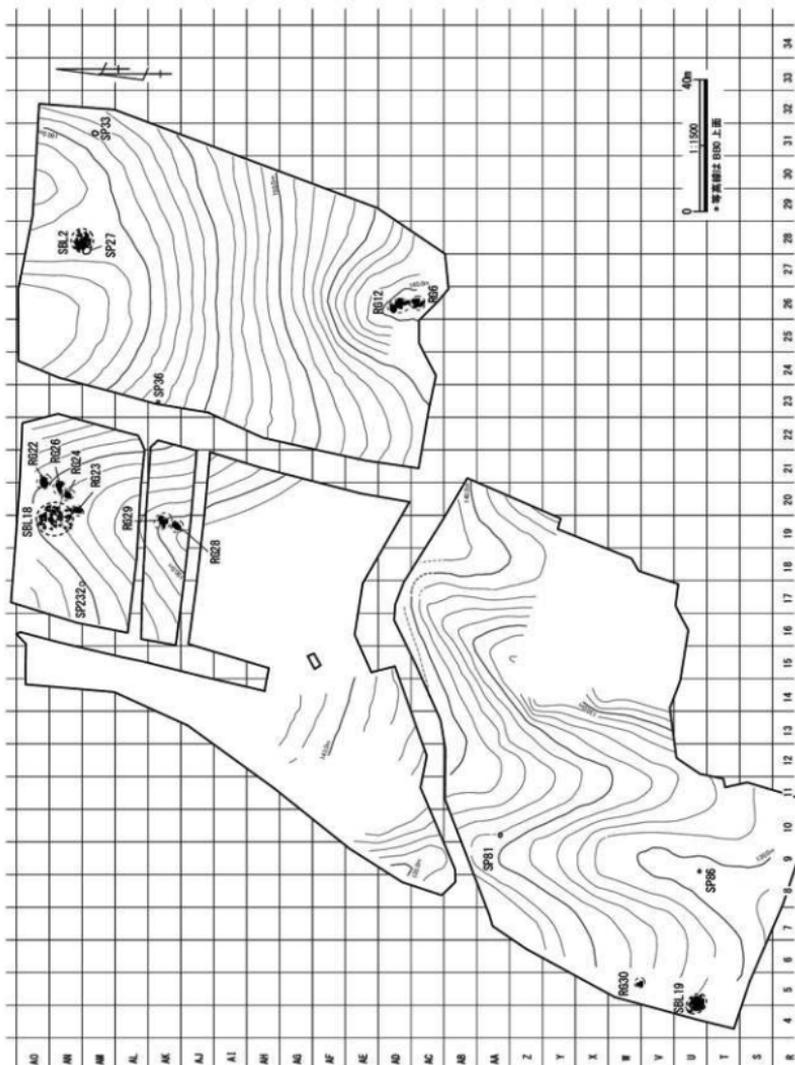
長径0.93m、短径0.88m、深さ0.87mの平面やや不定形な楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から直立して立ち上がる壁面を有する。検出層位は休場層下位黒色帯である。土坑覆土はレンズ状の自然堆積を示しており、覆土最上層は漸移層相当層と判断される。

33号土坑 (SP033)

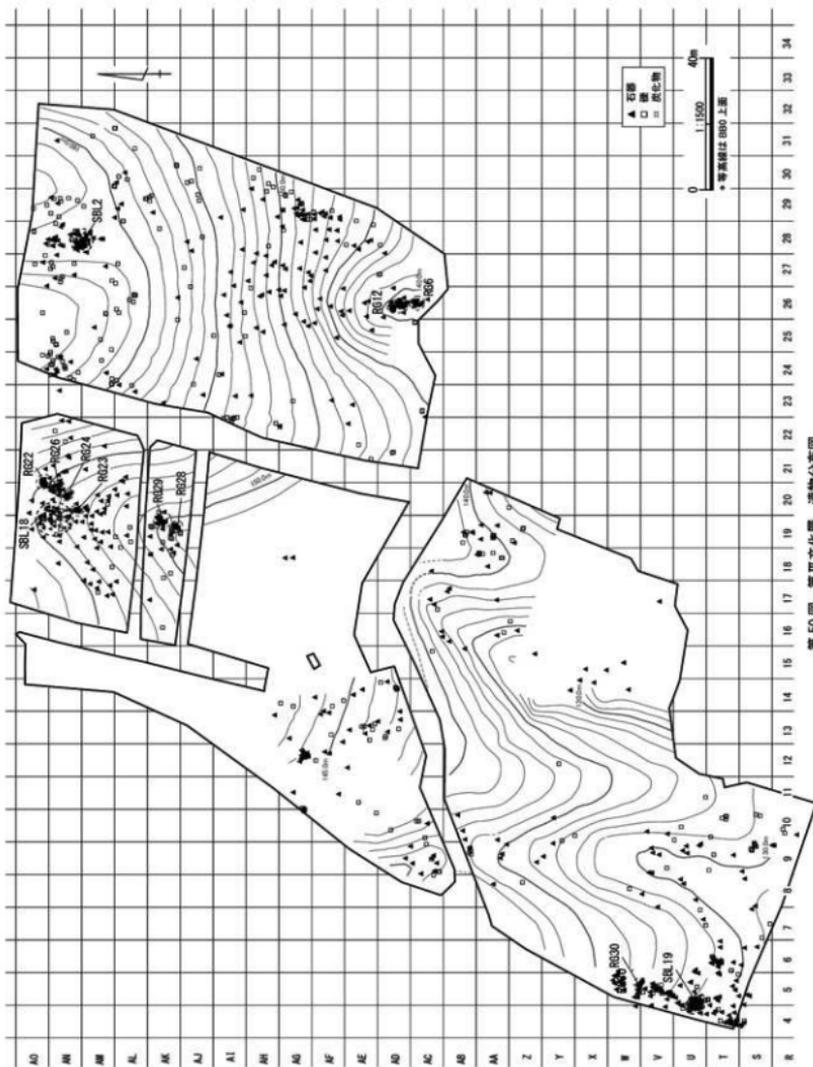
長径1.95m、短径1.39m、深さ0.78mの平面やや不定形な長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に立ち上がる壁面を有する。検出層位は休場層下位黒色帯である。土坑覆土はレンズ状の自然堆積を示しており、覆土最上層は富士黒土層相当層と判断される。

232号土坑 (SP232)

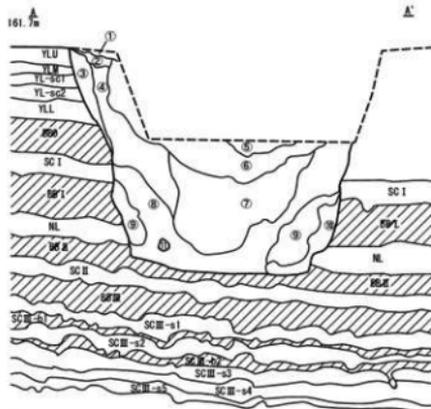
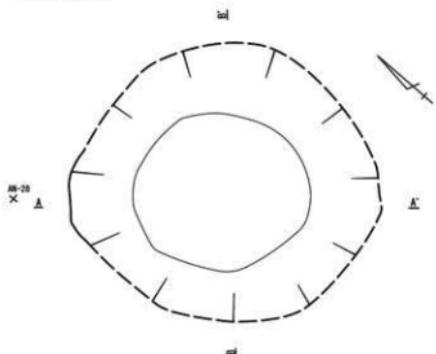
長径1.16m、推定短径0.84m、深さ0.52mの平面推定長楕円形を呈する土坑である。平坦な底面から上外方に立ち上がる壁面を有する。検出層位は第Iスコリア帯である。土坑覆土はレンズ状の自然堆積を示しており、覆土最上層は富士黒土層、休場層、第I黒色帯相当層の混土と判断される。



第49圖 新III文化層 遺構全体圖



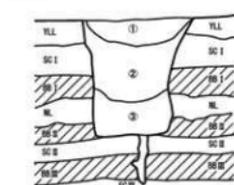
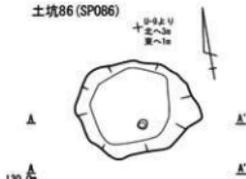
土坑 27 (SP027)



- ① 暗褐色ローム層 10YR 3/3
赤褐色スコリアをわずかに含む。FR~2層に類似。
- ② 明褐色ローム層 7.5YR 3/2
2層当り、赤褐色スコリアをわずかに含む。①に比べ若干明るい。粘性無し。
- ③ スコア層 7.5YR 3/2
赤褐色スコリアをわずかに含む。2層に類似。②に比べ若干明るい。粘性無し。
- ④ 明褐色ローム層 10YR 4/6
YLL相当。赤褐色スコリアをわずかに含む明るいローム質土。粘性強い。
- ⑤ 明褐色ローム層 7.5YR 4/6
2層相当。極めて密く締まった赤褐色スコリアを含むローム層土。
- ⑥ 明褐色ローム層 7.5YR 4/6
2層相当。密く締まった赤褐色スコリアを少量含むローム質土。⑤に比べると締まりは無し。
- ⑦ 明褐色ローム層 10YR 4/6
赤褐色スコリアをわずかに含む明るいローム質土。
他の層に比べ粘性がかなり強い。30~60mmの
体積層スコリア1・2のブロックをわずかに含む。
- ⑧ 褐色ローム層 10YR 5/8
暗褐色赤褐色スコリア・赤褐色スコリア
を合わせて10%程度含むローム質土。
- ⑨ スコア層 5YR 4/8 SC I層の旗層土。
- ⑩ 褐色ローム層 10YR 5/8
⑧に似たローム質土。⑧に比べやや粘性が強い。暗褐色赤褐色スコリア・
赤褐色スコリアを合わせて少量含む。
- ⑪ 褐色ローム層 10YR 5/8
⑧に似たローム質土。暗褐色赤褐色スコリア・
赤褐色スコリアを合わせて少量含む。



土坑86 (SP086)



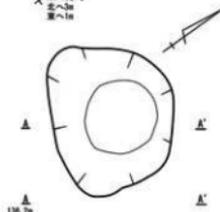
- ① 明黄褐色土 YLL相当。
- ② 黄褐色土 YLL相当。
- ③ 暗黄褐色土 YLL相当。締まり強い。



第51図 第Ⅲ文化層 土坑1

土坑 81 (SP081)

× AA-10より
北へ2m
東へ1m

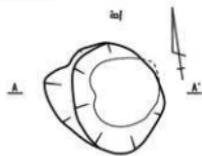


136.2m

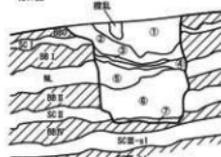


- ① 黄褐色土 YLM相当。1cm程の褐色スコリアをわずかに含む。粘性・締まり有り。
② 黄褐色土 YLM相当。1cm程の褐色スコリアを多く含む。粘性・締まり有り。
③ 暗黄褐色土 YLL相当。1cmの黒褐色スコリアを多く含む。

土坑36 (SP036)

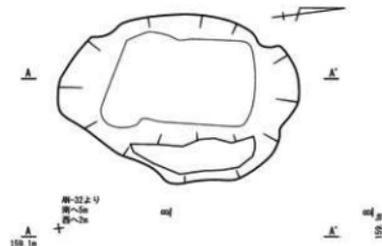


157.5m

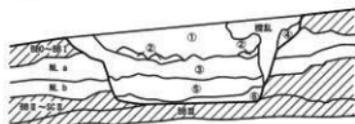


- ① 黄褐色土 YLM相当。1cm程の褐色スコリアをわずかに含む。粘性・締まり有り。
② 黄褐色土 YLM相当。1cm程の褐色スコリアを多く含む。粘性・締まり有り。
③ 暗黄褐色土 YLL相当。1cmの黒褐色スコリアを多く含む。

土坑33 (SP033)

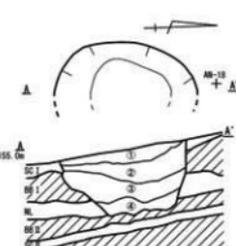


150.1m

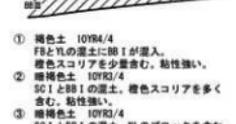


- ① 暗褐色土 YLL相当。1~5cm程度の赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・締まり有り。
② 黄褐色土 YLM相当。1~2cmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・締まり有り。
③ 黄褐色土 YLM相当。15~30cmのSC Iのブロックをわずかに含む。粘性・締まり有り。
④ 黄褐色土 YLM~YLL相当。1~2cmの赤褐色スコリアをわずかに含む。粘性・締まり有り。
⑤ 黄褐色土 YLとSC Iの混土。粘性やや有り。締まり有り。
⑥ 褐色土 BB0層の腐葉土。粘性有り。締まりやや有り。

土坑232 (SP232)



156.0m



- ① 褐色土 10YR4/4 FRとVLの混土にBB Iが混入。褐色スコリアを少量含む。粘性強い。
② 暗褐色土 10YR3/4 SC IとBB Iの混土。褐色スコリアを多く含む。粘性強い。
③ 暗褐色土 10YR3/4 SC IとBB Iの混土。VLのブロックを含む。粘性強い。
④ 褐色土 10YR4/4 VLとBB Iの混土。褐色スコリアを含む。粘性強い。

0 1:40 2m

第52図 第三文化層 土坑2

第7表 第三文化層 土坑一覽

遺構名	検出面	グリッド	規模(m)			平面形状	
			長径	短径	深さ		
土坑27	SP027	YLU	AM-28	2.52	2.28	1.84	(円形)
土坑86	SP086	YLL	U-9	1.03	0.82	0.96	(円形)
土坑81	SP081	YLM	AA-10	1.00	1.14	1.48	不定形
土坑36	SP036	BB0	AK-23	0.93	0.88	0.87	不定形
土坑33	SP033	BB0	AM-31	1.95	1.39	0.78	不定形
土坑232	SP232	SC I	AL-18	1.16	0.84	0.52	(楕円)

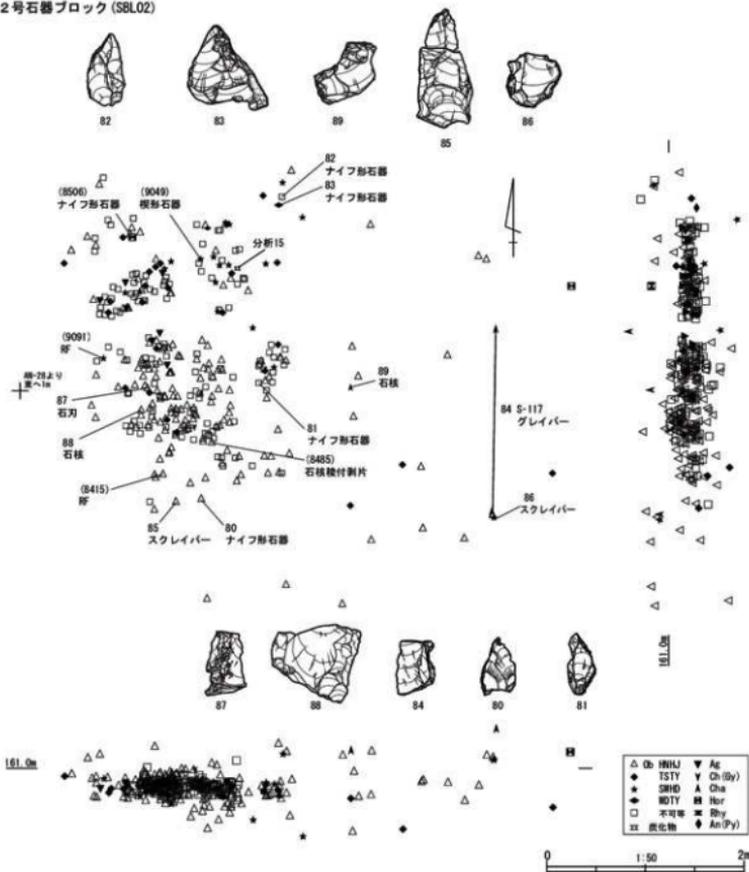
2 石器ブロック (第53・55・58図 第8表)

2号石器ブロック (SBL02)

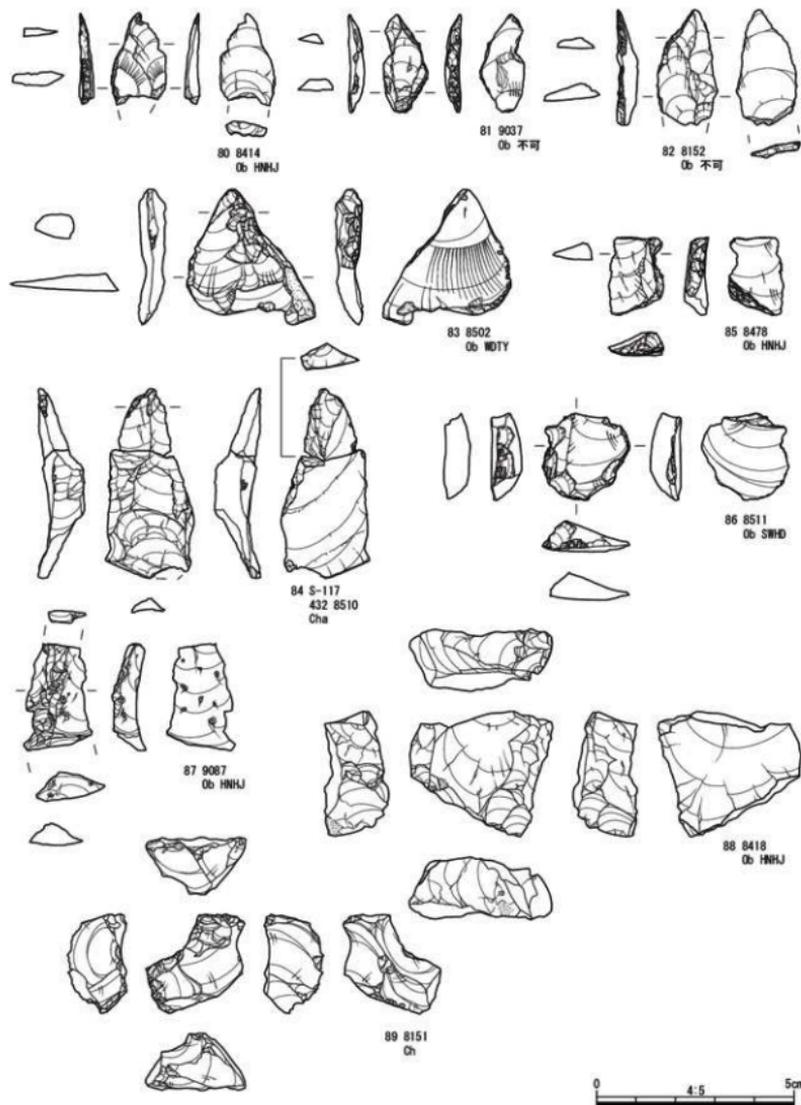
谷部において長径9.20m、短径5.84mの範囲に石器340点が集中して出土しており石器ブロックと認定した。検出層位は休場層直下黒色帯、富士黒土層に各1点が認められる以外は全て休場層出土である。27号土坑が近接している。

石器組成は、ナイフ形石器5点、スクレイパー2点、グレイバー2点、楔形石器1点、石刃1点、石核2点、石核稜付剥片1点、二次加工のある剥片2点、剥片・砕片324点の合計340点で構成される。石材組成は黒曜石製325点（箱根畑宿群157点、諏訪屋ヶ台群18点、蓼科冷山群24点、和田鷹山群2点、推定不可35点、未分析89点）、瑪瑙製8点、チャート製4点、チャート（灰色）製1点、ホルンフェルス

2号石器ブロック (SBL02)



第53図 第三文化層 2号石器ブロック



第54図 第III文化層 2号石器ブロック
ナイフ形石器・グレイバー・スクレイパー・石刃・石核

製2点であり、黒曜石中でも箱根畑宿群を主体とした石器群である。なお、ブロック中から炭化物1点が発見されており、放射性炭素年代測定（AMS測定）を実施し、18,740±50yrBPという結果を得た（附編参照）。

出土遺物（第54図）

ナイフ形石器

80は小型の縦長の剥片を素材として打点側を基部に用い左側縁下半及び右側縁下端に二次加工を加える。基部を欠損する。黒曜石（箱根畑宿群）製である。81は小型の縦長の剥片を素材として打点側を基部に用い左側縁及び右側縁下半に二次加工を加える。基部を欠損する。黒曜石（推定不可）製である。82は小型の縦長の剥片を素材として打点側を基部に用い左側縁に二次加工を加える。基部を欠損する。黒曜石（推定不可）製である。83は幅広の剥片を素材として打点側を先端部に用い打点部を除去した右側縁上半に二次加工を加える。左側縁中央部の刃部には使用痕とみられる微細な剥離が認められる。形状が不整形であり、刃部位置も一般的なナイフ形石器とは異なり天地も不明瞭であるが、二次加工位置と刃部の位置関係からナイフ形石器と判断した。黒曜石（和田鷹山群）製である。

グレイバー

84は縦長の剥片を素材として、打点部を除去した剥離面を活用しながら先端部の左右側縁に二次加工を加え彫刀面を形成している。中位上半付近で表面からの加撃により折損したものと推測されるが、両破片は約2m離れた箇所の資料が接合している。チャート製である。

スクレイパー

85は小型の縦長の剥片を素材として右側縁に二次加工を加え抉り状の刃部を形成する。下端部は剥片を斜位に加工しており、この剥離面には潰れが認められる。黒曜石（箱根畑宿群）製である。86は打点部を除去したやや幅広の剥片を素材とし、左側縁から下端部にかけて二次加工を施し刃部を形成する。刃部には使用痕とみられる微細な剥離が認められる。黒曜石（諏訪星ヶ台群）製である。

石刃

87は小型の石核から得られた石刃である。打点部は折損して失われている。黒曜石（箱根畑宿群）製である。

石核

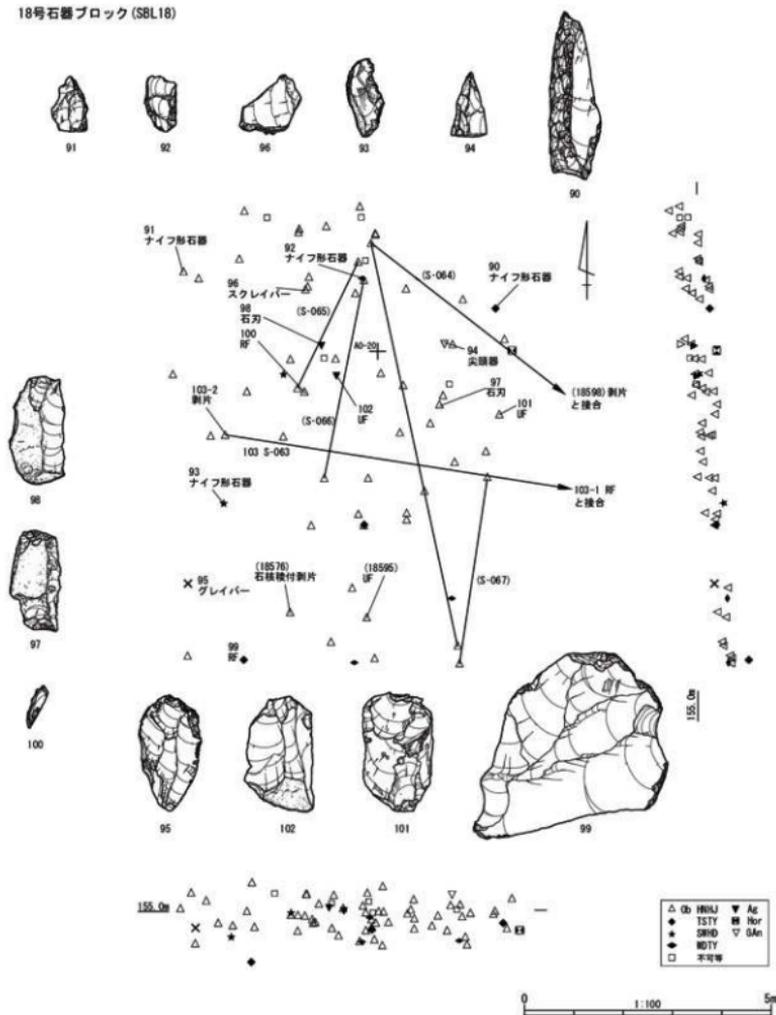
88は打面転移を繰り返し小型化した石核である。やや厚みがある大型の剥片を素材とし、その側面周囲4面を作業面として小型縦長の剥片を主として剥離していたことが確認できる。上面の作業面打面側端部には打面調整が認められる。黒曜石（箱根畑宿群）製である。89は打面転移を繰り返し小型化した石核である。小型幅広の剥片を主として剥離していたと考えられる。表面上端及び左側縁下端には打面調整が認められる。チャート製である。

18号石器ブロック（SBL18）

谷部において長径13.20m、短径8.60mの範囲に石器73点が集中して出土しており石器ブロックと認定した。検出層位は休庵層である。22・26・24・23号礫群が近接している。

石器組成は、ナイフ形石器4点、尖頭器1点、スクレイパー1点、グレイバー1点、石刃2点、石核稜付剥片1点、二次加工のある剥片2点、使用痕のある剥片3点、剥片・碎片58点の合計73点で構成される。石材組成は黒曜石製70点（箱根畑宿群55点、諏訪星ヶ台群2点、蓼科冷山群3点、和田鷹山群4点、推定不可4点、未分析1点）、ガラス質黒色安山岩製1点、瑪瑙製2点、ホルンフェルス製1点であり、黒曜石中でも箱根畑宿群を主体とした石器群である。

18号石器ブロック (SBL18)



第55図 第三文化層 18号石器ブロック

出土遺物 (第56・57図)

ナイフ形石器

90は中央に高い稜をもつ断面三角形を呈する大型の縦長剥片を素材として、左側縁及び右側縁下半に